

「認知症の人の行方不明や事故等の未然防止のための
見守り体制構築に関する調査研究事業」

報告会

主 催 : 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

開催地・時間 : 平成 30 年 3 月 5 日 (月) 13:00 ~ 16:30

フクラシア品川クリスタルスクエア 2F

プログラム

13:00	挨拶	老健事業検討委員会 和田 敏明 委員長												
	第 1 部 事業報告	認知症介護研究・研修東京センター												
13:40	パイロット報告① 静岡県湖西市	湖西市健康福祉部長寿介護課 古川 恵 氏 小柳 亜紀 氏 静岡県健康福祉部福祉長寿局長寿政策課 渡邊 敏宏 氏												
14:00	パイロット報告② 福岡県みやこ町	みやこ町地域包括支援センター 種生 宣隆 氏 田中 浩美 氏 島田 美和 氏												
14:20	ポスター報告者紹介													
14:25	休憩・資料閲覧・移動													
	第 2 部	効果的な取組を展開している市区町村の活動紹介												
14:35 (30分)	ポスター報告① 情報交換	<table border="0"> <tr> <td>第1会場 自地域の多様な資源による体制づくり</td> <td>第2会場 個別支援を向上させる体制づくり</td> </tr> <tr> <td>北海道釧路市 速水 陽 氏 佐々木 幸子 氏</td> <td>大阪府東大阪市 福永 悟之 氏 山内 江美子 氏 能勢 友里 氏</td> </tr> <tr> <td>新潟県湯沢町 國松 明美 氏 高橋 舞子 氏</td> <td>兵庫県川西市 市場 大輔 氏 中山 緑 氏 森上 淑美 氏</td> </tr> <tr> <td>兵庫県加東市 石田 浩一 氏</td> <td></td> </tr> <tr> <td>福岡県福岡市 荻田 哲司 氏 城下 乃一 氏</td> <td>第3会場 広域体制づくり</td> </tr> <tr> <td></td> <td>京都府 木下 直子 氏 中畑 麻紀子 氏 藤田 恭平 氏</td> </tr> </table>	第1会場 自地域の多様な資源による体制づくり	第2会場 個別支援を向上させる体制づくり	北海道釧路市 速水 陽 氏 佐々木 幸子 氏	大阪府東大阪市 福永 悟之 氏 山内 江美子 氏 能勢 友里 氏	新潟県湯沢町 國松 明美 氏 高橋 舞子 氏	兵庫県川西市 市場 大輔 氏 中山 緑 氏 森上 淑美 氏	兵庫県加東市 石田 浩一 氏		福岡県福岡市 荻田 哲司 氏 城下 乃一 氏	第3会場 広域体制づくり		京都府 木下 直子 氏 中畑 麻紀子 氏 藤田 恭平 氏
第1会場 自地域の多様な資源による体制づくり	第2会場 個別支援を向上させる体制づくり													
北海道釧路市 速水 陽 氏 佐々木 幸子 氏	大阪府東大阪市 福永 悟之 氏 山内 江美子 氏 能勢 友里 氏													
新潟県湯沢町 國松 明美 氏 高橋 舞子 氏	兵庫県川西市 市場 大輔 氏 中山 緑 氏 森上 淑美 氏													
兵庫県加東市 石田 浩一 氏														
福岡県福岡市 荻田 哲司 氏 城下 乃一 氏	第3会場 広域体制づくり													
	京都府 木下 直子 氏 中畑 麻紀子 氏 藤田 恭平 氏													
15:05	休憩・移動													
15:15 (30分)	ポスター報告② 情報交換													
15:45	休憩・移動													
15:55 (30分)	ポスター報告③ 情報交換													
16:25	まとめ・閉会													

※参加者は、ポスター報告①②③で1事例ずつ参加してください。

一覧

事業報告			
事業概要（社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター）			
都道府県調査結果			
市区町村調査結果			
パイロット地域からの報告 ① パイロット事業を開始して、みえてきた地域のチカラ			
静岡県湖西市	湖西市健康福祉部長寿介護課長寿係	古川 恵、小柳 亜紀	（行政）
	静岡県健康福祉部福祉長寿局長寿政策課介護予防班	渡邊 敏宏	（行政）
パイロット地域からの報告 ② 本人の声、みんなの声を大切に、一緒にアクション！			
福岡県みやこ町	みやこ町地域包括支援センター	種生 宣隆、田中 浩美、島田 美和	（直営）
活動事例報告（ポスター報告）			
① 検索模擬訓練を通じて、住民・関係機関が地域でのつながりを再確認し、SOS ネットワークを強化			
北海道釧路市	釧路市福祉部介護高齢課高齢福祉担当	速水 陽	（行政）
	釧路地区障害老人を支える会（たんぼぼの会）	佐々木 幸子	（家族の会）
② 認知症 SOS 探索訓練アクションミーティングを通じて 地域の実情あった役立つ仕組と活動を一緒に育てる			
新潟県湯沢町	湯沢町健康福祉部健康増進課	國松 明美	（行政）
	健康倶楽部ゆざわ	高橋 舞子	（事業所）
③ 利用しやすく、一人ひとりの安心・安全を守る ネットワークを地域の人たちと作り出す			
兵庫県加東市	加東市高齢介護課地域包括支援センター	石田 浩一	（直営）
④ 高齢者を見守り支える 小さな地域での取り組み			
福岡県福岡市	有限会社ケアサーブス九州	荻田 哲司	（事業所）
	福岡市博多区那珂 3 丁目町内会	城下 乃一	（町内会長）
⑤ 警察で保護後に情報が行政に提供される仕組みを通じて本人と家族の安心・安全を共に守る			
大阪府東大阪市	東大阪市福祉部高齢介護室地域包括ケア推進課	福永 悟之、山内 江美子、能勢 友里	（行政）
⑥ 「みまもり登録」と「地域ケア会議」を活かして安心して外出できる地域をつくる			
兵庫県川西市	川西南地域包括支援センター	市場 大輔、中山 緑	（委託）
	川西市中央地域包括支援センター	森上 淑美	（直営）
⑦ 広域での見守り・SOS 体制の構築に向けて 府・保健所が市町・隣縣市・交通機関と共に広域模擬訓練を実施			
京都府	京都府山城南保健所企画調整室	木下 直子	（行政）
	木津川市高齢介護課	中畑 麻紀子	（行政）
	精華町福祉課	藤田 恭平	（行政）
活動事例報告（ポスター展示のみ）			
① 兵庫県における認知症の人の見守り体制構築に向けた市町支援の取組み			
兵庫県	兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢対策課認知症対策班	亀山 美矢子	（行政）
② 地域の人たちや交通機関と模擬訓練や工夫を重ね、見守り・SOS ネットワークで外出を続けられる地域に！			
京都府京都市岩倉地域	京都市左京区岩倉地域包括支援センター	松本 恵生	（委託）
	叡山電鉄	小磯 正彦	（企業）
③ 認知症の人を地域で見守り支える仕組み作り～オレンジサポーターによる見守り活動～			
群馬県高崎市	高崎市福祉部長寿社会課地域包括支援担当	田中 亜紀	（行政）
④ 認知症介護指導者と認知症地域支援推進員の取組み			
大阪府高槻市	社会医療法人愛仁会 高槻北地域包括支援センター	辻田 裕之	（委託）
⑤ 住民主体の徘徊模擬訓練を通じた認知症の普及啓発～認知症地域支援推進員の活動報告～			
大分県由布市	由布市社会福祉協議会	太田 加奈子	（社協）

認知症の人の行方不明や事故等の未然防止のための 見守り体制構築に関する調査研究事業 事業報告

認知症介護研究・研修東京センター

【検討委員会】

委員長 和田 敏明	ルーテル学院大学 名誉教授
委員 阿部 佳世	公益社団法人 認知症の人と家族の会 理事・事務局長
大谷 るみ子	大牟田市認知症ライフサポート研究会 代表
亀山 美矢子	兵庫県健康福祉部 少子高齢局 高齢対策課 認知症対策班 班長
昆布山 良則	公益社団法人 長寿社会文化協会 コミュニティカフェ事業担当
佐藤 雅彦	日本認知症本人ワーキンググループ 共同代表
田中 亜紀	高崎市福祉部長寿社会課 地域包括支援担当 主任保健師
田中 志子	大誠会 内田病院 理事長
南雲 重幸	新潟県湯沢町福祉介護課 課長
速水 陽	釧路市福祉部 介護高齢課 高齢福祉担当 主査
宮島 渡	全国認知症介護指導者ネットワーク 代表

【ワークショップメンバー】

石田 浩一	兵庫県加東市高齢介護課 地域包括支援センター
荻田 哲司	有限会社ケアサービス九州 ふぁみりー那珂 (認知症介護指導者)
木下 晴美	静岡市保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部
猿渡 進平	医療法人 静光園 白川病院 医療福祉相談室
鳥居 貴子	神奈川県南足柄市 地域包括支援センター
松本 恵生	京都市岩倉 地域包括支援センター

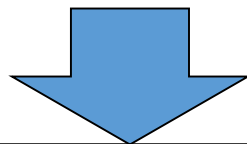
(敬称略)



このまちで暮らしてきた これからもいっしょに
北海道から沖縄まで、すべての市区町村で
安心して外出を楽しめ、無事に家に戻るための支援体制の構築を

I. 事業の背景

何気なく暮らしているまちの中で



認知症高齢者の行方不明届けの受理人数*
(警察庁調べ)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
受理人数*	9,607人	10,322人	10,763人	12,208人	15,432人 (100.0%)
死亡発見	359人	388人	429人	479人	471人 (3.1%)
所在不明	208人	158人	168人	150人	191人 (1.2%)

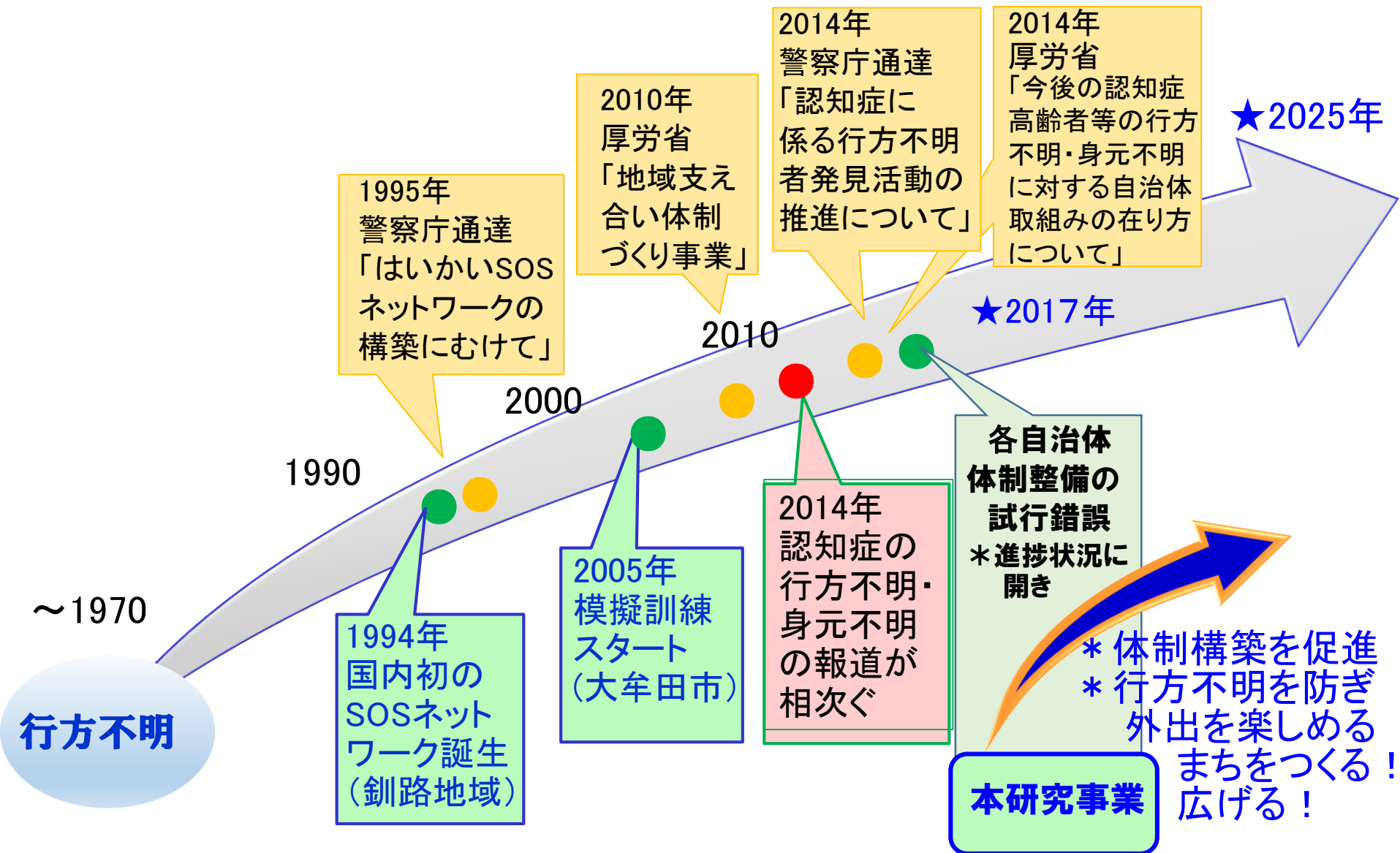
* 受理人数：警察に届け出て、受理された人数

行方不明になっている人が、今日も・・・

認知症の人の行方不明は古くて新しい課題

2015年認知症施策推進総合戦略

* 省庁横断で



II. 事業の目的

すべての自治体において行方不明を防ぐ見守り・SOS体制構築が速やかに進み、認知症があっても安心・安全に外出を楽しみながら暮らせる地域社会の構築を促進する。

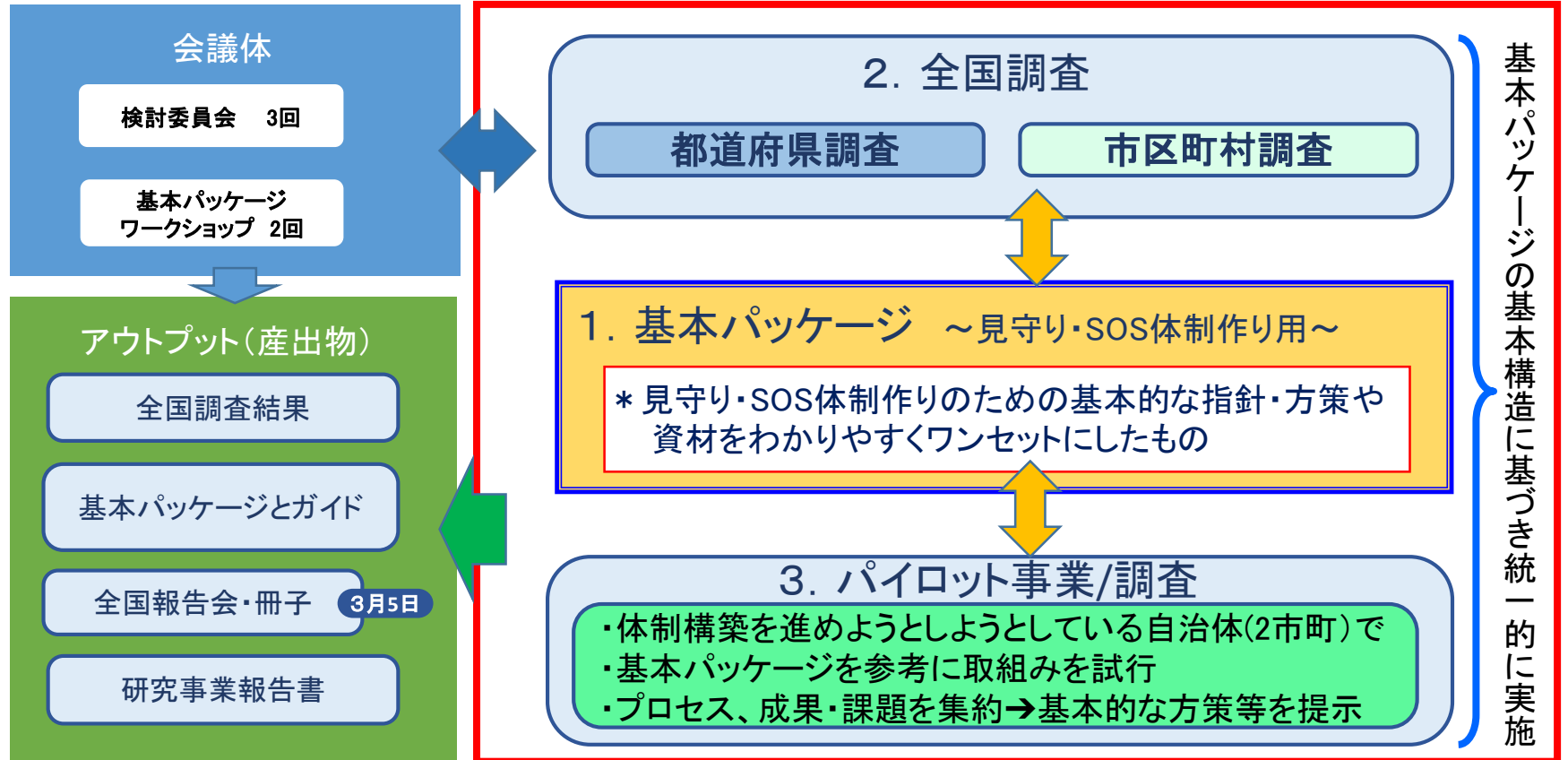
そのために

- ① **全国調査**を実施。現状、工夫、課題等を把握。
- ② **基本パッケージの開発**（**体制整備の基本的指針・方策等をワンセットにしたもの**）
- ③ **パイロット事業の実施**（**体制構築を進めようとしてしている2つのパイロット地域で**）体制整備のための取組のプロセス、生まれた変化・成果、課題等を調査。

今後、自治体が**体制整備を円滑に着手し継続発展させていくための基本的な方策**を検討・提示する。

今年度事業の全体像

事業の全体観



全体を通じて、生みだそうとしている成果(アウトカム)

- ①どの市町村も、見守り・SOS体制づくりを、円滑・効率的・継続的に進めていくことができるようになる。
そのことを通じて、広域での見守り・SOS体制づくりの共通基盤が育つ。
- ②認知症があっても行方不明にならずに(その心配なく)、一人で外出を楽しめる人が自地域で増える。

Ⅲ. 基本パッケージの開発

【基本パッケージのねらい】

- ①見守り・SOSネットワークの全体像を体系的に整理・可視化
- ②ネットワーク全体の構築に向けた一連の流れを整理・可視化
- ③ネットワーク全体を構成する個々の取組(構成要素)を具体的に進めるための基本的な指針・方策、関連資材をワンセットにして提示

各自治体が見守り・SOS体制作りに無理・無駄なく着手して、より効果的に進めていくために役立つ
* 取組を加速!
* 広域体制を進めるためにも



なるほど!
全体の流れはこう
なっているのか



どこから手をつけて
いいかわからなかった
から助かる!



一人でも多く
行方不明を防ぎ
安心して外出できる
日々に!

【主に誰が活かしてほしいか】

① 市区町村の認知症施策の担当者・関係者

- 行政の事務職、技術職が
- (委託法人の)地域包括支援センター職員が
- (委託法人の)認知症地域支援推進員が
- その他、その地域で取組を企画・推進していく
立場・役割の人たちが

* 方向性・方針を
ひとつにして
力をあわせて
進めていくために

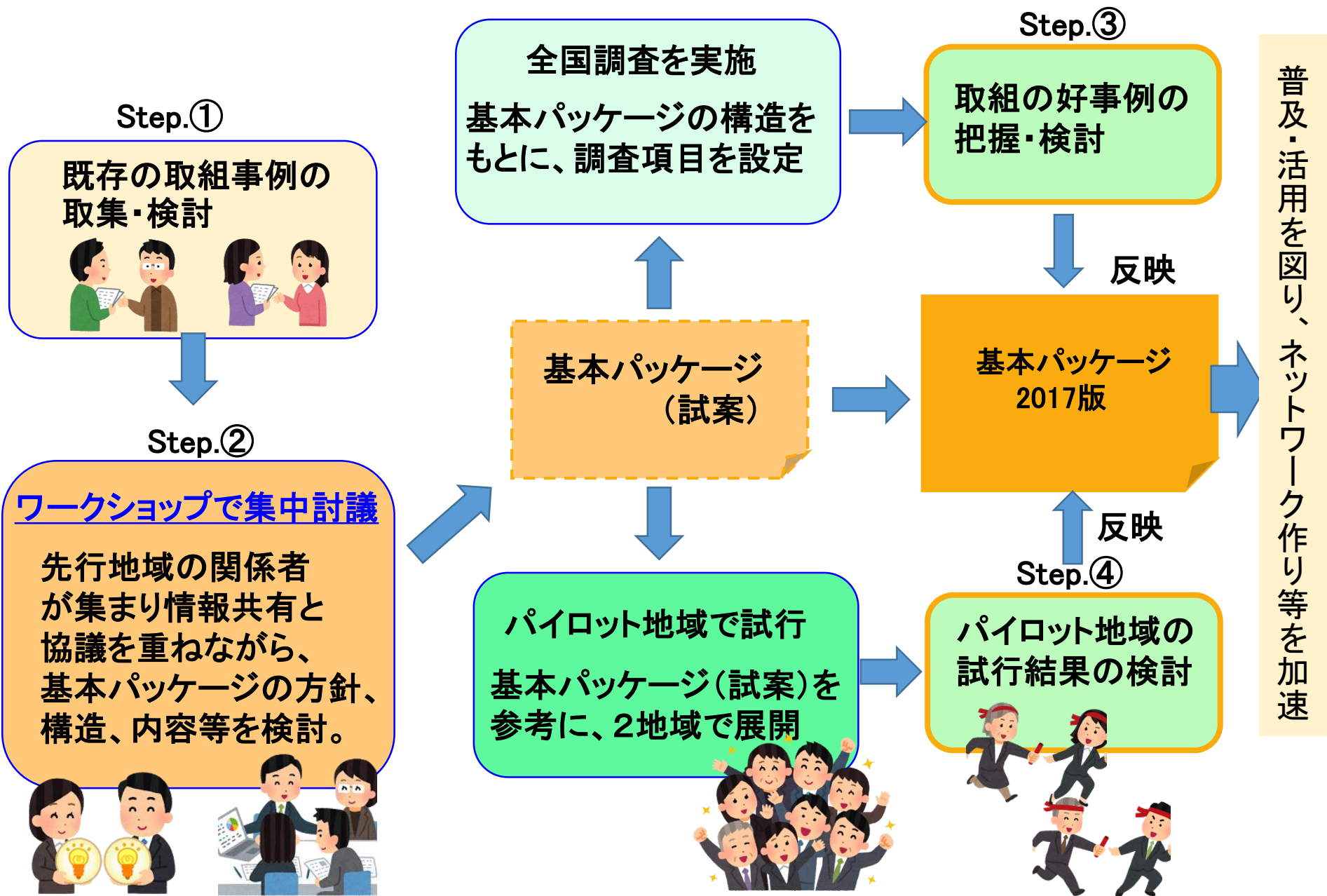
* (異動があっても)
担当者間で共有
され、取組が
継続・発展して
いくために

- * 特に、見守り・SOSネットワークの構築に着手しようとしている人たち
- * 見直しや改善を図ろうとしている人たち・・・すべての関係者に

② 都道府県の認知症施策の担当者・関係者

- * 市区町村の事業・取組を促進・バックアップする立場・役割の人たち

【基本パッケージの開発過程】



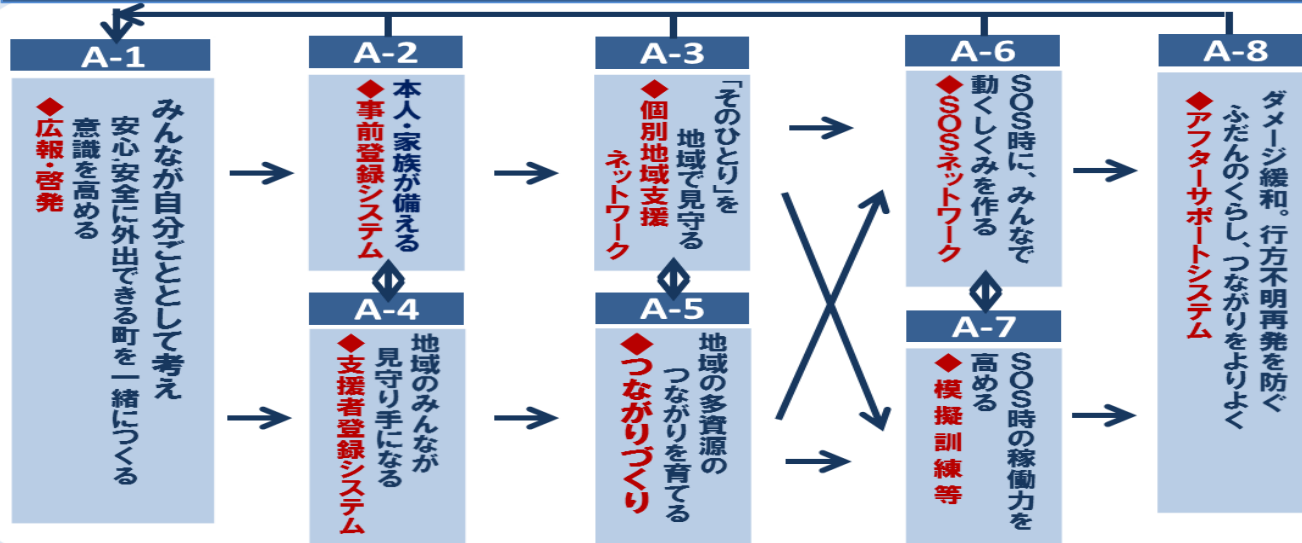
【 基本的な指針 】

- ① 目的や視点を大切に
誰のための、何のための体制整備か
★ 本人視点を重視（本人の声を聴き、本人とともに）
- ② 全体観をもち、連動を生み出しながら
- ③ 行政のイニシャティブと多様な地域資源による
自発的活動
- ④ スモールステップで活動の連鎖、拡充を
- ⑤ 先行地域の具体策の共有・応用を

【基本パッケージの全体構造】

A. アクション(8ステップ: 循環システム)

認知症の人が行方不明にならずに安心・安全に外出できる
見守り・SOS体制を創る一連のアクションの連鎖



B-1

地元の本人・家族の声を聴く

→

B-7

仲間を増やす: 領域や世代を超えて

←

B-2

地域の実情、活動経過・結果を把握、情報化・可視化
統計等の整備・実態等の把握

→

B-6

立場を超えて話し合い、一緒にできることを考える
: アクションミーティング

←

→

B-5

言葉・用語をやさしく
適切でわかりやすく、配慮のあるものに

←

→

B-4

ビジョン、共通方針の共有

←

→

B-3

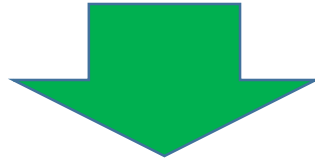
事務局と推進コアチームをつくる

可能な範囲で
スモールスタート

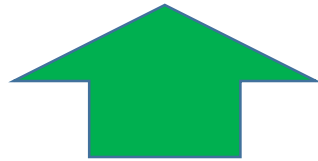
B. 基盤づくり(7つのステップ)

見守り・SOS体制を創り出し、持続発展していくための基盤をつくる

見守り・SOS体制を円滑・持続発展的に
築いていくためには・・・



「基盤作り」が重要



何から着手したらいいか
迷っている場合は

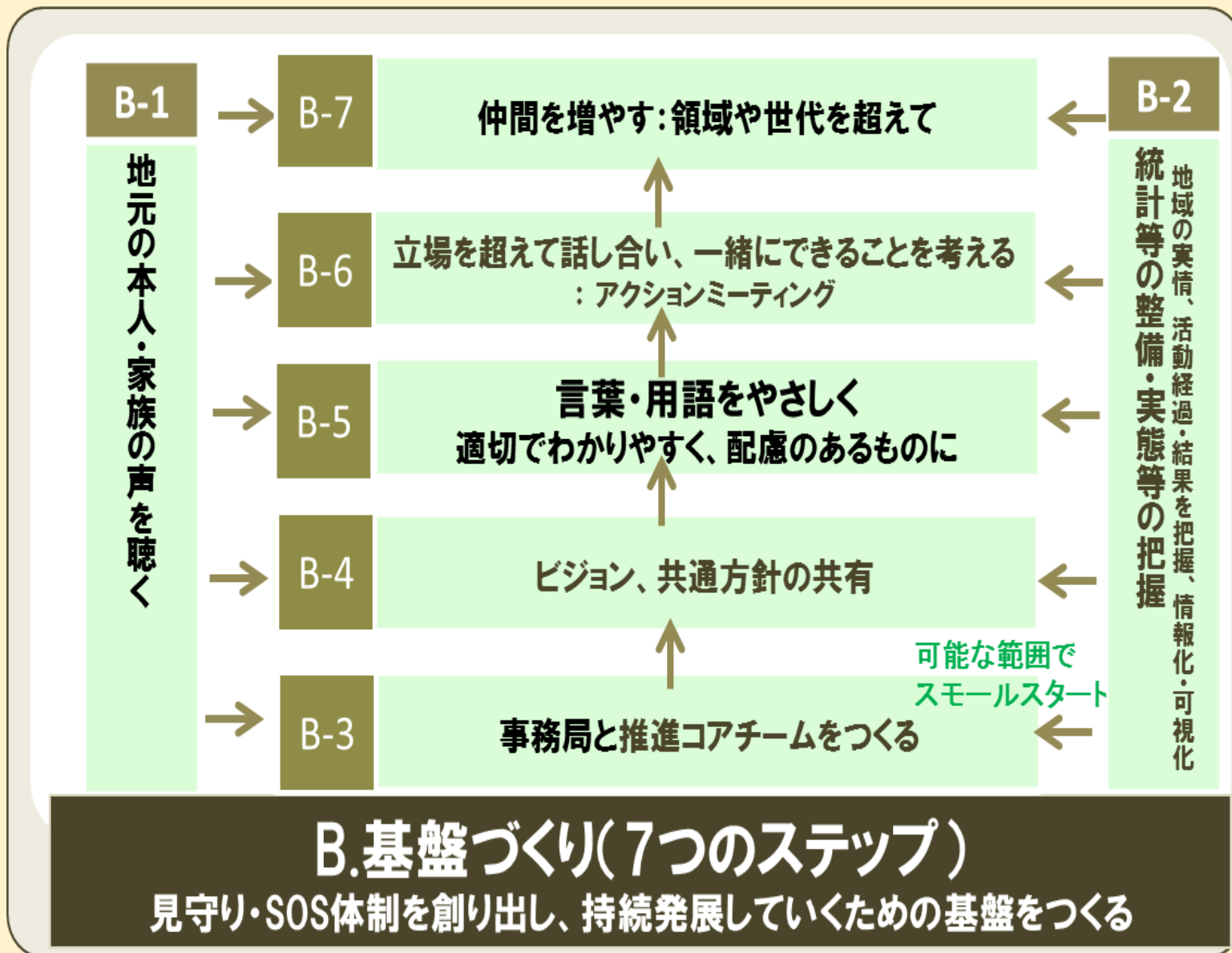


様々やっているが
より拡充していくために

【基本パッケージ 「B.基盤づくり」の構造】

持続発展している地域
が注力している点

★活きた「見守り・SOSネットワーク」を着実に築いていくためには、基盤づくりが重要

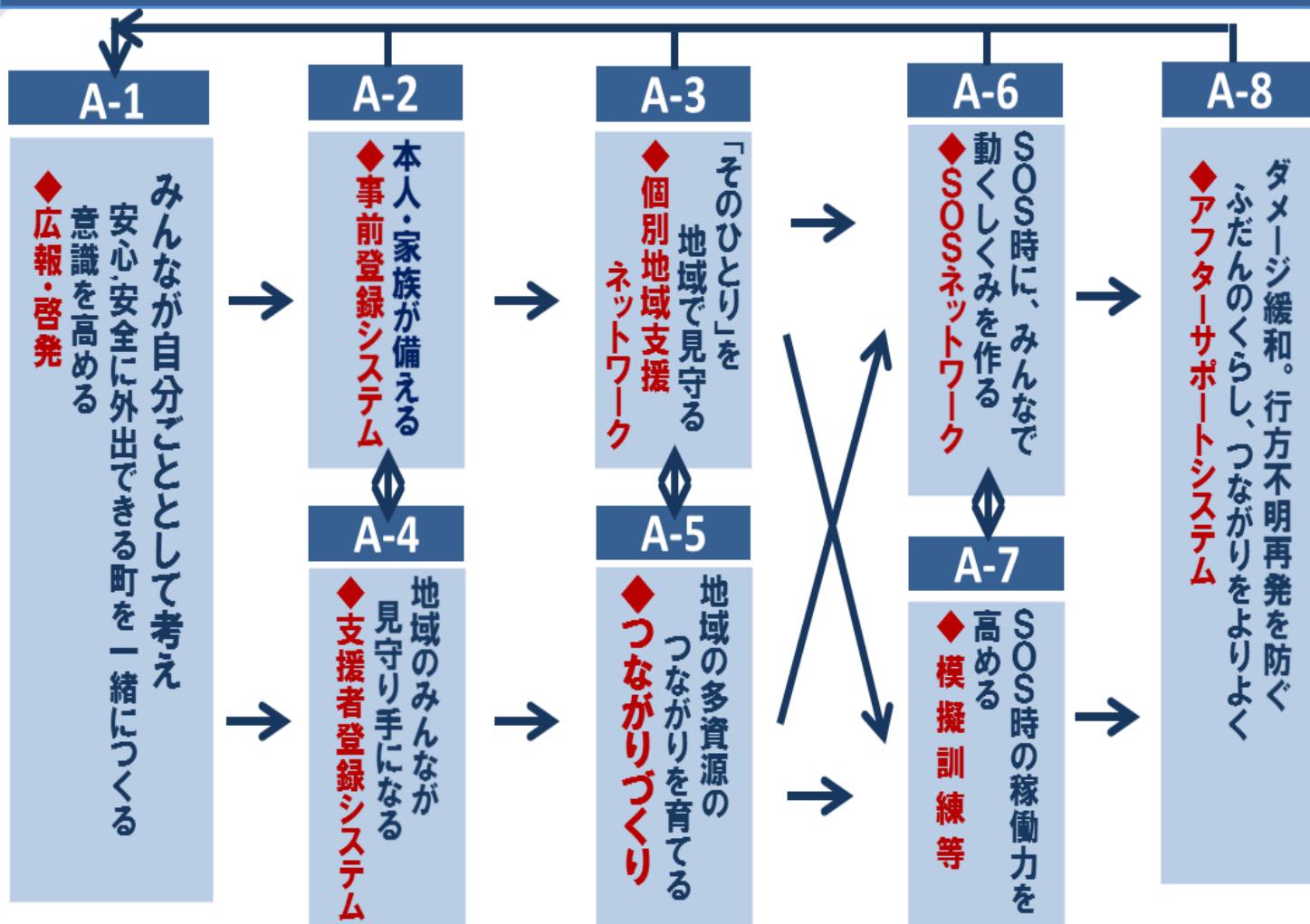


【基本パッケージ「A.アクション」の構造】

★本人・家族が安心・安全に暮らすには、各取組を連動させた一連のアクションが重要

A.アクション(8ステップ:循環システム)

認知症の人が行方不明にならずに安心・安全に外出できる
見守り・SOS体制を創る一連のアクションの連鎖



IV. 全国調査

「認知症の人の行方不明を防ぎ安心・安全に外出できる 体制整備に関する全国調査」

【目的】

- ①都道府県、市町村の認知症の人の行方不明防止のための体制整備の現状と成果、課題等を把握し、今後、体制整備を効果的に推進・促進に活かす。
- ②重要な課題となっている広域の体制作りに関しても把握し、今後の展開に資する。
- ③好事例を把握し、各地の特徴に応じた体制作りの推進・促進に活かす。

* 人口規模別や地域特性別

【方法】

○対象：全都道府県、全市区町村

○内容：基本パッケージの構造をベースに、見守り・SOS体制構築の全体的実施状況、成果、課題等

○調査方法：調査票を都道府県にメール添付で送付。都道府県を通じ市町村に送付依頼。記入(回答)後、直接、東京センターにメールにて送付。

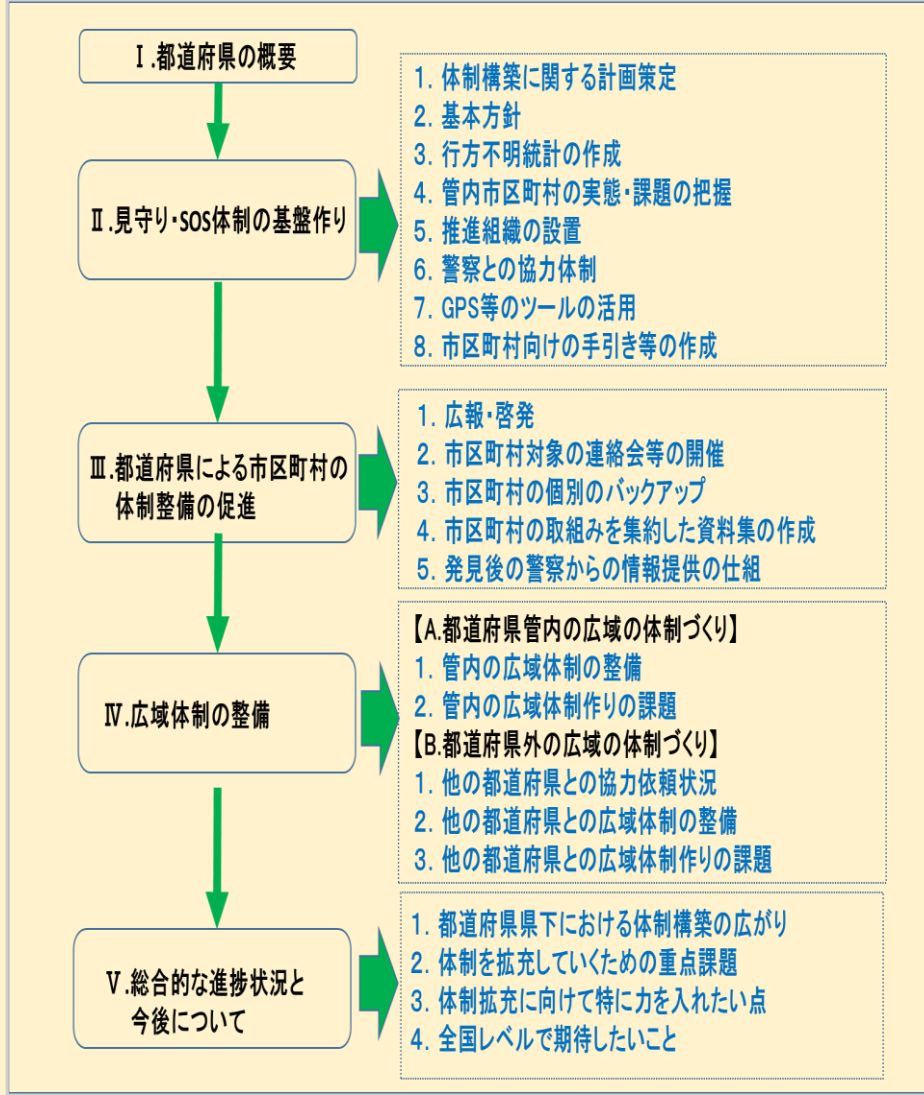
○実施期間：平成29年11月28日～12月26日（最終受付平成30年1月10日）

○回答数(率)：都道府県 有効回答数 47 (100%)
市区町村 有効回答数 1,083 (62.7%)

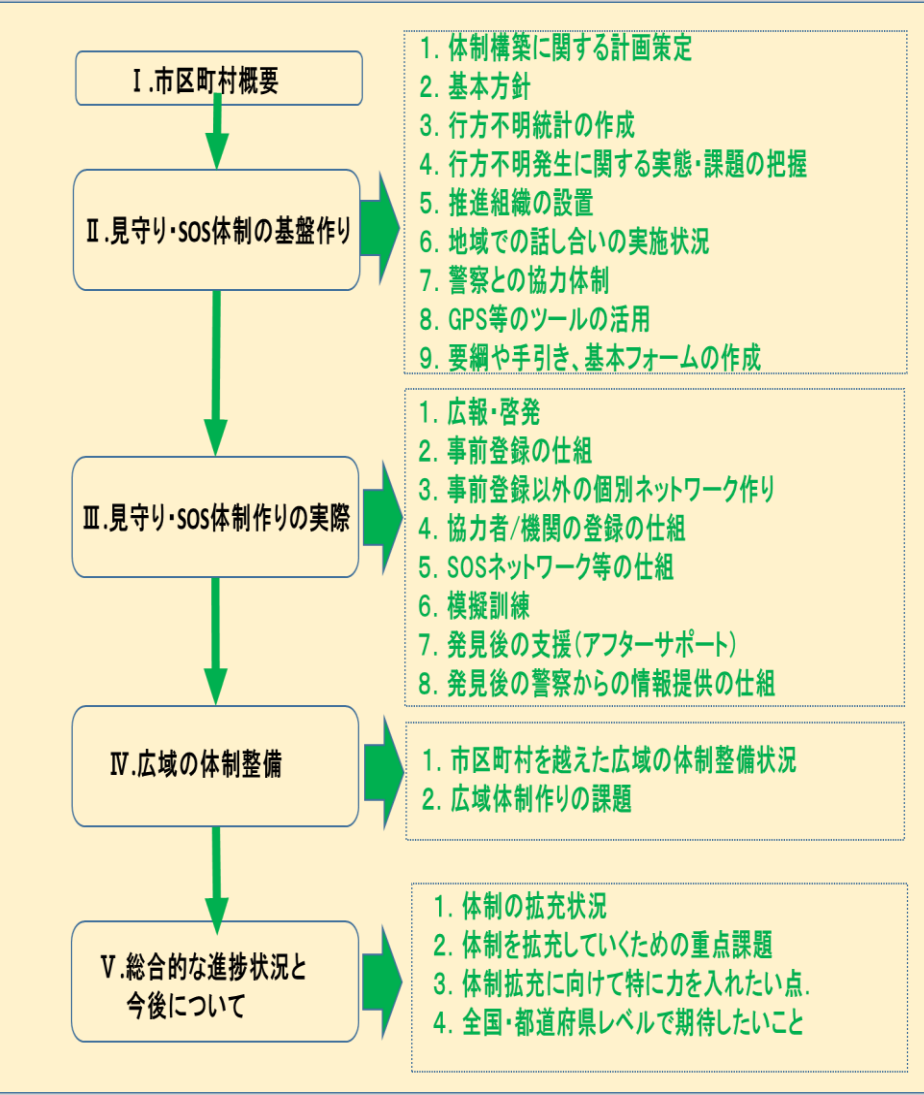
【調査項目】 基本パッケージの構造に準じて構成

* 調査票及び全単純集計結果は巻末資料参照

都道府県調査項目



市区町村調査項目



論点1. 都道府県によって、管内市区町村の体制整備の進捗状況に開きがみられ、市区町村の実情をとらえて、計画的・継続的な促進とフォローアップが必要

N=47

【管内市区町村の見守り・SOS体制の構築状況(V.1)】

①ほぼ全市区町村で実施	20(42.6%)
②半分以上の市区町村実施	15(31.9%)
③一部の市区町村で実施	7(14.9%)
④実施なし	0(0.0%)
⑤市区町村の把握していない	5(10.6%)

【体制構築に関する都道府県としての計画策定(Ⅱ.1)】

①第6期で計画策定し、継続的拡充を図ってきている	39(83.0%)
②③④今年度以降、策定予定	4(8.5%)
⑤来年度以降も、策定予定なし	4(8.5%)

これまで計画を策定してこなかった理由としては、**行方不明施策の優先順位の低さや、都道府県としての役割や具体的方策の不明確さ等、推進上の基本的事項**があげられている。

→計画中/計画予定のない都道府県に向けて、先行都道府県の方策の共有を図り、計画的・継続的な取組を促進していく必要がある。

【管内市区町村の体制構築の実態・課題の把握・活用状況(Ⅱ.4)】

①調査票、聞き取り等で具体的に把握し、活かしている	9(19.1%)
②調査票で把握し、活かしている	11(23.4%)
③調査票で把握しているが、活かすまではしていない	22(46.8%)
④その他	4(8.5%)
⑤市区町村の把握していない	1(2.1%)

【市区町村対象の体制構築に関する連絡会・研修会の開催状況(Ⅲ.2)】

①年間複数回のシリーズで開催	5(10.6%)
②年1回開催	22(46.8%)
③来年度から開催予定	6(12.8%)
④来年度以降も、開催予定なし	13(27.7%)



都道府県間が情報交換・共有しあえる機会や方策の確保を

論点2. 都道府県の立場を活かした取組を通じて、市町村の体制構築を促進することが必要

【都道府県としての、行方不明関連統計の作成状況(Ⅱ.3)】

①経年比較の統計を作成し、公表している	8(17.0%)
②経年比較統計を作成しているが、公表していない	6(12.8%)
③単年度ごとの統計を作成	19(40.4%)
④その他	8(17.0%)
④単年度ごとの把握をしていない	6(12.8%)

【体制構築を推進していく組織の設置状況(Ⅱ.5)】

①組織を設置し、推進・改善を図っている	8(17.0%)
②特に設置していないが既存組織を活かし推進・改善	12(25.5%)
③既存組織に報告等しているが推進・改善までではない	8(17.0%)
④その他	4(8.5%)
⑤組織の設置や討議は行っていない	16(34.0%)

体制構築のためには、多様な関係者が情報共有を行い、方針・方策の合意形成を図りながら経年的に取組の改善を図っていくことが不可欠であり、それを推進していく組織や委員会を都道府県として設置すること、形骸化させずに改善に向けた実質的な討議・改善を重ねていくことが必要。

【体制構築をするための警察との協力体制(Ⅱ.6)】

①②④何らかの協力体制を築いている	28(59.6%)
⑤その他	11(23.4%)
③⑥協力体制を築けていない	6(17.0%)

【行方不明者の発見後に、情報が警察から行政に提供される仕組(Ⅲ.5)】

①仕組がすでにある	9(19.1%)
②③今年度以降に予定	4(8.5%)
③予定なし	34(72.3%)

発見後に警察から行政に情報が提供される仕組が整備された都道府県では、調査結果から多様な成果（行政がしることができなかったケースの把握、保護後の支援、再発防止、普段からの警察と行政の連携が図りやすくなる等）が確認されている。

→各市区町村のみでは警察からの情報提供の仕組づくりが困難な場合も多い。先行例を参考に、都道府県レベルでの警察からの情報提供の仕組作りを急ぐ必要がある。

論点3. 都道府県として、管内、そして他都道府県との広域の体制づくりの強化を

【管内市区町村の広域の体制整備(Ⅳ A.1)】

①すでに管内全域で広域体制を整備している	21(44.7%)、
②管内の広域体制を整備を進めている(途上)	7(14.9%)
③④一部のブロック等で	4(8.6%)
⑤その他	5(10.6%)
⑥来年度予定	5(10.6%)
⑦予定なし	5(10.6%)

管内の広域体制整備を実施している都道府県では、多様な成果が本調査で確認された。

行方不明発生時に「広域での情報伝達・共有がスムーズになった」

「都道府県と市区町村とのやりとりがスムーズになった」

「警察と行政との情報伝達がスムーズになった」

「広域での行方不明の発生状況の実態を把握しやすくなった」

一方で、体制は整備したが市区町村になかなか普及しない、上手く機能しない等の課題も都道府県から提起されている。

→管内の広域体制を作っておしまいせず、体制を作ったからの普及策や広域体制が稼働するために先行都道府県が行っている工夫等を集約・共有していくことが必要。

【行方不明発生時の、他の都道府県との間での協力依頼Ⅳ2)】

平成28年度

N=46

①自都道府県から他都道府県への協力依頼件数

総計 152 年平均3.3回 最小0～最大25

②他都道府県から自都道府県への協力依頼件数

総計 2,172 年平均47.2回(月平均3.9) 最小1～123

【都道府県外の広域の体制づくり】

複数回答

①発見協力依頼の仕組みを作っている

33(70.2%)

②他の都道府県と共通の仕組みを作っている

10(21.3%)

③他と協働しての合同模擬訓練

3(6.4%)

④発見地から居住地に円滑に戻られる取決め等

0(0.0%)

⑥特に行っていない

10(21.3%)

★他の都道府県と共通仕組み作り

論点1. 市区町村によって、管内の体制整備の拡充状況に開きがみられ、管内地域の実情をとらえて、計画的・継続的な促進とフォローアップが必要

N=1,083

【管内市区町村の見守り・SOS体制の拡充状況(V.1)】

① 普段からの見守りとSOS体制が一体的に充実	115 (10.6%)
②③④ 整備されつつあるが一体的にはまだ	708 (65.4%)
⑤ 見守りもSOS体制整備も進んでいない	166 (15.3%)
⑤ 把握していない	86 (7.9%)

【体制構築に関する市区町村での計画策定(II.1)】

① 第6期で計画策定し、継続的拡充を図ってきている	696 (64.3%)
②③④ 今年度以降、策定予定	242 (22.3%)
⑤ 来年度以降も、策定予定なし	144 (13.3%)

これまで計画を策定してこなかった理由としては、「行方不明施策の発生件数が少ない」41.8%、「具体的方策が不明確」が39.5%、「警察との連携・調整等の未整備」が24.9%。
→人口規模によらず行方不明が発生しており、すべての市区町村で、体制整備を計画的に進めていくことが望まれる。

人口規模や地域特性が類似の先行例の知見や工夫の共有を図り、無理・無駄のない体制整備を進めていく必要がある。

【市区町村としての、行方不明関連統計の作成状況(Ⅱ.3)】

①経年比較の統計を作成し、公表している	34(3.1%)
②経年比較統計を作成しているが、公表していない	125(11.5%)
③単年度ごとの統計を作成	445(41.1%)
④その他	54(5.0%)
④単年度ごとの把握をしていない	425(39.2%)

【行方不明の発生に関する実態の把握・検討(Ⅱ.4)】

①ケース全員に関して、時間、場所等把握・検討、活用	181(16.7%)
②一部ケースに関して、時間、場所等把握・検討、活用	396(29.2%)
③その他	64(5.9%)
⑤特に行っていない	518(47.8%)

1例からでも詳細に把握・検討することで、そのケースのアフターサポートのあり方と同時に、地域課題や見守り・SOSの見直し強化につながり、先行地域の方策の共有・普及が必要。

*人口規模が小さく年間発生数が少ない/ない地域でも、この方策を仕組み化しておくことが必要。

論点2. 市区町村が、体制構築を本人視点や本人参画を重視しながら進めていく方針を掲げ、実際の取組の中で波及させていくことが必要

N=1,083

【体制構築を進める上で重視している方針について(Ⅱ.2)】

- | | |
|---------------------------|------------|
| ①認知症の人の視点を重視して体制構築を進めている | 407(37.6%) |
| ②偏見や行動制限を助長しないよう外出できる地域作り | 563(52.0%) |
| ③言葉や用語を配慮しながら進めている | 315(29.1%) |

【体制構築をしていく上での本人参画する機会(Ⅱ.2)】 複数回答

- | | |
|-----------------------------|------------|
| ①取組を進めていく上で本人の体験や必要なことを聴く機会 | 143(13.2%) |
| ③体制構築の会議等で、本人が発言する機会 | 23(2.1%) |
| ④模擬訓練に 本人が参加する機会 | 26(2.4%) |
| ⑤来年度以降も、策定予定なし | 144(13.3%) |

★当事者の声をよく聴きながら、当事者にあったしくみを、当事者とともにつくる

論点3. 体制整備を、年々、継続的に拡充していくための組織、話しあいの強化を

【体制構築を経年的に推進していく組織(Ⅱ.4)】

①組織を設置し、推進・改善を図っている	203(18.7%)
②特に設置していないが既存組織を活かし推進・改善	221(20.4%)
③既存組織に報告等しているが推進・改善までではない	159(14.7%)
④その他	55(5.1%)
⑤組織の設置や討議は行っていない	442(40.8%)

【体制づくりのための地域での話し合い(Ⅱ.6)】

①医療・介護職と住民とが一緒に話し合う機会を年間継続的に	117(10.8%)
②医療・介護職と住民とが一緒に話し合う機会を年1回程度	139(12.8%)
③一緒に話し合う場は作っていない	132(12.1%)
④その他	122(11.3%)
⑤地域で話し合う場は作っていない	573(52.9%)

何らかの話しあいをしている場合

- ・参加者が主体的に、行政後押しが、35.9%
- ・行政が主導 48.6%

論点4. 行方不明の心配がある人の個別支援ネットワーク作りの強化を

N=1,083

【事前登録する仕組(Ⅲ.2)】

- | | |
|-----------|------------|
| ①すでに作ってある | 627(57.9%) |
| ②③今年度以降に予 | 101(9.3%) |
| ④予定なし | 353(32.6%) |

N=627

【事前登録後の関わり(Ⅱ.6)】

- | | 複数回答 |
|----------------------------|------------|
| ①本人と個別に話しあい、思いや外出時の様子をよく聞く | 118(18.8%) |
| ②本人と一緒に歩いて、経路や関わる人等を確認 | 11(1.8%) |
| ③地域の関係者で話し合い | 77(12.3%) |
| ④地域ケア会議で検討・共有 | 62(9.9%) |
| ⑤本人の見守りマップ等作成、具体的な見守り | 23 3.7 %) |
| ⑥外出時に身元がわかるものを渡している | 179(28.5%) |
| ⑦定期的な確認や更新の仕組を作っている | 153(24.4%) |
| ⑨特になし | 233(37.2%) |

事前登録を通じて、何らかの成果がありが 84.1%

人口規模に関わらず、事前登録の仕組づくりが望まれる。

仕組を活かして、個別支援・ネットワークづくり、地域課題の検討等へ展開していくことで、付加価値が高い。

【事前登録以外で、行方不明の心配のある人に関する取組(Ⅲ.3)】

①関係者を通じて定期的に把握	194(17.9%)
②包括が中心となって個別支援ネットワーク作り	280(25.9%)
③地域ケア会議等で検討	309(28.5%)
③特におこなっていない	437(40.4%)

ハイリスクケースの個別支援ネットワークづくりを1例ずつからでも着実に進めていることが重要と考えられる。

なお、認知症地域支援推進員が、個別支援ネットワーク作りを推進し成果をあげている自治体も見られ、市区町村がハイリスク者の個別支援ネットワーク作りのために、**認知症地域支援推進員が活躍できる状況を後押ししていくことが望まれる。**

論点5 地域の多様な人が共に見守り、いざという時に稼働する仕組み作り

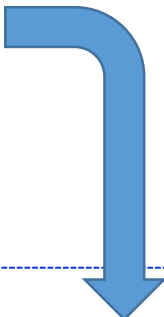
N=1,083

【協力者/機関を登録する仕組み(Ⅲ.4)】

①すでに作ってある	466(43.0%)
②③今年度以降に予定	70(6.4%)
④予定なし	445(41.1%)

【SOS時に早期に発見するしくみ(Ⅲ.5)】

①すでに作ってある	590(54.5%)
②③今年度以降に予定	78(7.2%)
④予定なし	350(32.3%)



年間稼働回数	平均	6.2回
	最小	0回
	最大	270回

「SOS時に早期に発見するしくみ」がある場合の

仕組を通じての成果があり	48.6%
特になし	21.4%
把握していない	30.0%

論点6 警察に保護された後に、本人・家族をアフターケア・支援する仕組みづくりを

N=1,083

【協力者/機関を登録する仕組み(Ⅲ7)】

①家族が迎えにくるまでの間、警察で本人を見守る取組や仕組	2(2.7%)
②家族が迎えに来られない場合、一時保護する仕組	98(9.0%)
③アフターケアや再発防止について本人や家族と相談	468(43.2%)
④発見後、早期に善後策を検討する会議等	169(15.6%)

【行方不明者の発見後に、情報が警察から行政に提供される仕組(Ⅲ.58)】

①仕組がすでにある	452(41.7%)
②③今年度以降に予定	46(4.3%)
③予定なし	573(52.9%)

仕組を導入した市区町村では、人口規模に関わらず、**多様な成果**（ケースを行政が把握し支援にはいれるようになった、行政が知ることができなかったケースを把握できるようになった、繰り返しの行方不明を防げるようになった、ふだんからの警察との連携が図りやすくなった等）が高率でみられており、未実施の市区町村は、導入・拡充を図っていくことが望まれる。

*** 都道府県としての仕組作りや市区町村バックアップが求められる。**

論点7. 広域の体制づくりの強化を

【市区町村の境界を越えて広域で発見する仕組(Ⅳ 1)】

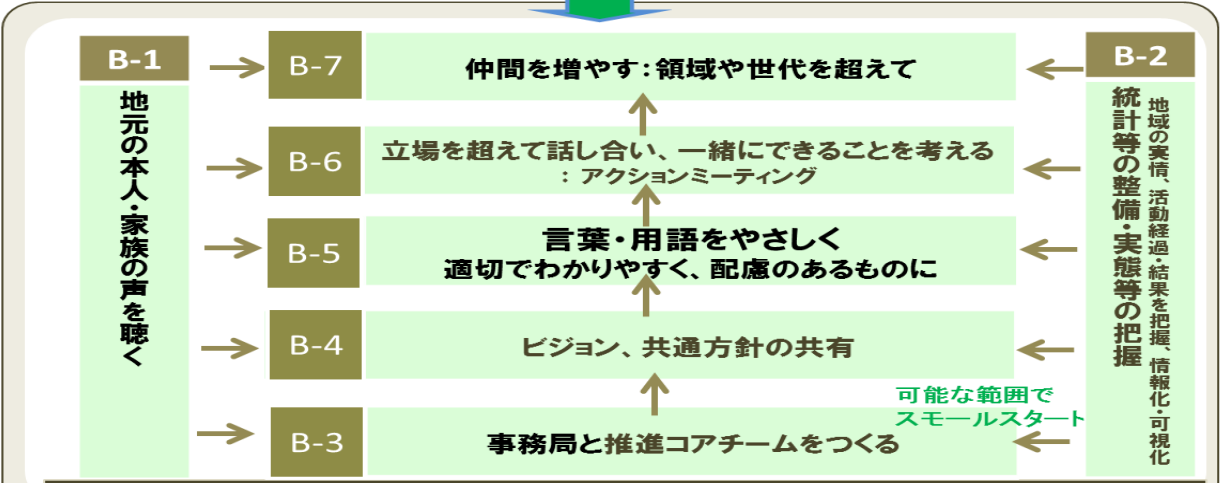
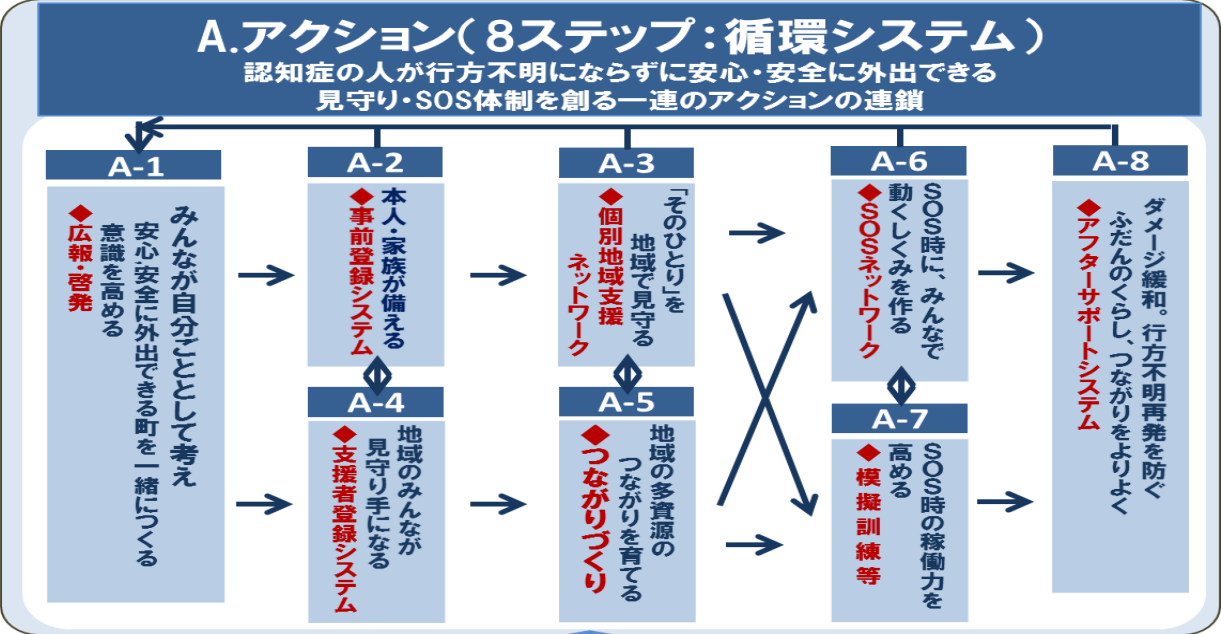
①近隣市区町村と協働した仕組がすでにある	425(39.2%)、
②管内の広域体制を整備を進めている(途上)	49(4.5%)
③来年度予定	27(2.5%)
⑦予定なし	580(53.6%)

仕組を導入した市区町村では、人口規模に関わらず、**多様な成果**（広域での発見がスムーズに、負担が減少、発見が可能になった例が増えている等）がみられており、未実施の市区町村は、人口規模別等の先行例を参考に導入・拡充を図っていくことが望まれる。

なお、近隣の市区町村との調整がなかなか進まず苦慮している自治体もみられ、都道府県としての仕組作りやバックアップが求められている。

自分の地域では、行方不明を防ぎ外出し続けられる体制整備がどこまで進んでいるか？
 山積している課題の中でも、自地域として、一步一步、着実に体制作りを進めていくために

基本パッケージの構成



B.基盤づくり(7つのステップ)

見守り・SOS体制を創り出し、持続発展していくための基盤をつくる

V. パイロット地域での取組み

○目的:

これから見守り・SOS体制作りに本格的に取組もう、という自治体で、基本パッケージをもとに取組に着手し、そのプロセス、工夫、そこで生まれた変化・成果、課題等を把握する。今後、取組に着手する/改善強化をはかろうとしている自治体が円滑に着手・継続していくために参考となる方策や知見を集約する。

○パイロット地域: 静岡県湖西市、福岡県みやこ町

○方法:

各市町の認知症施策の行政担当者/コアメンバーが、基本パッケージを参考に、現状・課題を検討し、今後の持続的展開のための焦点テーマを決め、その企画・立案のためのアクションミーティングを地域の関係者に呼びかけて開催(2回)。

話し合われたアクションプランに基づいて実行できることから、取組む。
その経過全体を、参与観察および聞き取り調査をもとに集約(映像記録も含む)。

○実施期間:

平成29年12月～平成30年2月末(各市町3回。以降も継続実施予定)

展開の共通ステップ

* 2地域が**方針と共通スキーム**をもとに、**各地域に応じた企画を練りながら展開。**

パイロット事業の趣旨・目的・方針の確認 11~12月

趣旨・方針確認

基本パッケージの全体構造を参考に、各地域で注力していくことを検討

アクションミーティングを通じて、各地域ごとに展開

- ・各地域で取組を具体的に話しあい実践していくために
アクションミーティングを2~3回シリーズで開催。
- ・各地域で、エリア単位に取組に参加する**メンバーを募り、アクションチーム**を結成。
- ・**アクションミーティングを活動のエンジン**にしつつ、その間の主体的な取組を市町担当者・関係者が促進・取組の後押し

見守り・SOSネットワークを、地域のチカラを活かして持続・発展的に展開

方針

① 本人視点

② 脱領域で協働

③ 即、アクション

取組プロセスで生じていること(2地域共通)

- 1) 基本パッケージをもとに、全体像に照らして、自地域でこれまで取組んできたことの見直し・足りない点・注力すべき点が焦点化
- 2) わがまちに既にあった取組み、人財・活動等の(再)発見
- 3) コアメンバー、メンバー間での本人視点の方向性の共有
* 繰り返しの確認の必要性
- 4) 同じテーマに沿って取り組む人たちが出会い・つながり・仲間づくり
- 5) 多種多様な人たちによるチームの結成、チームによる主体的な活動
* 住民と専門職との融合
- 6) 本人・家族の声を聞く、本人・家族が参画

パイロット地域の取組みからの示唆

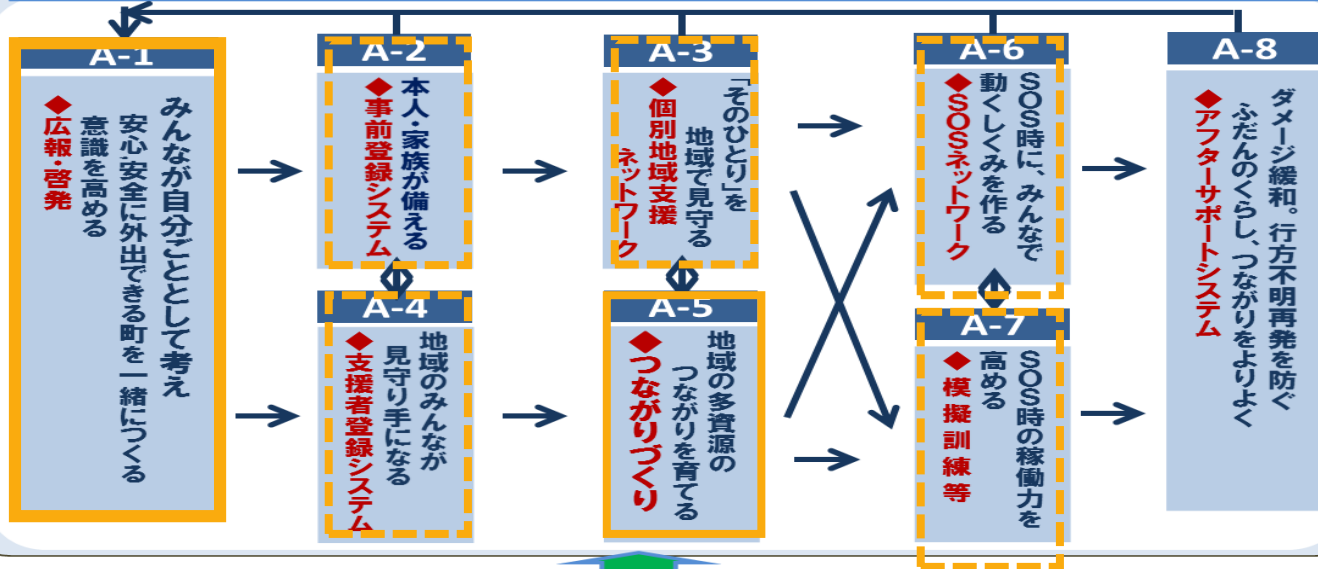
～見守り・SOS体制をつくりだしていくために～

1. 基本パッケージをもとに地域や取組を見直すことの意義・有効性
2. 取組・体制作りを推進していくコアメンバー・チームの重要性
 - ・目的、方針を共有しながらの対話
 - 取組むプロセスで生じることへの柔軟な対応
 - * 派生してくる変化を、目的・方針を見失わずに
 - 取組やしくみにつなげ・活かす柔軟な発想・機動力
 - ★体制構築を推進するコアメンバーが活躍しやすい環境作り
3. 地域にある(眠っている/気づいていない)人財・取組の発見
 - 動きだすきっかけ作り、脱領域(特に住民×専門職)のつながり作り
 - * アクションミーティング
4. 対話・話し合い、チーム作りの重要性
 - 一人ひとりがもつ体験やつながり、アイデアを最大限活かし合う
6. 主体的な意見・活動を行政が後おしすることで、見守り・SOS体制の基礎になるつながり・活動が生み出され、自己増殖、連動していく
 - 取組が見守り・SOS体制以外にも役立つ点が生まれてくる
5. 本人・家族の声を聴く、参加することで、関係者の力が引き出される
 - 一人の個別支援ネットワーク作りへ * (小さな)成功体験

変化のとらえ
活かす

A. アクション(8ステップ:循環システム)

認知症の人が行方不明にならずに安心・安全に外出できる
見守り・SOS体制を創る一連のアクションの連鎖



B-1

地元の本人・家族の声を聴く

B-7

仲間を増やす: 領域や世代を超えて

B-2

地域の実情、活動経過・結果を把握、情報化・可視化
統計等の整備・実態等の把握

B-6

立場を超えて話し合い、一緒にできることを考える
: アクションミーティング

B-5

言葉・用語をやさしく
適切でわかりやすく、配慮のあるものに

B-4

ビジョン、共通方針の共有

B-3

事務局と推進コアチームをつくる

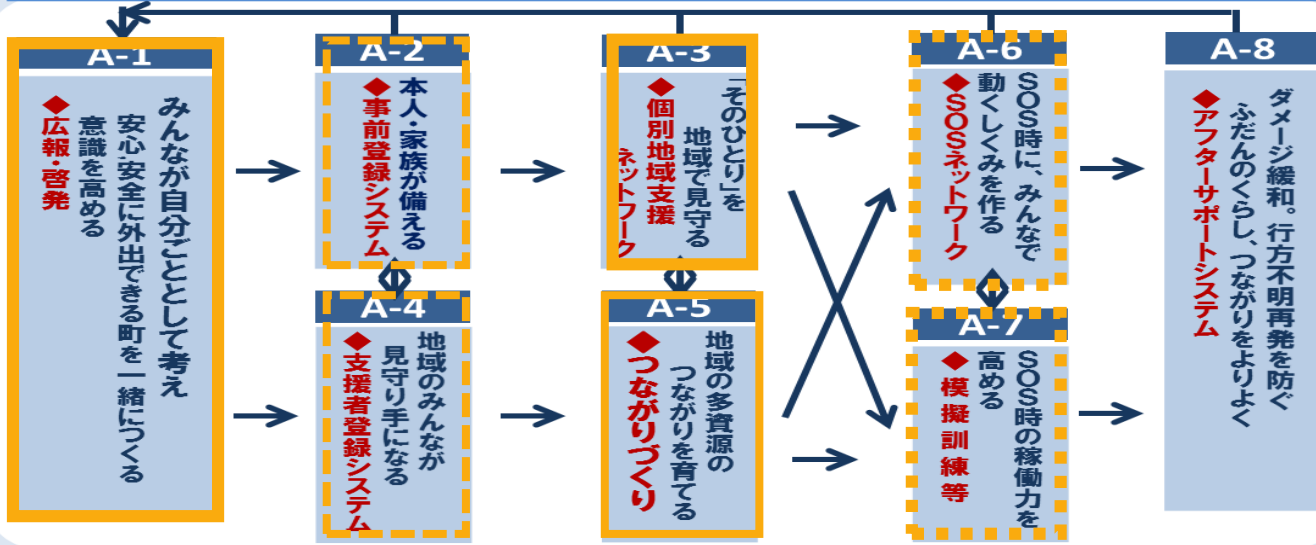
可能な範囲で
スモールスタート

B. 基盤づくり(7つのステップ)

見守り・SOS体制を創り出し、持続発展していくための基盤をつくる

A.アクション(8ステップ:循環システム)

認知症の人が行方不明にならずに安心・安全に外出できる
見守り・SOS体制を創る一連のアクションの連鎖



B-1

地元の人・家族の声を聴く

B-7

仲間を増やす: 領域や世代を超えて

B-6

立場を超えて話し合い、一緒にできることを考える
: アクションミーティング

B-5

言葉・用語をやさしく
適切でわかりやすく、配慮のあるものに

B-4

ビジョン、共通方針の共有

B-3

事務局と推進コアチームをつくる

可能な範囲で
スモールスタート

B-2

地域の実情、活動経過・結果を把握、情報化・可視化
統計等の整備・実態等の把握

B.基盤づくり(7つのステップ)

見守り・SOS体制を創り出し、持続発展していくための基盤をつくる

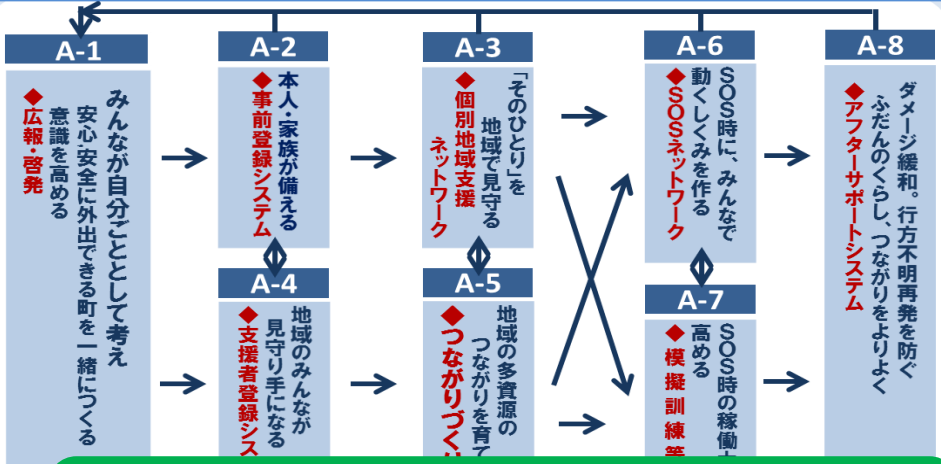
当事者・地域を起点に、市区町村-都道府県-全国レベルで重層的な体制構築を



基本パッケージの構成

A.アクション(8ステップ:循環システム)

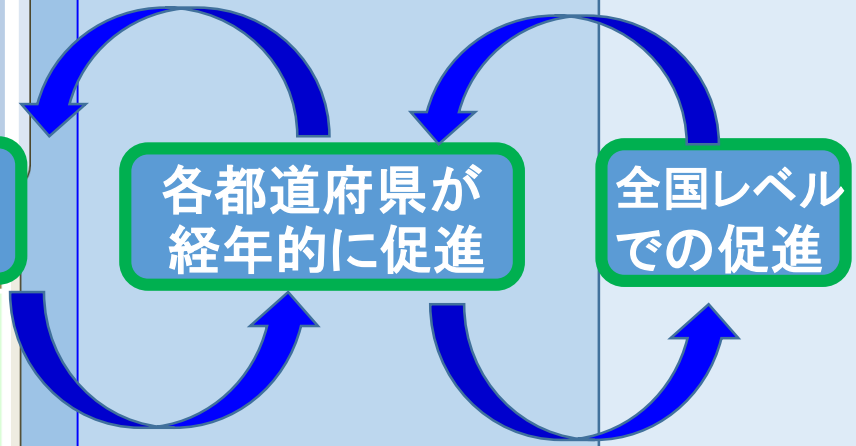
認知症の人が行方不明にならずに安心・安全に外出できる
見守り・SOS体制を創る一連のアクションの連鎖



各市区町村が経年的に拡充

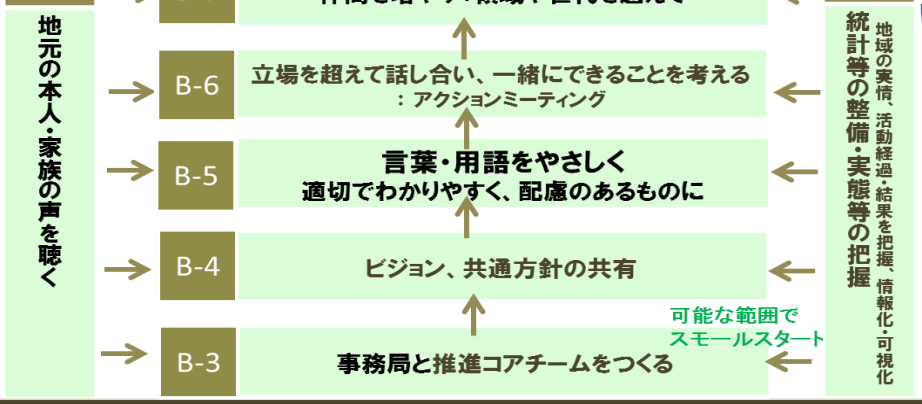
各都道府県が経年的に促進

全国レベルでの促進



B.基盤づくり(7つのステップ)

見守り・SOS体制を創り出し、持続発展していくための基盤をつくる



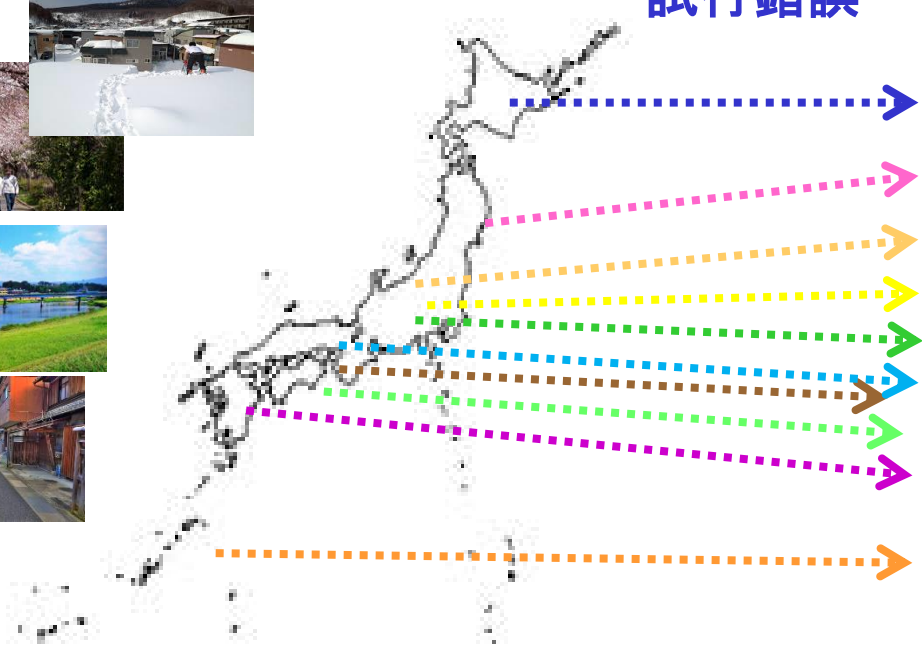
地元の人・家族の声を聴く

地域の実情、活動経過、結果を把握、情報化・可視化

実際に取組を持続発展させている 先行地域に学ぼう！



試行錯誤



今やるべきこと・できることを
見つけよう

各自治体

わがまち
ならではの
アクションを

*基本指針を
大切にしながら

ポスター報告 & 質疑応答

第1会場 * 自地域の多様な資源による体制づくり			
	報告内容	市区町村	お名前
①	搜索模擬訓練を通じて、住民・関係機関が地域でのつながりを再確認し、SOSネットワークを強化	北海道 釧路市	速水 陽 佐々木 幸子
②	認知症SOS探索訓練アクションミーティングを通じて地域の実情あった役立つ仕組と活動を一緒に育てる	新潟県 湯沢町	國松 明美 高橋 舞子
③	利用しやすく、一人ひとりの安心・安全を守るネットワークを地域の人たちと作り出す	兵庫県 加東市	石田 浩一
④	高齢者を見守り支える小さな地域での取り組み	福岡県 福岡市	荻田 哲司 城下 乃一

第2会場 * 個別支援を向上させる体制づくり

	報告内容	市区町村	お名前
⑤	警察で保護後に情報が行政に提供される仕組みを通じて本人と家族の安心・安全を共に守る ～認知症高齢者等支援対象者情報提供制度を活かした取り組み～	大阪府 東大阪市	福永 悟之 山内 江美子 能勢 友里
⑥	「みまもり登録」と「地域ケア会議」を活かして安心して外出できる地域をつくる	兵庫県 川西市	市場 大輔 中山 緑 森上 淑美

第3会場 * 広域体制づくり

	報告内容	市区町村	お名前
⑦	広域での見守り・SOS体制の構築に向けて府・保健所が市町・隣縣市・交通機関と共に広域模擬訓練を実施	京都府 ・木津川市 ・精華町	木下 直子 中畑 麻紀子 藤田 恭平

ポスター展示

	タイトル	県・ 市区町村	お名前
①	兵庫県における認知症の人の見守り体制構築に向けた市町支援の取組み	兵庫県	健康福祉部 少子高齢局 高齢対策課 認知症対策班
②	地域の人たちや交通機関と模擬訓練や工夫を重ね、見守り・SOSネットワークで外出を続けられる地域に！	京都府 京都市 岩倉地域	松本 恵生 小磯 正彦 (叡山電鉄)
③	認知症の人を地域で見守り支える仕組み作り ～オレンジサポーターよよる見守り活動～	群馬県 高崎市	田中 亜紀
④	認知症介護指導者と認知症地域支援推進員の取組み	大阪府 高槻市	辻田 裕之
⑤	住民主体の徘徊模擬訓練を通じた 認知症の普及啓発 ～認知症地域支援推進員の活動報告～	大分県 由布市	太田 加奈子



大切なことや工夫を
伝え合い



話合い、アクションを
共に重ねながら



認知症になっても
安心・安全に外出ができ
無事に家に戻れるわが地域に

参考資料（第1回検討委員会 2018年7月12日 配布資料より）

私たちからの提案：行方不明にならない見守り体制のために

佐藤 雅彦委員

（日本認知症本人ワーキンググループ 副代表）

1. 私たちが、行きたいところに安心して出かけ、無事に戻れるためのものにしてほしい

- ・一人ひとり、自分なりに行きたいところがある。
- ・外出し続けることは、健康を保ち、楽しく心豊か暮らしていくために欠かせない。
- ・外出できなくなったら、生きる力がしぼんでしまう。
- ・外出を止められたら、監視されるようだと、嫌だ、生きる力が削がれてしまう。

★何のために見守り・SOS ネットワークをつくるか、

本人がより安心・安全に外出することを守り、よりよく生きていけるために、という点を大事にしてほしい。

2. 偏見を強めるような言葉や表現を、使わないでほしい

- ・わけもなく外に出て歩いているのではない。
「徘徊」という言葉は、起きていることや必要なことをみえなくしてしまう。認知症の人への偏見を強めてしまう。使わないでほしい。
- ・「危ない人」、「迷子」、「捜索」、「手配」とか、自分だったら言われたくない言葉や、暗くて大変そうな表現を使わないでほしい。今使っている場合は、あらためてほしい。

3. 高齢者だけでなく、若くして認知症になった人もカバーしてほしい。

- ・せっかく作る時に、高齢者だけのものにしなくて、若い人も含めてほしい。

4. 私たちの能力を信じて、本人ができることを広げてほしい

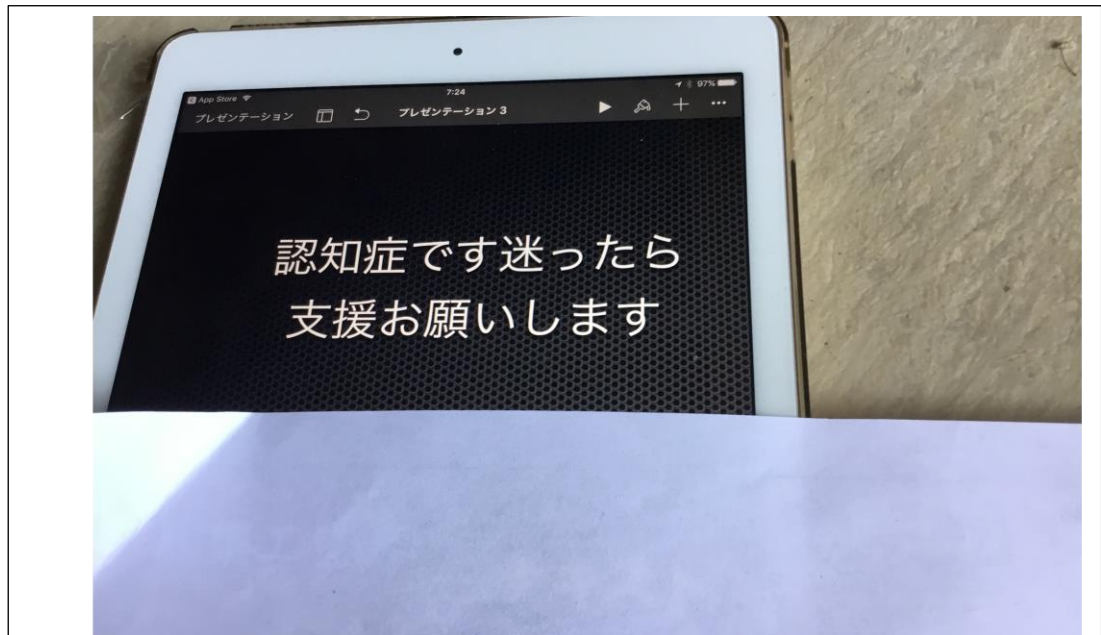
- ・周りの人たちがやることだけでなく、自分たちができることも紹介してほしい。
ヘルプカードの利用、GPSの利用、事前の登録など
- ・知らない間に名札やGPSをつけられ、監視されるようなのは嫌だ。

5. 私たちが読める、わかりやすい説明や資料をつくってほしい

6. 私たちの意向の重視して、取組身を進めてほしい

- ・何か取組む準備の段階や実際の取組み、振り返り等の時にわたしたちの体験や意見を聞いて反映してほしい。

7. 大がかりなことだけでなく、今困っている一人から、見守りやいざという時の支援を



自分が、ヘルプカードを持ち歩く。

「私は認知症です、道に迷いました、家まで案内してください」。

裏面に住所、氏名、連絡先をかく。

★一律にではなく、やりたい意向のある人から始めて、
一人ひとりのやり方を一緒に考えて、やってみながら改良を。

平成29年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「認知症の人の行方不明を防ぎ安心して外出できる体制整備に関する全国調査」
【都道府県回答とりまとめ結果】

I 調査結果回答都道府県の概要について

1	市区町村数	47	都道府県
2	回答提出市町数	47	都道府県
3	回答率	100%	

II 認知症の人の行方不明を防ぐための見守り・SOS体制の基盤作りについて

1. 見守り・SOS体制構築に関する都道府県としての計画策定に関して

	回答数	割合
① 第6期介護保険事業支援計画の中ですでに策定し、体制構築の継続的な拡充を図っている。	39	83.0%
② 第6期介護保険事業支援計画の中では策定していなかったが、今年度の施策として計画を策定して取組みを進めてきており、第7期介護保険事業支援計画の中で策定予定である。	2	4.3%
③ 今年度の施策として計画を策定して取組みを進めてきており、来年度以降も計画(介護保険事業支援計画以外)を策定し取組む予定としている。	1	2.1%
④ 今年度の施策として計画を策定していないが、来年度以降の計画(介護保険事業支援計画以外)として策定し取組む予定としている。	1	2.1%
⑤ 今年度の施策として掲げておらず、来年度も予定していない。	4	8.5%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

◆上記で②、③、④、⑤と回答の場合、策定してこなかった理由(複数回答)

	n = 8	回答数	割合
a. 他の認知症施策で取組むべき課題が多く、施策全体の中で見守り・SOS体制構築の優先順位が低いため。		5	62.5%
b. 見守り・SOS体制構築における都道府県としての役割が不明確なため。		6	75.0%
c. 見守り・SOS体制構築を進める都道府県としての担当部署が不明確なため。		1	12.5%
d. 見守り・SOS体制構築を進める上での警察等との連携や調整が整っていないため。		1	12.5%
e. 見守り・SOS体制構築を進める上での都道府県としての具体的な方策が不明確なため。		6	75.0%
f. 見守り・SOS体制構築を進める上での予算確保が困難なため。		1	12.5%
g. 行方不明の発生件数が少ないため。		0	0.0%
h. その他		2	25.0%

2. 見守り・SOS体制を構築していく上での、貴都道府県での基本方針等について

1) 見守り・SOS体制構築に関する方針について

	回答数	割合
① 事前登録等により普段からの地域での見守り体制と行方不明時の早期発見に向けた地域の協力体制(SOS体制)の構築を一体的に推進	17	36.2%
② 事前登録を行い、行方不明時に地域で発見協力を行う体制構築を推進	1	2.1%
③ 主に地域での見守り体制構築を推進	13	27.7%
④ 主に行方不明時に地域で発見協力を行う協力体制(SOS体制)の構築を推進	8	17.0%
⑤ 都道府県として、見守り・SOS体制構築の明確な方針を打ち出していない	6	12.8%
⑥ その他	2	4.3%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

2) 見守り・SOS体制構築を進める上で重視している方針について(複数回答)

	n = 47	回答数	割合
① 認知症の人の視点を重視して体制構築を進めている。		20	42.6%
② 認知症の人への偏見や行動制限等を助長してしまわないよう、本人が安心して外出できる地域作りを進めている。		20	42.6%
③ 見守り・SOS体制に関する言葉や用語を、適切でやさしいものになるよう配慮しながら進めている。		13	27.7%
④ 見守り・SOS体制構築を単発の事業とせず既存の事業とつなぎながら進めている。		14	29.8%
⑤ 個人情報保護を適切に行いつつ、取組みが円滑に進むよう個人情報の共有を図ることを行政として進めている。		24	51.1%
⑥ その他、重視していること		4	8.5%
⑦ 都道府県として特に明確な方針を立てていない。		10	21.3%

3) 見守り・SOS体制構築をしていく上で、貴都道府県では、認知症の本人が参画する機会の有無(複数回答)

	n = 47	回答数	割合
① 取組を進めていく上で、都道府県の職員等が本人から体験や必要なことを聞く機会を作っている。		10	21.3%
② 公の場で多くの人たちが、本人から体験や求めていることを聞く機会を作っている。		10	21.3%
③ 体制構築に関する会議等で、本人が発言する機会を作っている。		2	4.3%
④ 模擬訓練等に本人が参加する機会を作っている。		0	0.0%
⑤ その他		3	6.4%
⑥ 本人が参画する機会は作っていない。		30	63.8%
		55	117.0%

3. 認知症(疑いを含む)の人の行方不明の年間発生件数等の統計作成に関して

1) 統計の作成や公表について

	回答数	割合
① 都道府県全体の年間発生件数の経年比較の統計を作成し、公表している。	8	17.0%
② 都道府県全体の年間発生件数の経年比較の統計を作成しているが、公表は行っていない。	6	12.8%
③ 都道府県全体の年間発生件数は単年(度)ごとに把握しているが、経年比較の統計は作成していない。	19	40.4%
④ その他	8	17.0%
⑤ 都道府県全体の年間発生数の単年(度)ごとの把握をしていない。	6	12.8%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

◆上記で①と回答の場合、公表先について(複数回答)

	回答数	割合
① 都道府県民	4	50.0%
② 市区町村	7	87.5%
③ 地域包括支援センター	5	62.5%
④ 認知症疾患医療センター	4	50.0%
⑤ その他	5	62.5%

n = 8

2) 平成28年1年間(あるいは、平成28年度1年間)の把握している下記の人数

警察への届出件数:
警察データ

把握の有無		
有	無	無効
35	2	10
74.5%	4.3%	21.3%

認知症(疑い含む)行方不明件数 - 累計	
	9,117 件
再掲	発見件数
	6,677 件
	(うち死亡発見件数)
	182 件
	未発見件数
60 件	
発見・未発見状況不明	
2 件	

都道府県として把握

把握の有無		
有	無	無効
19	6	22
40.4%	12.8%	46.8%

認知症(疑い含む)行方不明件数 - 累計	
	2,317 件
再掲	発見件数
	2,249 件
	(うち死亡発見件数)
	90 件
	未発見件数
53 件	
発見・未発見状況不明	
4 件	

4. 管内市区町村の見守り・SOS体制構築の実態や課題に関する把握状況について

	回答数	割合
① 調査票を用いた全体的な把握に加えて、聞き取り等を通じて各市区町村の現状や課題を具体的にとらえ、それらを体制構築に活かしている。	9	19.1%
② 調査票を用いた全体的な把握を行い、それらを体制構築に具体的に活かしている。	11	23.4%
③ 調査票を用いた全体的な把握を行っているが、それらを体制構築に具体的に活かすまではしていない。	22	46.8%
④ その他	4	8.5%
⑤ 都道府県として、市区町村の見守り・SOS体制構築の状況の把握をしていない。	1	2.1%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

5. 見守り・SOS体制構築を推進していく組織(委員会、協議体等)について

	回答数	割合
① 体制構築を推進していくことを目的とした組織を都道府県として設置し、施策や事業に関する集中的な討議を行い、推進・改善を図っている。	8	17.0%
② 組織として特に設置していないが、既存の委員会等を活かして施策や事業に関する検討を行い、推進・改善につなげている。	12	25.5%
③ 既存の委員会等で体制構築に関する説明・報告等を行っているが、そこでは施策や事業の推進・改善に関する討議までは行っていない。	8	17.0%
④ その他	3	6.4%
⑤ 組織の設置や委員会等での討議は行っていない。	16	34.0%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

6. 見守り・SOS体制を構築するための警察との協力体制について

	回答数	割合
① 行政担当から警察にアプローチし、協定を結んで継続的な協力体制を築いている。	1	2.1%
② 行政担当から警察にアプローチし、協定を結んではいないが、協力体制を築いている。	25	53.2%
③ 行政担当から警察にアプローチしているが、協力体制を築くには至っていない。	1	2.1%
④ 行政担当から警察にアプローチは(あまり)していないが、警察からアプローチがあり協力体制が築けている。	2	4.3%
⑤ その他	11	23.4%
⑥ 行政担当も、警察も、アプローチを(あまり)しておらず、協力体制を築くには至っていない。	7	14.9%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

◆上記で①と回答の場合、協定内容

7. 行方不明者を発見するためのGPS等のツールの導入・活用状況等について

ツール導入状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	GPS機器	スマートフォンアプリ	Bluetooth	ICタグ	GPSインソール/シューズ	見守りキーホルダー	QRコード	連絡先シール等	その他
回答数	1	0	1	0	0	1	1	1	1
割合	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%

8. 各市区町村が見守りやSOS体制整備を進めるための手引きや必要な書式等の作成状況について（複数回答）

	n = 47	回答数	割合
① 取組を進めるための手引きやガイド等を作っている。		6	12.8%
② 各市区町村内の体制作りで必要な要綱の基本フォームを作っている。		6	12.8%
③ 各市区町村内の体制作りで必要な書式の基本フォームを作っている。		4	8.5%
④ 管内の市区町村間で行方不明時の情報共有・協力依頼をするための共通書式を作っている。		24	51.1%
⑤ 他の都道府県との間で、行方不明時の情報共有・協力依頼をするための共通書式を作っている。		20	42.6%
⑥ その他、都道府県として作っているものがある。		6	12.8%
⑦ 特に作っていない。		14	29.8%

Ⅲ 都道府県による各市区町村の見守り・SOS体制整備の促進について

1. 見守りやSOS体制に関する広報・啓発の実施状況について（複数回答）

	n = 47	回答数	割合
① チラシやパンフレット等を作って、配布している。		7	14.9%
② チラシやパンフレット等を都道府県の行政関係者が持って関係機関に出向いて個別に広報・啓発している。		2	4.3%
③ チラシやパンフレット等を、都道府県のホームページに掲載している。		14	29.8%
④ 行方不明を防ぐための普及啓発の講演会等を開催している。		0	0.0%
⑤ 都道府県の広報担当部署と協働して、広報・啓発している。		6	12.8%
⑥ 地元のメディアを活用して広報・啓発している。		6	12.8%
⑦ その他		10	21.3%
⑧ 特に実施していない。		18	38.3%

2. 市区町村を対象とした見守り・SOS体制構築に係る連絡会・研修会の開催について

	回答数	割合
① 年間複数回のシリーズで開催している。	5	10.6%
② 年回1回、開催している。	22	46.8%
③ これまで開催していないが、来年度以降開催予定。	6	12.8%
④ これまで開催がなく、来年度以降も開催の予定はない。	13	27.7%
無回答	1	2.1%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

◆上記で①、②と回答の場合、参加者として市区町村関係者以外に参加を呼びかけている人

	回答数	割合
n = 27		
① 都道府県警察の担当者	18	66.7%
② 都道府県管内の各警察署の担当者	9	33.3%
③ 医師	1	3.7%
④ 若年認知症コーディネーター	6	22.2%
⑤ 認知症介護指導者	4	14.8%
⑥ 企業関係者	6	22.2%
⑦ その他	15	55.6%
⑧ 特になし(行政関係者のみ)	5	18.5%

3. 市区町村の見守り・SOS体制構築を進めていくための個人のバックアップについて

	回答数	割合
① 取組の強化が必要と考えられる市区町村に出向いて個別にバックアップを行っている。	5	10.6%
② 取組の強化が必要と考えられる市区町村に出向いてはいないが、電話等で個別に相談・助言を行っている。	21	44.7%
③ その他	6	12.8%
④ 個別のバックアップは行っていない。	15	31.9%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

4. 管内市区町村の見守り・SOS体制構築の取組を集約した資料等の作成について

	回答数	割合
① 毎年、作成している。	24	51.1%
② 毎年ではないが、作成している。	5	10.6%
③ これまで作成していなかったが、今年度、作成予定。	2	4.3%
④ これまで作成していなかったが、来年度、作成予定。	0	0.0%
⑤ これまで作成しておらず、今後も作成の予定はない。	16	34.0%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

5. 行方不明になった人の発見後に、そのケースに関する情報が警察から行政に提供される仕組みを作っているか

	回答数	割合
① 警察と行政の間で情報提供がされる仕組みがすでにある。	9	19.1%
② まだでき上がっていないが準備中であり、今年度内にできる予定。	1	2.1%
③ まだないが、来年度に予定している。	3	6.4%
④ まだなく、今のところ予定もない	34	72.3%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

◆上記で①と回答の場合、

1) この仕組みを通じての成果

	n = 9	回答数	割合
① これまで警察に保護されも行政が知ることができなかったケースを把握できるようになった。		2	22.2%
② 警察に保護されたケースを行政が把握し、その後の支援に入れるようになったケースがある。		2	22.2%
③ その後の支援に入ったことで、それまで行方不明を繰り返していたケースの再発を防げている。		2	22.2%
④ 警察からの情報提供をきっかけに、ふだんの警察と行政の連携が図りやすくなっている。		6	66.7%
⑤ その他		2	22.2%

2) 仕組みに関する課題が生じていますか。

	n = 9	回答数	割合
① 特に生じていない。		7	77.8%
② 生じている。		2	22.2%

◆仕組みに関する課題

IV 広域の体制整備について

【A.都道府県管内の広域の体制作り】

1. 市区町村を越えて行方不明者を早期発見するための、都道府県管内の広域の体制作りについて

n = 47		回答数	割合
① 既に都道府県全域で広域の体制を整備している。		21	44.7%
② 現在、都道府県として管内全域での広域体制作りを進めている。		7	14.9%
③ 都道府県として、管内全域ではないが、既に一部のブロック等での広域体制を整備している。		2	4.3%
④ 都道府県として、管内全域ではないが、現在、一部のブロック等での広域体制作りを進めている。		2	4.3%
⑤ その他		5	10.6%
⑥ 今年度は、都道府県として広域の体制作りはしていないが、来年度予定している。		5	10.6%
⑦ 都道府県として広域の体制作り等はしておらず、来年度も予定していない。		5	10.6%
無回答		0	0.0%
無効		0	0.0%
		47	100.0%

◆上記で①、②、③、④と回答の場合

1) 管内の広域体制作りに関する保健所の関与状況について

n = 32		回答数	割合
① 本庁から保健所に働きかけ、全保健所が管内市区町村の広域体制作りの実際に関与している。		5	15.6%
② 本庁から保健所に働きかけ、一部の保健所が管内市区町村の広域体制作りの実際に関与している。		4	12.5%
③ 本庁から直接の働きかけはないが、一部の保健所が管内市区町村の広域体制作りの実際に関与している。		7	21.9%
④ その他		2	6.3%
⑤ 保健所に特に働きかけや情報提供はしていない。		18	56.3%

2) 都道府県内の広域での模擬訓練等の実施状況について(複数回答)

n = 32		回答数	割合
① 都道府県として、管内の広域を対象とした(GPSを用いない)模擬訓練を実施している。		2	6.3%
② 都道府県として、管内の広域を対象としてGPSを用いた模擬訓練を実施している。		2	6.3%
③ 都道府県としては実施していないが、複数の市区町村が共同実施する(GPSを用いない)広域の模擬訓練に協力している。		2	6.3%
④ 都道府県としては実施していないが、複数の市区町村が共同実施するGPSを用いた広域の模擬訓練に協力している。		2	6.3%
⑤ その他		9	28.1%
⑥ 都道府県として広域の模擬訓練の実施・協力等は行っていない。		30	93.8%

3) 管内の広域体制作りによる成果

n = 32		回答数	割合
① 行方不明発生時の広域での市区町村間の情報伝達・共有がスムーズになった。		20	62.5%
② 行方不明発生時の広域での警察と行政との伝達情報がスムーズになった。		11	34.4%
③ 行方不明発生時に、都道府県が各市区町村等の関係者とのやりとりがスムーズになった。		17	53.1%
④ 行方不明発生時に、発生市区町村が依頼先の市区町村等の関係者とのやりとりがスムーズになった。		9	28.1%
⑤ 市区町村間の広域の体制作りを通じて、市区町村を越えて発見が可能になった例が増えている。		5	15.6%
⑥ 広域での行方不明の発生状況の実態を把握しやすくなった。		11	34.4%
⑦ その他		8	25.0%

4) 管内の広域の体制作りで工夫している点・特徴等

2. 市区町村の行政界を越えて行方不明者を早期発見するための、都道府県管内の広域体制作りに関する課題

【B.都道府県外の広域の体制作り】

3. 他の都道府県との間での広域の体制整備について。平成28年度・協力をした・された件数

① 自分の都道府県から他都道府県への協力依頼件数

152 件

② 他都道府県からの協力依頼を受け、管内市区町村に協力依頼した件数

2,172 件

4. 他の都道府県と協働した広域での発見の体制作りについて（複数回答）

n = 47		回答数	割合
① 他都道府県へ発見協力依頼(解除)の仕組みを作っている。		33	70.2%
② 他の都道府県と協力して、広域の発見協力依頼(解除)の共通の仕組みを作っている。		10	21.3%
③ 近隣の都道府県等と協力して、境界の市区町村等による合同での模擬訓練を行っている。		3	6.4%
④ 他の都道府県と協力して、発見後に該当者が発見地から居住地に円滑に戻られるための取決めや仕組みを作っている。		0	0.0%
⑤ その他		1	2.1%
⑥ 特に行っていない。		10	21.3%

◆上記で①、②、③、④と回答の場合

1) 他の都道府県との広域体制作りによる成果

n = 35		回答数	割合
① 行方不明発生時の他の都道府県との情報伝達・共有がスムーズになった。		27	77.1%
② 関係者とのやりとりがスムーズになった。		13	37.1%
③ 都道府県を越えて情報伝達が進むようになり、都道府県を越えて発見が可能になった例が増えている。		1	2.9%
④ 都道府県を越えた広域での行方不明の発生状況の実態を把握しやすくなった。		8	22.9%
⑤ その他		2	5.7%
⑥ 成果は見られていない。		5	14.3%

2) 他の都道府県との広域の体制作りで工夫している点・特徴等

5. 他の都道府県との広域体制作りについて課題となっていること

V 認知症の人の行方不明を防ぐ見守り・SOS体制に関する総合的な進捗状況と今後について

1. 地域での普段からの見守り体制と行方不明発生時の地域での発見協力体制(SOS体制)の一体的な構築がどの程度

	回答数	割合
① ほぼ全市区町村で実施されている。	20	42.6%
② 半分以上の市区町村で実施されている。	15	31.9%
③ 一部の市区町村で実施されている。	7	14.9%
④ ほとんどの市区町村で実施されていない。	0	0.0%
⑤ 市区町村の実施状況を把握していない。	5	10.6%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	47	100.0%

2. 見守り・SOS体制を拡充していくために、最も課題となっていること

3. 見守り・SOS体制を拡充していくために、今後特に力を入れていきたい点

4. 見守り・SOS体制を拡充していくために全国レベルで期待したいことについて (複数回答)

	回答数	割合
	n = 47	
	全国レベル	
① 全国での共通の仕組みや書式等の整備	31	66.0%
② 行方不明発生時に都道府県の境界を越えて探す広域の仕組み作り	22	46.8%
③ 警察との協働がより円滑になるための全国レベルでの警察と行政の基本的な連携方策の整備	32	68.1%
④ 都道府県の行政担当者等が集まり、取組に関して情報共有や討議をする機会	16	34.0%
⑤ 全国を取組に関する情報提供	28	59.6%
⑥ 具体的な進め方についての助言・バックアップ	22	46.8%
⑦ その他	4	8.5%

平成29年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「認知症の人の行方不明を防ぎ安心して外出できる体制整備に関する全国調査」
【市区町村回答とりまとめ結果】

I 調査結果回答市区町村の概要について

1	市区町村数	1741	市区町村
2	回答提出市町数	1083	市区町村
3	回答率	62.2%	

II 認知症の人の行方不明を防ぐための見守り・SOS体制の基盤作りについて

1. 見守り・SOS体制構築に関する市区町村としての計画策定に関して

	回答数	割合
① 第6期介護保険事業計画の中ですでに策定し、体制構築の継続的な拡充を図っている。	696	64.3%
② 第6期介護保険事業計画の中では策定していなかったが、今年度の施策として計画を策定して取組みを進めてきており、第7期介護保険事業計画の中で策定予定である。	109	10.1%
③ 今年度の施策として計画を策定して取組みを進めてきており、来年度以降も計画(介護保険事業計画以外)を策定し取組む予定としている。	46	4.2%
④ 今年度の施策として計画を策定していないが、来年度以降の計画(介護保険事業計画以外)として策定し取組む予定としている。	87	8.0%
⑤ 今年度の施策として掲げておらず、来年度も予定していない。	144	13.3%
無回答	1	0.1%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で②、③、④、⑤と回答の場合、策定しなかった理由(複数回答)

	回答数	割合
n = 386		
a. 他の認知症施策等で取組むべき課題が多く、施策全体の中で見守り・SOS体制構築の優先順位が低いため。	92	23.8%
b. 見守り・SOS体制構築における市区町村としての役割が不明確なため。	26	6.7%
c. 見守り・SOS体制構築を進める市区町村としての担当部署が不明確なため。	28	7.3%
d. 見守り・SOS体制構築を進める上での警察等との連携や調整が整っていないため。	96	24.9%
e. 見守り・SOS体制構築を進める上での市区町村としての具体的な方策が不明確なため。	153	39.6%
f. 見守り・SOS体制構築を進める上での予算確保が困難なため。	23	6.0%
g. 行方不明の発生件数が少ないため。	161	41.7%
h. その他	78	20.2%

2. 見守り・SOS体制を構築していく上で、貴市区町村での基本方針等について

1) 見守り・SOS体制構築に関する方針について

	回答数	割合
① 事前登録等により普段からの地域での見守り体制と行方不明時の早期発見に向けた地域の協力体制(SOS体制)の構築を一体的に推進	411	38.0%
② 事前登録を行い、行方不明時に地域で発見協力を行う体制構築を推進	217	20.0%
③ 主に地域での見守り体制構築を推進	242	22.3%
④ 主に行方不明時に地域で発見協力を行う協力体制(SOS体制)の構築を推進	73	6.7%
⑤ 市区町村として、見守り・SOS体制構築の明確な方針を打ち出していない	116	10.7%
⑥ その他	22	2.0%
無回答	2	0.2%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

2) 見守り・SOS体制構築を進める上で重視している方針について(複数回答)

	n = 1083	回答数	割合
① 認知症の人の視点を重視して体制構築を進めている。		407	37.6%
② 認知症の人への偏見や行動制限等を助長してしまわないよう、本人が安心して外出できる地域作りを進めている。		563	52.0%
③ 見守り・SOS体制に関する言葉や用語を、適切でやさしいものになるよう配慮しながら進めている。		315	29.1%
④ 見守り・SOS体制構築を単発の事業とせず既存の事業とつなぎながら進めている。		423	39.1%
⑤ 個人情報保護を適切に行いつつ、取組みが円滑に進むよう個人情報の共有を図ることを行政として進めている。		562	51.9%
⑥ その他、重視していること		47	4.3%
⑦ 市区町村として特に明確な方針を立てていない。		160	14.8%

3) 見守り・SOS体制構築をしていく上で、貴市区町村では、認知症の本人が参画する機会の有無(複数回答)

	n = 1083	回答数	割合
① 取組を進めていく上で、市区町村の職員等が本人から体験や必要なことを聞く機会を作っている。		143	13.2%
② 公の場で多くの人たちが、本人から体験や求めていることを聞く機会を作っている。		51	4.7%
③ 体制構築に関する会議等で、本人が発言する機会を作っている。		23	2.1%
④ 模擬訓練等に本人が参加する機会を作っている。		26	2.4%
⑤ その他		96	8.9%
⑥ 本人が参画する機会は作っていない。		811	74.9%

3. 認知症(疑いを含む)の人の行方不明の年間発生件数等の統計作成に関して

1) 統計の作成や公表について

	回答数	割合
① 市区町村全体の年間発生件数の経年比較の統計を作成し、幅広く公表している。	34	3.1%
② 市区町村全体の年間発生件数の経年比較の統計を作成しているが幅広い公表は行っていない。	125	11.5%
③ 市区町村全体の年間発生件数は単年(度)ごとに把握しているが、経年比較の統計は作成していない。	445	41.1%
④ その他	54	5.0%
⑤ 市区町村全体の年間発生数の単年(度)ごとの把握をしていない。	425	39.2%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①と回答の場合、公表先について(複数回答)

	n = 34	回答数	割合
① 住民		23	67.6%
② 地域包括支援センター		44	129.4%
③ 認知症疾患医療センター		15	44.1%
④ その他		33	97.1%

2) 平成28年1年間(あるいは、平成28年度1年間)の把握している下記の人数

把握の有無			警察への届出件数: 警察データ		
有	無	無効	認知症(疑い含む)行方不明件数 - 累計		
242	840	1		19,871 件	
22.3%	77.6%	0.1%	発見件数	2,183 件	
n = 1083			(うち死亡発見件数)	56 件	
			再掲	未発見件数	20 件
			発見・未発見状況不明	42 件	

把握の有無			市区町村として把握		
有	無	無効	認知症(疑い含む)行方不明件数 - 累計		
602	480	1		4,375 件	
55.6%	44.3%	0.1%	発見件数	4,092 件	
n = 1083			(うち死亡発見件数)	197 件	
			再掲	未発見件数	75 件
			発見・未発見状況不明	16 件	

把握の有無			左記以外の把握		
有	無	無効	認知症(疑い含む)行方不明件数 - 累計		
48	1035	0		528 件	
4.4%	95.6%	0.0%	発見件数	521 件	
n = 1083			(うち死亡発見件数)	13 件	
			再掲	未発見件数	3 件
			発見・未発見状況不明	20 件	

4. 行方不明の発生に関する実態の把握・検討等について

	回答数	割合
① 行方不明になったケース全員に関して、発生した場所や時間、通報や発見までの時間、発見者等を把握・検討し、見守りやSOS体制の強化に活かしている。	181	16.7%
② 全員ではないが一部のケースに関して、発生した場所や時間、通報や発見までの時間、発見者等を把握・検討し、見守りやSOS体制の強化に活かしている。	316	29.2%
③ その他	64	5.9%
④ 特に行っていない。	518	47.8%
無回答	4	0.4%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

5. 見守り・SOS体制構築を経年的に推進していく役割の組織(委員会、協議体等)について

	回答数	割合
① 体制構築を推進していくことを目的とした組織を市区町村として設置し、事業や取組に関する討議を行い、推進・改善を図っている。	203	18.7%
② 組織として特に設置していないが、既存の委員会等を活かして事業や取組に関する検討を行い、推進・改善につなげている。	221	20.4%
③ 既存の委員会等で体制構築に関する説明・報告等を行っているが、そこで事業や取組の推進・改善に関する討議までは行っていない。	159	14.7%
④ その他	55	5.1%
⑤ 組織の設置や委員会等での討議は行っていない。	442	40.8%
無回答	3	0.3%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

6. 見守り・SOS体制を構築するための地域での話し合いの実施状況について

	回答数	割合
① 地域の医療・介護専門職と住民と一緒に話し合う機会を年間で継続的に作っている。	117	10.8%
② 地域の医療・介護専門職と住民と一緒に話し合う機会を年間1回程度作っている。	139	12.8%
③ 地域の医療・介護専門職、住民がそれぞれ話し合う機会は作っているが、それらが一緒に話し合う機会は作っていない。	132	12.2%
④ その他	122	11.3%
⑤ 地域で話し合う機会は作っていない。	573	52.9%
無回答	0	0.0%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①、②、③、④と回答の場合、話し合いの内容をどう活かしているか(複数回答)

	回答数	割合
① 話し合いで出た意見やアイデアをもとに、参加者が主体的に活動を進めていけるよう行政が後押しをしている。	183	35.9%
② 話し合いで出た意見やアイデアは、主に行政の取組みに活かしている(主体的な活動の後押しはあまりしていない)。	248	48.6%
③ 話し合いで出た意見やアイデアを、行政の取組みに直接的には活かしていない。	40	7.8%
④ その他	39	7.6%
無回答	573	112.4%
無効	0	0.0%

n = 510

7. 見守り・SOS体制を構築するための警察との協力体制について

	回答数	割合
① 行政担当から警察にアプローチし、協定を結んで継続的な協力体制を築いている。	164	15.1%
② 行政担当から警察にアプローチし、協定を結んではいないが、協力体制を築いている。	560	51.7%
③ 行政担当から警察にアプローチしているが、協力体制を築くには至っていない。	21	1.9%
④ 行政担当から警察にアプローチは(あまり)していないが、警察からアプローチがあり協力体制が築けている。	107	9.9%
⑤ その他	98	9.0%
⑥ 行政担当も、警察も、アプローチを(あまり)しておらず、協力体制を築くには至っていない。	127	11.7%
無回答	6	0.6%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

8. 行方不明者を発見するためのGPS等のツールの導入・活用状況等について

n = 1083

ツール導入状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	GPS機器	スマートフォンアプリ	Bluetooth	ICタグ	GPSインソール/シューズ	見守りキーホルダー	QRコード	連絡先シール等	その他
回答数	375	26	9	6	21	62	67	126	130
割合	34.6%	2.4%	0.8%	0.6%	1.9%	5.7%	6.2%	11.6%	12.0%

9. 見守りやSOS体制整備を進めるための要綱や手引き、必要な書式等作成状況について(複数回答)

n = 1083

	回答数	割合
① 見守り・SOS体制に関する要綱を作っている。	537	49.6%
② 支援関係者向けの手引きを作っている。	180	16.6%
③ 住民向けの手引き等を作っている。	131	12.1%
④ 行政内部での業務分担や引継ぎに関する手引き等を作っている。	219	20.2%
⑤ 体制作りで必要な書式のフォームを作っている。	307	28.3%
⑥ 警察と協議し、行方不明時の情報共有・協力依頼をするための共通書式を作っている。	339	31.3%
⑦ 他の市区町村と協議し、行方不明時の情報共有・協力依頼をするための共通書式を作っている。	139	12.8%
⑧ その他、市区町村として作っているものがある。	75	6.9%

Ⅲ 貴市区町村の見守り・SOS体制等の体制整備について

1. 見守りやSOS体制に関する広報・啓発の実施状況について（複数回答）

	n = 1083	回答数	割合
① チラシやパンフレット等を作って、配布している。		519	47.9%
② チラシやパンフレット等を市区町村の行政関係者が持って関係機関に出向いて個別に広報・啓発している。		242	22.3%
③ チラシやパンフレット等を、市区町村のホームページに掲載している。		357	33.0%
④ 行方不明を防ぐための普及啓発の講演会等を開催している。		104	9.6%
⑤ 市区町村の広報担当部署と協働して、広報・啓発している。		292	27.0%
⑥ 地元のメディアを活用して広報・啓発している。		100	9.2%
⑦ その他		125	11.5%
⑧ 特に実施していない。		288	26.6%

2. 行方不明の心配がある人の事前登録する仕組の有無

	回答数	割合
① 事前登録の仕組をすでに作ってある。	627	57.9%
② まだでき上がっていないが準備中であり、今年度内にできる予定。	37	3.4%
③ まだないが、来年度に予定している。	64	5.9%
④ まだなく、今のところ予定もない。	353	32.6%
無回答	2	0.2%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①と回答の場合、登録者数

1) 認知症(疑い含む)の人の登録者数(2017年10月1日時点あるいは直近)

43,555 名 (全市区町村の登録者総数) 平均:70.5 最大:2,149 最小:1

2) 必要な人が登録につながるための工夫について（複数回答）

	n = 627	回答数	割合
① チラシや説明文書を、本人・家族から見てやさしい内容になるよう工夫している。		312	49.8%
② 必要と思われる人を関係者の情報や調査等をもとに抽出している。		126	20.1%
③ 必要と思われる人に個別に出向き、事前登録を勧めている。		224	35.7%
④ 医師や医療・介護の関係者に、登録を勧めて欲しいと呼びかけている。		402	64.1%
⑤ 自治会や民生委員等に、登録を勧めて欲しいと呼びかけている。		282	45.0%
⑥ 住民に広く周知を行っている。		301	48.0%
⑦ その他		88	14.0%
⑧ 特に行っていない		61	9.7%

3) 事前登録後の登録者への関わり状況 (複数回答)

	n = 627	回答数	割合
① 登録があった本人と個別に話し合い、思いや外出時の様子をよく聞いている。		118	18.8%
② 登録があった本人と外出するルートと一緒に歩いて、経路や関わる人等を確認している。		11	1.8%
③ 登録があった本人を普段から見守るために、地域の関係者での話し合いを行っている。		77	12.3%
④ 登録があった本人については地域ケア会議で検討・共有している。		62	9.9%
⑤ 登録があった本人の個別の見守りマップ等を作成し、具体的な守り等に活かしている。		23	3.7%
⑥ 外出時に身につけて身元が分かるものを渡している		179	28.5%
⑦ 登録があった本人の定期的な確認や更新等の仕組みを作っている。		153	24.4%
⑧ その他		63	10.0%
⑨ 特になし		233	37.2%

4) 事前登録による成果 (複数回答)

	n = 627	回答数	割合
① 見守りが必要な人を早期に把握できるようになった。		344	54.9%
② 見守りが必要な人を地域ぐるみで支えられるケースが増えてきた。		111	17.7%
③ 医療や介護の専門職の地域での見守りや行方不明防止に関する意識が高まってきた。		223	35.6%
④ 実際に行方不明が発生した場合、事前登録があったことで、早期の通報・発見につながったケースがある。		259	41.3%
⑤ その他の成果がみられている。		44	7.0%
⑥ 成果は特にみられていない。		106	16.9%

5) 事前登録(の仕組み)に関する課題の有無

	n = 627	回答数	割合
① 特に生じていない。		471	75.1%
② 生じている。		166	26.5%

◆事前登録に関する課題

3. 事前登録以外で、行方不明の心配がある人に関して個別に支援するネットワーク作り等に取り組む (複数回答)

	n = 1083	回答数	割合
① 行方不明の心配のある人を、関係者を通じて定期的に把握するようにしている。		194	17.9%
② 行方不明の心配のある人については、地域包括支援センター等が中心になって個別の支援ネットワークを作る取組を行っている。		280	25.9%
③ 行方不明の心配のある人については、地域ケア会議等で検討するようにしている。		309	28.5%
④ その他		86	7.9%
⑤ 自治体としては特に行っていない。		437	40.4%

4. 行方不明の心配がある人を地域の中でふだんから見守り行方不明発生時に発見活動に協力する人/機関を登録する仕組み(見守り・SOSネットワーク等)を行政として作っているか。(協力機関登録制度の有無)

	回答数	割合
① 登録の仕組みをすでに作ってある。	466	43.0%
② まだでき上がっていないが準備中であり、今年度内にできる予定。	21	1.9%
③ まだないが、来年度に予定している。	49	4.5%
④ まだなく、今のところ予定もない	445	41.1%
⑤ その他	100	9.2%
無回答	2	0.2%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①と回答の場合、登録数

1) 2017年10月末時点(あるいはその直近)の登録数

n = 466

協力機関登録状況	住民	事業所	再掲								
			地域の互助組織	医療機関	介護サービス機関	交通機関	人が集まる場	金融機関 商店 企業等	学校 保育所 幼稚園	報道機関	その他
回答数	296	404	319	265	344	279	272	370	189	233	267
割合	63.5%	86.7%	68.5%	56.9%	73.8%	59.9%	58.4%	79.4%	40.6%	50.0%	57.3%
登録数	670,080	63,604	3,235	3,043	11,793	1,411	3,095	32,573	394	687	18,793

2) 登録者を増やすために工夫している点について(複数回答)

n = 466

	回答数	割合
① チラシや説明文を読んだ人が、協力意欲が高まるように内容を工夫している。	101	21.7%
② 分野を問わず地域の多様な機関を洗い出している。	99	21.2%
③ 登録してもらいたいところへ個別に出向いて、登録を依頼している。	220	47.2%
④ 医師や医療・介護の関係者が集まる機会に、登録を呼びかけている。	181	38.8%
⑤ 住民に広く周知を行っている。	202	43.3%
⑥ 認知症サポーター養成講座の参加者が登録する仕組みを作っている。	101	21.7%
⑦ 携帯電話や自治体のホームページから登録する仕組みを作っている。	101	21.7%
⑧ その他	54	11.6%

3) 登録後の(協力機関等への)関わり状況(複数回答)

	n = 466	回答数	割合
① 登録した人や機関に呼びかけ、情報交換や話し合いをする機会を作っている。		107	23.0%
② 登録した機関等と、見守りや行方不明発生時の方策を具体的に検討している。		54	11.6%
③ 登録した機関等にステッカー等を掲示してもらっている。		178	38.2%
④ 登録した人や機関向けに、関連情報についての通信やメルマガを発信している。		50	10.7%
⑤ 模擬訓練への参加を呼び掛けている。		104	22.3%
⑥ 見守りの必要な人について、個別に相談をして具体的な見守り活動につなげることがある。		106	22.7%
⑦ その他		45	9.7%

4) (協力機関)登録する仕組みを作ったことでの成果(複数回答)

	n = 466	回答数	割合
① 見守りや発見活動への協力者(数)を目に見える形で把握できるようになった。		204	43.8%
② 地域の人/機関から、見守りが必要な人等の情報が行政/地域包括支援センターに寄せられるようになった。		264	56.7%
③ 地域の人/機関の中から、ふだんから見守り等に主体的に活動する人/機関が出てきた。		91	19.5%
④ 見守りが必要な人をふだんから地域ぐるみで支えられるケースが増えてきた。		82	17.6%
⑤ 医療や介護の専門職の地域での見守りや行方不明防止に関する意識が高まってきた。		145	31.1%
⑥ 実際に行方不明が発生した際に、発見活動に実際に加わる人や機関が増えた。		157	33.7%
⑦ その他の成果がみられている。		17	3.6%

5) 協力者の登録の仕組みに関する課題が生じていますか。

	n = 466	回答数	割合
① 特に生じていない。		380	81.5%
② 生じている。		125	26.8%

◆協力機関(者)登録に関する課題

5. 行方不明が実際に発生した時に早期に発見するためのSOSネットワーク等の「責自治体としての仕組*」があるか。*警察との基本的やり取りのみではなく、行政として体系的に作った仕組。

	回答数	割合
① 自治体としての仕組をすでに作ってある。	590	54.5%
② まだでき上がっていないが準備中であり、今年度内にできる予定。	28	2.6%
③ まだないが、来年度に予定している。	50	4.6%
④ その他	60	5.5%
⑤ まだなく、今のところ予定もない。	350	32.3%
無回答	5	0.5%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①と回答の場合

1) 発見協力を依頼をする際の情報提供ツール(複数回答)

	n = 590	回答数	割合
① 顔写真を添付したメール配信		217	36.8%
② 文章のみでのメール配信		280	47.5%
③ FAX送信		349	59.2%
④ 防災無線		311	52.7%
⑤ ケーブルネットワークの告知端末		33	5.6%
⑥ その他		87	14.7%

2) 「SOSネットワーク」等の仕組の1年間の稼働数(行方不明が発生し、仕組として実際に動いた数)

2016年度1年間

3,294 回 (累計)

平均:6.15 最大:270 最小:0

稼働数	市区町村数	割合
100回以上	5	0.8%
~ 50回	6	1.0%
~ 20回	25	4.2%
~ 10回	47	8.0%
~ 4回	80	13.6%
~ 2回	87	14.7%
1回	74	12.5%
0回	212	35.9%
不明	54	9.2%
合計	590	100.0%

3) 仕組を通じての成果（複数回答）

	n = 590	回答数	割合
① 地域で集まる機会が増え、ネットワークが広がっている。		30	5.1%
② 家族等が行方不明に気づいてから警察等へ通報するまでの時間が短くなってきている。		84	14.2%
③ 警察等が通報を受けてから探し出す初動までの時間が短くなってきている。		82	13.9%
④ 仕組の構成員同士の情報伝達がスムーズになってきている。		150	25.4%
⑤ 発見するまでの時間が短くなってきている。		64	10.8%
⑥ 警察以外の人たちによる発見が増えている。		87	14.7%
⑦ 無事に発見されるケースの割合が増えている。		73	12.4%
⑧ その他の成果がみられている。		46	7.8%
⑨ 特にない。		126	21.4%
⑩ 把握していない。		177	30.0%

4) 仕組に関して何らかの課題が生じているか。

	n = 590	回答数	割合
① 特に生じていない。		477	80.8%
② 生じている。		155	26.3%

◆SOSネットワークに関する課題

6. 行方不明の早期発見のための模擬訓練を実施しているか。(複数回答)

	n = 1083	回答数	割合
① 行方不明発生時に家族等から警察等にスムーズに連絡をいれるための模擬訓練を行っている。		68	6.3%
② 警察や行政等から協力者/機関に、情報が迅速・確実に流れるための模擬訓練を行っている。		93	8.6%
③ 協力者が、模擬役の人にうまく声をかけられるための声かけ訓練を行っている。		259	23.9%
④ 協力者が模擬役の人をスムーズに発見・保護するための訓練を行っている。		168	15.5%
⑤ 協力者が、地域の人に声かけし、取組の周知や理解者を増やす啓発も意図した訓練を行っている。		128	11.8%
⑥ GPSを活用した模擬訓練を行っている。		27	2.5%
⑦ その他		70	6.5%
⑧ 模擬訓練は実施していない。		728	67.2%

◆上記で①～⑦と回答の場合、模擬訓練を実施する上での工夫(複数回答)

	n = 813	回答数	割合
① 行政関係者のみではなく住民や多様な関係機関等と話し合いを重ねて企画を練り実施している。		209	25.7%
② 市区町村の各圏域の特徴や課題にあった訓練になるよう、圏域ごとの企画で模擬訓練を実施している。		149	18.3%
③ SOSネットワークにまだ入っていなかった人/機関にも訓練を通じて働きかけている。		112	13.8%
④ 学校等を通じて、子供たちや学生の参加も働きかけている。		78	9.6%
⑤ 訓練実施後に訓練参加者による反省会を実施している。		227	27.9%
⑥ 訓練の実施状況や結果等をまとめて、広報している。		120	14.8%
⑦ その他		27	3.3%
⑧ 特になし。		38	4.7%

7. 行方不明になって発見された後に、その本人や家族を支援する取組や仕組の有無（複数回答）

	回答数	割合
n = 1083		
① 発見後、警察に保護された本人を家族が迎えに来るまでの間、地域の認知症ケアの関係者等が警察で本人を見守り支援する取組/仕組がある。	29	2.7%
② 家族が迎えに来られない時に、本人を一時的に保護して必要なケアを自治体内の施設等で行う仕組がある。	98	9.0%
③ 本人が自宅に戻った後に訪問し、本人・家族のアフターケアを行うとともに、その後の再発防止について本人・家族と相談する取組をしている。	468	43.2%
④ 発見後の早い時期に、ケースに関して善後策を検討する会議等を開催している。	169	15.6%
⑤ その他	168	15.5%

8. 行方不明になった人の発見後に、そのケースに関する情報が警察から行政に提供される仕組の有無

	回答数	割合
① 警察と行政の間で情報提供がされる仕組がすでにある。	452	41.7%
② まだでき上がっていないが準備中であり、今年度内にできる予定。	17	1.6%
③ まだないが、来年度に予定している。	29	2.7%
④ まだなく、今のところ予定もない。	573	52.9%
無回答	12	1.1%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①と回答の場合

1) この仕組を通じての成果（複数回答）

	回答数	割合
n = 452		
① これまで警察に保護されても行政が知ることができなかったケースを把握できるようになった。	229	50.7%
② 警察に保護されたケースを行政が把握し、その後の支援に入れるようになったケースがある。	280	61.9%
③ その後の支援に入ったことで、それまで行方不明を繰り返していたケースの再発を防げている。	113	25.0%
④ 警察からの情報提供をきっかけに、ふだんの警察と行政の連携が図りやすくなっている。	275	60.8%
⑤ その他	33	7.3%

2) 仕組に関する課題が生じているか。

	回答数	割合
n = 452		
① 特に生じていない。	438	96.9%
② 生じている。	47	10.4%

◆警察との連携上の課題

IV 広域の体制整備について

1. 行方不明になった人を市区町の境界を越えて広域で発見する仕組みを作っているか。

	回答数	割合
① 近隣市区町村等と協働した仕組みをすでに行っている。	425	39.2%
② 近隣市区町村等と協働した仕組み作りに取り組んでいる。	49	4.5%
③ 近隣市区町村等と協働した仕組み作りはこれまで行っていないが、来年度は計画している。	27	2.5%
④ まだなく、今のところ予定もない。	580	53.6%
無回答	2	0.2%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①、②と回答の場合

1) 仕組みの内容 (複数回答)

n = 474		回答数	割合
① 都道府県が作った仕組みを取り入れている。		321	67.7%
② 市区町村として、近隣市区町村等と協定を結び、広域に探す仕組みを作っている。		79	16.7%
③ 市区町村として、近隣市区町村等と協定を結んでいないが、広域に探す仕組みを作っている。		97	20.5%
④ その他		28	5.9%

2) 近隣市区町村等と広域での模擬訓練等の実施状況 (複数回答)

n = 474		回答数	割合
① 近隣市区町村等と広域で(GPSを用いない)模擬訓練を実施している。		19	4.0%
② 近隣市区町村等と広域でGPSを用いた模擬訓練を実施している。		5	1.1%
③ 他(都道府県、事業者等)が実施する(GPSを用いない)広域の模擬訓練に協力している。		25	5.3%
④ 他(都道府県、事業者等)が実施するGPSを用いた広域の模擬訓練/実証実験等に協力している。		11	2.3%
⑤ その他		12	2.5%
⑥ 市区町村として広域の模擬訓練の実施・協力等は行っていない。		509	107.4%

3) 広域での体制作りによる成果 (複数回答)

n = 474		回答数	割合
① 広域での発見活動がスムーズに行えるようになった。		163	34.4%
② 広域での発見活動に関する負担が減少した。		84	17.7%
③ 市区町村外で発見が可能になった例が増えている。		51	10.8%
④ その他		70	14.8%

4) 広域の体制作りで工夫している点・特徴等を以下にご記入下さい。

2. 管内の広域体制作りに関する課題

V 認知症の人の行方不明を防ぐ見守り・SOS体制に関する総合的な進捗状況と今後について

1. 見守り・SOS体制の拡充状況について

	回答数	割合
① 地域でのふだんからの見守り体制と行方不明発生時のSOS体制が一体的に充実してきている。	115	10.6%
② 地域でのふだんからの見守り体制と行方不明発生時のSOS体制が、それぞれ整備されてきているが、一体的に充実するまでには至っていない。	318	29.4%
③ 地域でのふだんからの見守り体制が整備されてきたが、行方不明発生時のSOS体制の整備には至っていない。	209	19.3%
④ 行方不明発生時のSOS体制が整備されてきたが、地域でのふだんからの見守り体制の整備には至っていない。	181	16.7%
⑤ 地域でのふだんからの見守り体制、行方不明発生時のSOS体制のいずれも整備が進んでいない。	166	15.3%
⑥ 把握していない。	86	7.9%
無回答	8	0.7%
無効	0	0.0%
	1083	100.0%

◆上記で①、②、③、④と回答の場合、拡大の状況

	回答数	割合
① 市区町村のほぼ全域で体制整備が進んでいる。	415	50.4%
② 市区町村の半分程度の地域で体制整備が進んでいる。	38	4.6%
③ 市区町村の一部の地域で体制整備が進んでいる。	198	24.1%
④ 把握していない。	187	22.7%

n = 823

2. 見守り・SOS体制作りを拡充していく上で、特に課題となっていること

3. 見守り・SOS体制作りを拡充するために、今後特に力を入れていきたい点

4. 見守り・SOS体制作りを拡充していくために全国レベル、都道府県レベルで期待したいことについて（複数回答）

n = 1083		回答数	割合
		全国レベル	
① 共通の仕組や書式等の整備・改良		362	33.4%
② 行方不明発生時に市区町村の境界を越えて探す広域の仕組作りの推進		368	34.0%
③ 警察との協働がより円滑になるための警察と行政の基本的な連携方策の整備・強化		431	39.8%
④ 市区町村の行政担当者等が集まり、取組に関して情報共有や討議をする機会		94	8.7%
⑤ 全国の取組に関する情報提供		549	50.7%
⑥ 具体的な進め方についての助言・バックアップ		192	17.7%
⑦ 市区町村が独自の取組を進めていけるための補助事業(補助金)		373	34.4%
⑧ その他		23	2.1%

n = 1083		回答数	割合
		都道府県レベル	
① 共通の仕組や書式等の整備・改良		402	37.1%
② 行方不明発生時に市区町村の境界を越えて探す広域の仕組作りの推進		605	55.9%
③ 警察との協働がより円滑になるための警察と行政の基本的な連携方策の整備・強化		631	58.3%
④ 市区町村の行政担当者等が集まり、取組に関して情報共有や討議をする機会		559	51.6%
⑤ 全国の取組に関する情報提供		310	28.6%
⑥ 具体的な進め方についての助言・バックアップ		603	55.7%
⑦ 市区町村が独自の取組を進めていけるための補助事業(補助金)		371	34.3%
⑧ その他		21	1.9%

パイロット事業を開始して、みえてきた地域のチカラ ～行政主体ではなく、市民らとともにつくる～



静岡県 湖西市
長寿介護課

保健師 古川 恵
保健師 小柳 亜紀

<自治体の基礎情報>

人口	60,306人	面積	86.65km ²
65歳以上人口	15,815人	高齢化率	26.2%
要介護認定者数	2,013人	要介護認定率	12.5%
日常生活圏域数	4	包括数	委託：4

認知症地域支援推進員数：4名（委託：4名）

地域の特徴：

- ★緑豊かでトレッキングコースとしても親しまれている湖西連峰・太平洋や浜名湖にも囲まれた自然豊かで温暖な気候のまち
- ★自動車産業を中心とした工業地域
- ★海の幸が豊富で、浜名湖のミネラルをたっぷり含んだ青のりや牡蠣などの漁業も盛ん
名産品：新居牡蠣「プリ丸」、しらす、うなぎ、あさり、豚肉 など・・・



湖西市における 今年度の認知症施策(事業)の全体像

1) 認知症への理解を深めるための普及・啓発

認知症講演会・認知症サポーター養成講座

2) 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

認知症初期集中支援チームの設置・認知症地域支援推進員

3) 認知症の人の介護者への支援

認知症カフェの充実支援・家族介護事業

4) 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくり

在宅福祉サービス（高齢者食事サービス事業）・高齢者あんしんサポート事業・高齢者見守りネットワーク・地域包括ケアシステムの推進・包括による独居高齢者訪問事業・救急安全・安心カード配布事業

⇒「パイロット事業」を活用し、見守り体制を強化する！！
ただし、認知症を切り離すのではなく、見守り対象は“高齢者”で行う！！

パイロット事業に取り組んだ背景

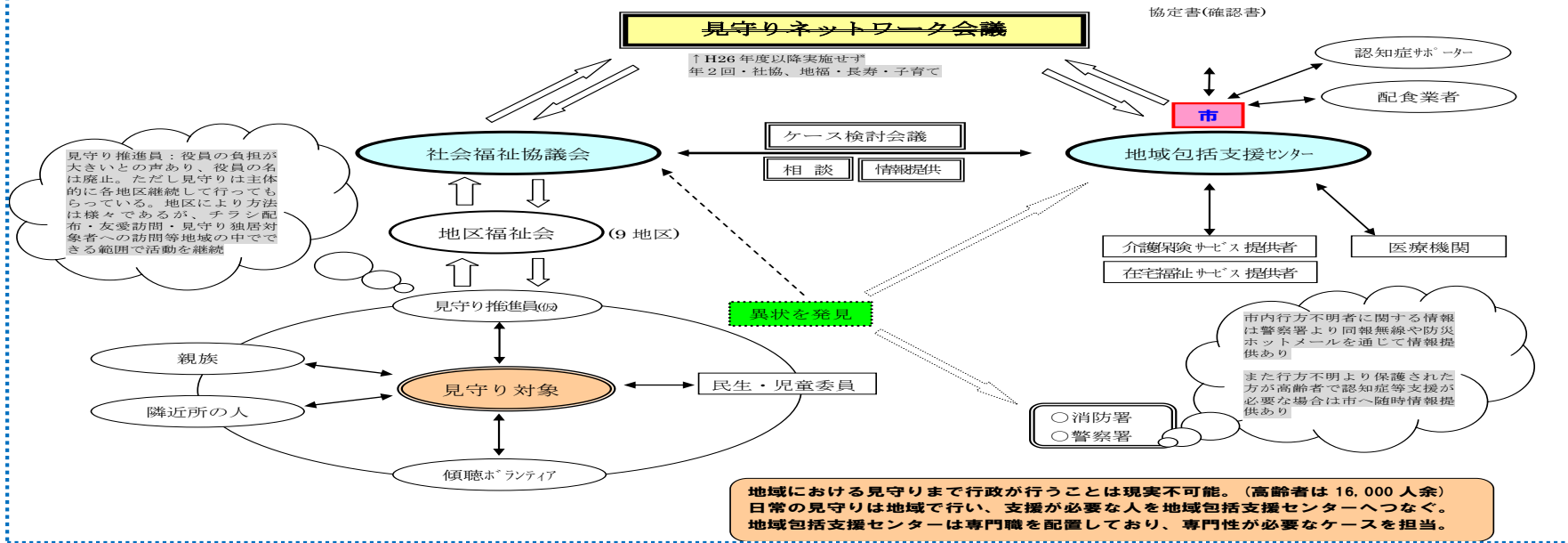
○パイロット事業をやって見ようと思ったワケ

「見守りネットワーク体制」の現状を再確認・・・

⇒**部署も異なり、見守りの課題の把握や見直しがされていない！！**

(立ち上げ当初のままで終わってしまっている…見守りネットワーク会議などすでに廃止になっている…このままでいいのだろうか)

湖西市の見守りネットワーク体制



⇒今一度「高齢者見守りネットワーク」の強化・再構築が必要！！

⇒パイロット事業に取り組んでみよう。

パイロット事業に取り組んだ背景

○その時点での担当者としての率直な気持ち

・・・不安

市民の協力者が
どの位いるのか？
できることから本
当に始まるのか？

市はどのように
支援し、協力が
必要なのか。業務
量がどのくらいあ
るのか。



本当に見守り体制
の基盤づくりにつ
ながるのか…
どのような成果が
でるのか…

12月からの開始だっ
たので、今年度どの
位実施できるものな
のか？（パイロット
事業ということは今
年度中に何かしら形
にするのか？）

パイロット事業の取組み経過

H.29.11

11月県を通じ、パイロット事業の協力依頼あり

<市の実態、これまでの関連事業等の確認・資料化>

取組み前に、まず認知症高齢者や行方不明に関する統計や実態、これまでの取組みに関してあるものを確認・整理

12

12/22 <初顔合わせ・打ち合わせ> 東京センター、市担当者、県担当者、市の現状をもとに、何に焦点をあてて取組むか、方針の検討
→見守りネットワークの再構築を→市民とともにアクションミーティングを

H.30.1

<市としてのアクションミーティングの検討・開催準備>

* 湖西市としての開催方針、方法の模索・準備

→集まりの名称、呼びかける人たち、呼びかけ方の検討
チラシ、当日のシナリオ、資料等の検討・作成

2

1/29 第1回・地域でできる見守りについて考える会

<アイデアの整理、第2回目の展開方法の検討・準備>

* 出たアイデアを活かしたチーム作りや展開方法の検討
呼びかけ方、チラシ、当日のシナリオ、資料等の検討・作成

3

2/20 第2回・地域でできる見守りについて考える会

<各チームの自発的活動の後押し、第3回目の検討・準備>

* チームメンバーの動きをさりげなくフォロー、声かけ
第3回目の検討・準備、来年度の展開の検討

3/20 第3回・地域でできる見守りについて考える会(予定)

東京センターと
方針、進め方、
内容等を相談

スタートにあたって： 担当者で方針・進め方の検討・共有 ～基本パッケージを参考に～

①見直し・すでにある取組み・資源の確認・発見

「湖西市見守りネットワーク体制」を再確認・・・

⇒担当部署も異なるため、見守りの課題の把握や検討・見直しがされておらず、
同じ目的なのに共有がされていない！！

(また見守り関係者会議などすでに廃止されている事業もあることがわかる)

⇒ただし、すでに見守りに関連する事業も多く、積み重ねてきた経緯もあり、
地域では、民生委員、自治会、近所の人々などおのおのに実施している見守り活動も多い！！

②取組の焦点化・方針

★新しいものをいちから作るのではなく、既存の事業や今行っている地域の
チカラを活用していこう

★無理なく継続できる普段からの見守りを強化していこう

第1回目のアクションミーティングまでの準備経過

*準備途上でのやったこと、工夫したこと

- ・チラシの工夫（文章の言葉遣い・気軽に参加できるように）
- ・強制とならないように声をかける

*どういう人たちに呼びかけたか

呼びかけ過程での気づき、生まれたこと

- ・市民（主に介護予防教室参加者）
- ・高齢者あんしんサポート事業協力店
- ・配食センター
- ・民生委員
- ・認知症見守り講習会参加者
- ・包括職員
- ・社会福祉協議会、介護事業者



時間なく広報に掲載できず・・・
→職員がこれまで関係を築いていて、
直接声をかけられる団体や人へまずは
声をかけよう！！



* 基盤になって一緒に動いてほしい人、動いてくれそうな多種多様な人たちを再確認！

* これまでの多様な事業での関係者をこの取組みに結び付けたい！

* 申込み10名いるかな・・・とっていたら、30名程申込みあり→広報していないのに、地域には興味関心ある人って意外といると気づく！

第1回目の地域でできる見守りについて考える会 (アクションミーティング)

まずは、集まって見守りについて「こんなことやってみたい」「できそう」と思うアイデアを出しあいました。

*当日の流れ

- ①あいさつ・この会のねらいと進め方について
- ②市より現状・地域の見守り活動について
- ③センターより行方不明者ゼロに向けた全国の動きについて
- ④グループワーク1：
「自己紹介・目指す地域とは？」
- ⑤グループワーク2：
「こんなことをやってみたい。」「こんなことならできそう」
- ⑥各グループからの報告
- ⑦まとめ・今後に向けて



*工夫した点・配慮したこと

★冒頭で市の現状と方針(安心して出かけられる地域をみんなで一緒に)を伝える

★グループ分けはメンバーを配慮、市で調整

(様々なアイデアが出るよう、職種が偏らないように…今後の活動継続に繋がりやすいよう同じ地区の人が同グループに…書記はあらかじめ、包括職員等に依頼)

★和やかな雰囲気づくり(お茶出しなど)

*当日の参加者の顔ぶれ

★参加者:29名

- ・市民
- ・包括職員
- ・民生委員
- ・ケアマネ
- ・社会福祉協議会
- ・高齢者あんしんサポート事業協力店（地方銀行3社・新聞店・ヤクルト等）

★チラシを見て中日新聞の取材記者の方も参加してくれました

*当日、話し合われた内容

- ・あいさつができる街にしたい！
- ・認知症のことを知らない、認知症について知ってもらうことが大切（こども、若い世代にも普及啓発が大切）
- ・家族等が認知症を隠さずオープンになる仕組みを作りたい
- ・認知症、高齢者に対して手助けできるシステム
- ・高齢者の居場所をつくる
- ・見守りに関する情報がほしい・・・などなど

★思っていた以上のたくさんの意見・アイデアが出ました



<次回のアクションミーティングのキーワード・6つ決定>

- ①あいさつ運動
- ②商店との見守り
- ③(高齢者や認知症の方の)交流の場を作る
- ④「情報をあつめる」
- ⑤(認知症の方の)活動の場をつくる
- ⑥(高齢者・認知症の方の)ちょっとした困りごとのお助け隊をつくる

わがまちの多様な立場の人たちが出会い、語り合い、アイデアを自由に出し合った



ヤクルトの若者が：
忙しい中を駆けつけてくれた



地元信金の職員が：
グループの進行・発表役を自ら



民生委員と介護職員が



住民と介護職員、地元広報誌の若者が

＊全体を通じた感想気づき、発見

- ・地域には見守りのアンテナの高い人がわりと大勢いる！！
- ・助け合いの意識は地域の中にあり、直接市民の声を聞く・お互いが知るいい機会となった
- ・専門職種と一般市民など自由に話し合う機会って少ない…参加者同士とても会話が弾みそれぞれの視点で学び、発見があり！！



「湖西市で市民らとともに一緒に
つくる取り組みが始まった！」
と見守りの普及啓発の第一歩に。



第2回目のアクションミーティングまでの準備経過

* 準備途上でのやったこと、工夫したこと

- ・チラシの工夫
(2回目のテーマをチラシに記載)
- ・再度、強制にならないような声かけ
- ・欠席した高齢者あんしんサポート事業協力店には、継続していつでも参加できるように、イメージがわかりやすいように、1回目の資料とともに2回目の案内を送付

* どういう人たちに呼びかけたか 呼びかけ過程での気づき、生まれたこと

- ・市民 (主に介護予防教室参加者)
- ・高齢者あんしんサポート事業協力店
- ・配食センター ・ 包括職員
- ・民生委員 ・ 社会福祉協議会
- ・商工会 ・ 介護事業者

* 1回目の出席者 (民生委員さん) が、仲間の民生委員さんに声掛け、仲間を増やす・仲間拡大…
→参加者を通じて、活動が口コミで広がりました



2回目のテーマ
の関係者(民生
委員・商工会に
は特に声掛けま
した

第2回目の地域でできる見守りについて考える会 (アクションミーティング)

早速、地域に出てアクションを起こすための、作戦を立てます

*当日の流れ

- ① **テーマ別のグループに分かれて着席**
- ② あいさつ・この会のねらいと進め方について
- ③ グループワーク1 : 「自己紹介・チーム名検討」
- ④ グループワーク2 : テーマに沿って
「こんなことをやってみたい」「こんなことならできそう」
- ⑤ 各グループからの報告・今後の「**アクション宣言**」
- ⑦ まとめ・今後に向けて



2回目は和室で和やかに。
(小椅子を用意)

*工夫・配慮したこと

- ・ 受付で、**やってみたいテーマのグループを自分で選んでもらった**
- ・ 専門職は同じグループにならないよう配慮 (**互いに調整**)
- ・ 初めての参加者もいるため、②でこの会のねらいや進め方を再確認し、1回目に出たアイデアも紹介した
- ・ **報告の中でアクション宣言をしてもらったことで、アクションの内容が具体的になった。**

*当日の参加者の顔ぶれ

★参加者：30名

- ・ 市民 ・ 包括職員 ・ ケアマネ ・ 社会福祉協議会
- ・ 民生委員 ・ 高齢者あんしんサポート事業協力店 (銀行・ヤクルト等)

民生委員さんや
男性の参加者が増加！
継続者と新規参加者が
半数ずつでした！

参加申込のなかった
ケアマネジャーも合間を縫って参加



第1回・地域でもできる見守りについて考える会



みなさんのアイデア

あなたの「これならできそう」
「やってみたいアイデア」はこの中でどれですか？

Aグループ ①あいさつ運動

- ・地域にあいさつの輪を広げよう
- ・地域であいさつがしたい。している。広げたい。

Bグループ ②商店との見守り・連携

- ・お店をやっている、地域に出ることが多い。など、地域の見守りには協力できる。関心がある。

Cグループ ③地域の交流の場を作ろう

- ・高齢者や認知症の方のために、地域の交流の場が増えるといいな、作ってみるのも面白そう。

Dグループ ④見守りキーパーソン・資源などの情報を集める

- ・見守りに関する情報を知りたい・伝えたい。(民生委員さん、自治会役員さん、・・・) 一体やっている人？どんな支援あるの？

Eグループ ⑤認知症の方の活躍の場を増やそう

- ・認知症の方のできること、好きなことを応援したい。活躍する場を増やしたい。自分もこれから活躍していきたい。

Fグループ ⑥高齢者・認知症の方へのちょっとした困りごとお助け隊をつくる

- ・高齢者、認知症の方のために、生活の中のちょっとした困りごとを助けられたらいいな。

～お互いの思いやチカラを大切に！話し合い、ちょっと一緒に働きたい～
わがまちアクションシート

アクションミーティング 第2回 (座席別)

【グループ】
キーワード：
「」

★アクションチームの名前★
*このチームの呼び名をみんなで考えよう

①集まったメンバー
*お互いをよく知る(名前、地域、あだんやっていること)

*会の最後に確認★
出席：○ 欠席：× わからない：△

No	名前	地域 (住んでいる地区)	みだんやっていること	備考	3/20 出席
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					



～お互いの思いやチカラを大切に！話し合い、ちょっと一緒に働きたい～
わがまちアクションシート

アクションミーティング 第2回 (座席別)

②みんなの話をよく聞いてみる
*みんながテーマについて、自由にアイデアを出しあおう

③ちょっと一緒に、みんなの話を聞いてみる
*小さなことでも、大切に、できることを具体的に話しあおう。 *呼びかけ人、力を貸したい人

④わたしたちチームのアクション宣言
*話し合ったことを参考に、各グループ1～3つ地域でできそうなことを話しあおう

①
②
③

期間：今日から1か月間

*今日話し合ったことを大切に、ちょっと一緒に働きたい！できるところから、みんなで一緒に、この先へ

グループワークに活用するアクションシートはより簡潔にわかりやすいよう工夫

受付時に参加者へ配布し、チラシをみて、この中から希望のテーマの席へ着席！（前回参加してない人でもわかりやすいよう）

第2回目のアクションミーティング

*当日、話し合われた内容

- ・いろいろな人にあいさつをして、地域の人とつながる
- ・個人商店に見守りを依頼する
(最近見かけない、様子が変わりなど)
- ・防災ホットメールの登録を広める
- ・高齢男性の興味のあること、講座を地域で開催する
- ・サロンなど人の集まる場所に出向き、情報収集する
- ・仲間や若い人に声掛けをし、独り暮らし高齢者の困りごとを助ける仲間をつくる
- ・行方不明の現実を直視した実体験を語り、見守りの必要性を再認識

休憩時間なのに、話が盛り上がり、途切れません！！



*全体を通じた感想気づき、発見

- ・やりたいことが同じ人たちのグループだったため、始めから積極的な話し合いができていた。
- ・地域の中のリーダー的な人材を新たに発見できた。

取組を通じた成果・今後の展開

第1回目で市民から出たアイデア・キーワードをもとに・・・

「見守りアクションチーム」が結成！！



アクションチーム	わたしたちチームのアクション宣言
笑顔でこんにちは	①とにかくあいさつをする ②とにかく地区の行事に参加してあいさつ運動をアピールする ③いろいろな関係機関にお願いをする あいさつ運動をする
地域見守り隊	①防災ホットメール「エスピーくん安心メール」の普及、登録 企業へもお願いして従事者も登録 ②個人商店にもお願いして情報を上げてもらう (最近見かけない、様子が変わるなど)
いいじゃん・やるじゃん チーム	①畑作り(芋)焼き芋、干し芋 ②マーじゃん教室 ③PCや携帯の講習会
あつめ隊！	①サロンなど人の集まる場所に出て行く ②参加する人に友達、知り合いに声かけ誘ってみよう頼む
はじめの一步	①仲間に話をする→行動していく(健康体操チーム)→声かけ ②考えすぎずにまずは第一歩から ③他地域の方と応援しあう(若い世代をまき込む)

まずは、1か月地域で活動！アクション開始

取組を通じて生まれつつあること・成果

初めて顔を合わせる人も多かったが、住民主体で自由に話し合いをしたことにより、住民の一体感が強くなった！！

*やってみての発見・気づき

- ・いろいろな方向の目線からたくさんのアイデアがでた
- ・すでに地域でいろいろな活動をしている人材がたくさんいることに気づいた
- ・見守りに協力的な人って意外に大勢いる
- ・女性だけでなく、積極的な男性もたくさんいる
- ・何より、参加者自身も楽しんで参加してくれた！
- ・チームを結成し、参加者の中で一段と団結力が生まれた

★自然と聞かれた参加者の声★

「1か月後また会おうね～」
「みんな参加だよね」
「今日の会はとてもよかったよお」
「たのしかった～」



今回の取組を今後の見守り・SOS体制等に どう活かし・展開していきたいか

* 今後の見守り・SOS体制等に、どう活かし・展開していきたいか

- すでにある事業・取組・アクションをつなぎ、見守り体制のきめ細やかなネットワークを構築
- この会の参加者だからできる呼びかけをすることで、見守り体制を拡大化していく
- 地域の見守るチカラを育て、いつまでも継続するために自主見守り活動へ
- SOSがあった場合の、体制づくり(流れ)を再検討する

* 今回の取組が、見守り・SOS体制以外にも活かしていける点

- 高齢者への生活支援体制づくり
- 居場所づくり ・ 社会参加(介護予防)
- 高齢者だけでなく、子供も含めた見守り体制
- 認知症サポーター養成講座の普及啓発
- 認知症サポーターの活動の展開
- 認知症カフェ ・ 認知症初期集中支援事業



取組を通じて、大事だと思ったポイント

- 住民への声かけの仕方や言葉に気をつけ、やらされてる感じにならないようにする
- 楽しんで取り組めるような声かけ
- アクションは、小さなことから、すぐにやれそうなことでよいことを伝え、負担に感じさせないようにする
- かしこまらずに、自由に話せる時間を多くとること
- 行政や専門職が主体にならず、ファシリテーターも指定せず、グループワークは参加者に任せたことで、ざっくばらんな話し合いができた
- 普段から住民と関わり、信頼関係を築いておくことも大切
(今回、広報ができなかったので直接参加の声かけもしました)



（これから取り組む地域への応援メッセージ）

まだまだ湖西市も始めたばかり・・・
1回1回参加者とともに手探りしながら始めました。

でも・・・

まずは、やってみる！地域には協力者や行政だけでは
思い浮かばないアイデアがたくさん！一度、様々な
職種・市民・・・関係なく、集まってみることから始
まります！

また、楽しくなければ長続きしません。自分たちのた
めに地域をつくる感じで、やりたい仲間、できるこ
とから少しずつ楽しく取り組んでいきましょう。





この町で、暮らしてきた。
これからも、いっしょに。

ご静聴、ありがとうございました。





本人の声、みんなの声を大切に、一緒にアクション！
～自然なつながりの連鎖で「**外出しても大丈夫っちゃ！**」～



福岡県・みやこ町

保険福祉課 地域包括支援センター（直営）

種生 宣隆（課長補佐）

田中 浩美（係長）

島田 美和（認知症地域支援推進員・社会福祉士）

<自治体の基礎情報>

人口	20,120人	面積	151.34km ²
65歳以上人口	7,682人	高齢化率	38.2%
要介護認定者数	1,409人	要介護認定率	18.7%
日常生活圏域数	1	包括数	直営：1 委託：0
認知症地域支援推進員数： 3 名（うち行政：3名、直営：3名、委託：0名、他：0名）			

地域の特徴：

みやこ町は、福岡県の北東部に位置し、農業が盛んな歴史、文化、自然に富んだ町です。平成18年に旧3町が合併して、みやこ町になりました。町の総面積は福岡県内の町村のなかでは一番広く、山間地域もあり、公共交通機関が少ないため、高齢者にとっては移動の問題が大きな課題のひとつとなっています。

みやこ町における 今年度の認知症施策(事業)の全体像

事業名	内容
高齢者把握訪問事業	SOSを発信できないかたの早期把握のため、サービス利用のない高齢者への把握訪問。
認知症サポーター養成講座	地域での出前講座・町内全小中学校での講座
ほっとサポーター養成、活動支援	認知症サポーター養成講座支援、認知症カフェの運営、グループホーム訪問などのボランティア活動
認知症(介護)予防教室	生活習慣病、運動、栄養の講話、ファイブクテストなど
高齢者社会参加促進事業 (サロン☆パス事業)	高齢者の社会参加促進、地域の見守り体制構築ため、サロンの拡大、拡充を目的に実施。
認知症カフェ	住民の集いの場 ミニ講話や元気アップ体操など
認知症あんしんフェア	認知症の啓発を目的に、講演会など実施
権利擁護教室	成年後見制度、相続や遺言、終末期医療などについて (エンディングノート作成)
介護家族の会(井戸端会議)	介護家族の相談、情報交換、交流
認知症初期集中支援チーム	支援チームとの連携
SOSネットワーク事業 高齢者位置情報検索(GPS)事業	行方不明となるおそれのあるかたの事前登録、関係機関とのネットワーク構築

パイロット事業に取り組んだ背景



○パイロット事業をやって見ようと思ったワケ

実働性の高い見守り・SOSネットワークが必要だと感じながらも後回しにしていた。

このチャンスを活かして見守り・SOSネットワークをより良いものにしたい。

○その時点での担当者としての率直な気持ち

みんなが心地良く動き出すためには

どうしたらいいんだろう？

どうしたらみんながやりたいことになるんだろう？

やり方が分からない。

この状態で事業展開して大丈夫？

とにかくやってみよう！！



パイロット事業の取組み経過

H.29.12

12/14 認知症ミーティング（行政内部）

12/14 介護家族の会（井戸端会議） 事前打ち合わせ

12/27 認知症あんしんフェア 反省会

H.30.1

1/11 認知症ミーティング

1/15 介護家族の会（井戸端会議） 事前打ち合わせ

1/19 第1回 アクションミーティング

1/22 認知症カフェ どこでもアクションミーティング

2

2/ 1 認知症ミーティング

2/13 認知症ミーティング

2/15 介護家族の会（井戸端会議） 事前打ち合わせ

2/19 第2回 アクションミーティング

2/20 宮原サロン どこでもアクションミーティング

スタートにあたって： 担当者で方針・進め方の検討・共有 ～基本パッケージを参考に～

①見直し・すでにある取組み・資源の確認・発見

スタート時点で基本パッケージをもとに

みやこ町のこれまでの取組の全体を見直してみる中で、

- ・ネットワーク体制も平成26年9月に作ったままで一度も見直していない。
- ・事前登録も登録したままで、情報が更新されていない。
- ・役場内での横の連携がとれていない。

・それぞれの機関（社協・家族会）やそれぞれの地域でそれぞれがやっていることの把握や集約がされていない。

→いまあるものを丁寧に見つめ直すだけでも生きた情報・生きたネットワークになるのではないか。

進めていく中で
少しずつ見えてきた

②取組の焦点化・方針

みやこ町としてまず

それぞれの力を発揮し
チーム力を強めたい

*どこに注力することが必要と考えたか

いまあるものを丁寧に見直し それぞれの機関、人のつながりを太くしたい 必要な情報がすべての人に行き届くように！

*どんな方針を大切にしていこうと考えたか

地域の人たちが主体的に持続的に展開できるように

★本人の視点にたって：何のための取組か、目的を見失わないように

第1回目のアクションミーティングまでの準備経過

* 準備途上でやったこと、工夫したこと

- ・ 認知症ミーティング（行政内部職員での意識合わせ）
- ・ 参加してもらいたい人のところに訪問し対話を積み重ねる（お互いの背景を理解する）

* どういう人たちに呼びかけたか

呼びかけ過程での気づき、生まれたこと

井戸端会議（介護家族の会）

ほっとサポーター（認知症フォローアップ講座受講者）

認知症あんしんフェア実行委員

区長・民生委員

- ・ 自由に発言しやすい環境
- ・ 「命を守りたい」という思いを伝える
- ・ 町長が冒頭だけでも参加可能か→スケジュール確認
- ・ 自主的に持続性の高いものにしたい→行政はあくまでバックアップという姿勢で



井戸端会議（介護家族の会）の
会員宅に出向いて話し合う



第 1 回
アクションミーティング
平成30年1月19日(金)



第1回目のアクションミーティング

*当日の流れ、工夫・配慮したこと

- お菓子（認知症の人がイベントで収益を上げた資金から）
- 町長挨拶

*当日の参加者の顔ぶれ

- ほっとサポーター・井戸端会議（介護家族の会）
- 消防団団長・役場OB・社協・介護事業所・民生委員
- 区長・総務課の危機管理対策係の職員

*当日、話し合われた内容

- みやこ町のいいところ→この町が好きだという感覚を共有しモチベーション↑
- 例え認知症になっても「家を出ても大丈夫っちゃ！」と言えるみやこ町にしようこんなことをやれたらいいな・いっしょにやれたらいいな

*全体を通じた感想気づき、発見、

- 「今日の話し合いは一体何だったんだろう」 テーマがぼんやりしていて、伝わりにくかった。話し合いたいことのズレがあり、不全感が残った参加者がいた。
- 後日、寄せられた声 「一歩いや半歩でも前に進めたと思うから良かった」「指を咥えて見ているだけではもったいない。やらなければならない時はやってみる」「できることは何でもやりますのでまた声をかけてください」

何かが動きだしている…。



この町を皆さんと一緒に！

認知症
あんしん
フェア!

町内のグループホーム（認知症対応型施設）に入居している認知症の人が売り子さんとして参加し活躍。

子どもと認知症の人がふれあう機会が持てました。

売上金の内、利益分7,248円は認知症カフェに寄付



認知症になっても

できることはたくさんある



たくさん笑顔

普通に話せる



普通に話せる

この町が好きだという感覚を共有しモチベーション↑



この町で暮らしてきた…
これからも一緒に…

この町が好き…
この町のいいところを残したい…



**例え認知症になっても
「家を出ても大丈夫っちゃ！」と
言えるみやこ町にしよう**



第1回目のアクションミーティング

* 当日の流れ、工夫・配慮したこと

- お菓子（認知症の人がイベントで収益を上げた資金から）
- 町長挨拶

* 当日の参加者の顔ぶれ

- ほっとサポーター・井戸端会議（介護家族の会）
- 消防団団長・役場OB・社協・介護事業所・民生委員
- 区長・総務課の危機管理対策係の職員

* 当日、話し合われた内容

- みやこ町のいいところ→この町が好きだという感覚を共有しモチベーション↑
- 例え認知症になっても「家を出ても大丈夫っちゃ！」と言えるみやこ町にしようこんなことをやれたらいいな・いっしょにやれたらいいな

* 全体を通じた感想気づき、発見、

- 「今日の話し合いは一体何だったんだろう」 テーマがぼんやりしていて、伝わりにくかった。話し合いたいことのズレがあり、不全感が残った参加者がいた。
- 後日、寄せられた声 「一歩いや半歩でも前に進めたと思うから良かった」「指を咥えて見ているだけではもったいない。やらなければならない時はやってみる」「できることは何でもやりますのでまた声をかけてください」

何かが動きだしている…。



この町を皆さんと一緒に！

より様々な人たちと一緒に考え、動き出したい!

どこでもアクションミーティング (認知症カフェの場を活かして)



「家を出ても大丈夫、ちや」と言える町に

たまり場 日頃からの関わり 関心 ハードル低く いざという時の体制

しゃべり場 きずな 気軽に

集まる場所があるといい 空きスペースの活用

- ・ みんなで検索する
- ・ マモリーノ (au)
- ・ 警察・役場 誰が電話に出ても同じ対応をしてもらいたい。(検索願を...と言われた。)

男性も参加してほしい

車に乗らなくても行ける場所にもしくは送迎があるといい

以前は青年団の集まりがあった。相撲がありよた! 四股名で呼んでいた。子ども・大人も一緒に。参加賞と優勝賞品同じ

以前は移動販売が来ていて その時に話しをしていた

車に乗れなくなったら... 何もできなくなってデイサービスに行くのではなく、早めと思い いきがいデイに行く。

声を掛ける事が いい事? or 悪い事?


外に出る事が 少ない → どうしたら外に出るか?

若い世代も一緒に

お菓子のおすそ分け

集まりに参加する → はげみになる

区長
老人会
婦人会



第2回目のアクションミーティングまでの準備経過

*準備途上でのやったこと、工夫したこと

- 前回の話し合いで出た意見を元に 話したいテーマ分け
- 事前の根回し、前回のフォロー、修正
- 話し合いのテーマが伝わりやすいように

印象的なストーリーを使って参加者の感性にアプローチ

- 大切にしたい考え方を伝えたい 自分たちの地域のこととしてこれからを一緒に考える大事なきっかけ 偏見や思い込み、先入観を削り取り 頭の中をできるだけきれいにしてアクションを開始する



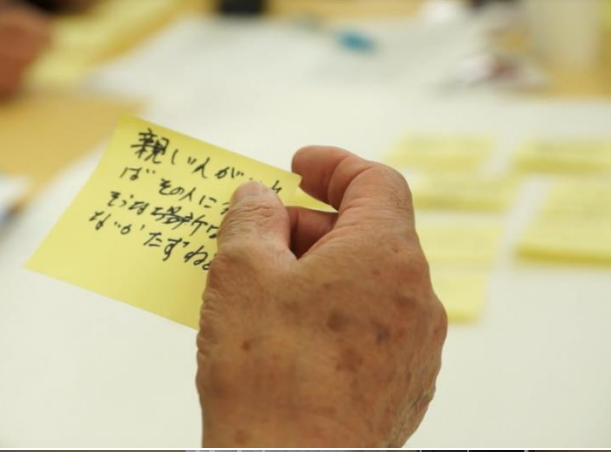
*どういう人たちに呼びかけたか

呼びかけ過程での気づき、生まれたこと

いまある資源を見える化する→生活支援体制整備とリンク

- 社協（生活支援コーディネーター）は絶対不可欠
- **90才男性**（認知症の診断を受け、切実に暮らしている→参加者が現実を知り、さらに10年後20年後の自分と想定して考えるために）
- 駐在員代表者会会長（捜索に協力したことがある・義母が行方不明になった時に警察に次はないようにしてくださいと言われた過去がある→現実として考える）
- 生涯学習課社会教育係（元校長先生。住民同士のつながりを強くしたいと願いがある→行政の横のつながり、地域づくりを一緒に考えよう）
- 小規模多機能型ホームみやこ管理者（地域とのつながりをつくりたい×気軽に立ち寄れる集いの場が欲しい）
- 民生委員（認知症の人を支えていたが医療保護入院→仕方ないのか？）

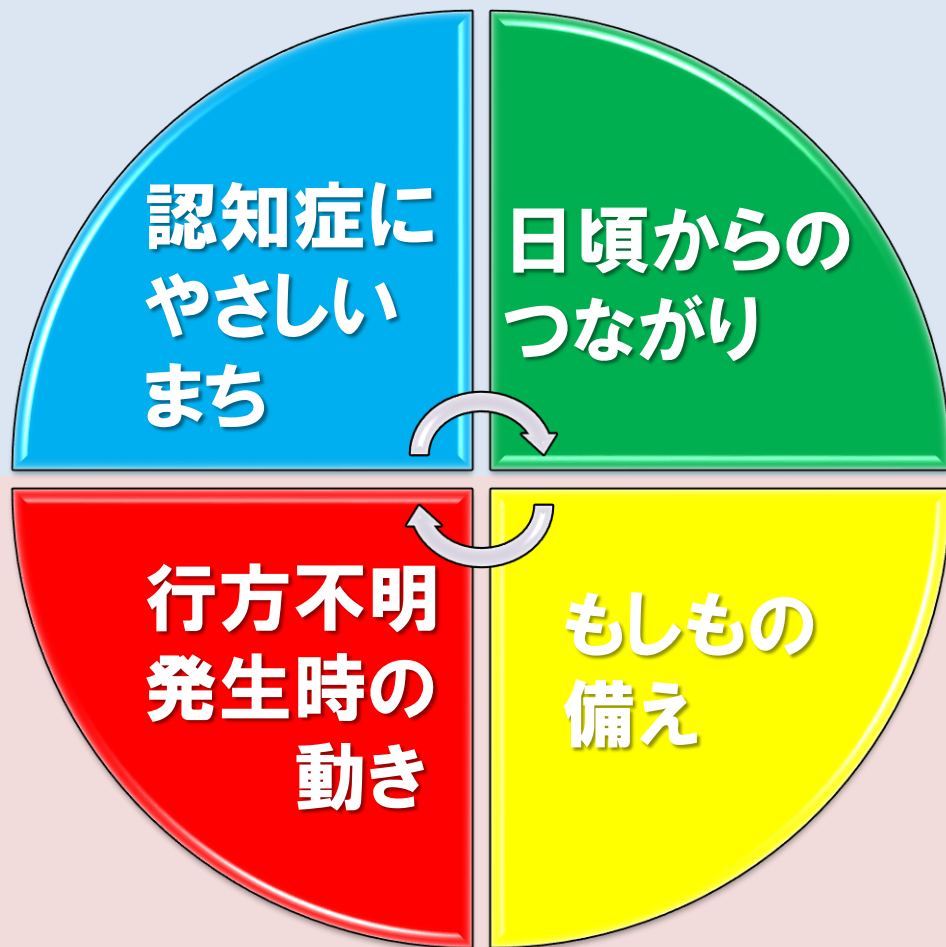
本人や参加者の背景を知り 身近な話題でより具体的に！



第 2 回
アクションミーティング
平成30年2月19日(月)



認知症の人が行方不明にならずに安心・安全に外出できる 見守り・SOS体制を創る循環システム



日頃からの心がけ
関係性

いざという時の
体制

第2回目のアクションミーティング



* 当日の流れ、工夫・配慮したこと

- 話しやすい雰囲気 会議室ではなくいつも認知症カフェをやっている開放感のある介護予防室で（コーヒー・お菓子）
- 模造紙、ふせん（無理強いはしない）
- **スターチス**（他の地域のチカラを借りる。認知症の人とともに生きる中で大切にしたい考え方、アクションの可能性を参加者にリアルに伝えるために）

* 当日の参加者の顔ぶれ

- 本人・家族・介護家族の会（井戸端会議）・ほっとサポーター・民生委員・区長・駐在員代表者会会長・介護事業所・キャラバンメイト
- 総務課の危機管理対策係の職員

* 当日、話し合われた内容


関心が高いテーマを自分で選択し、グループごとに課題について話し合い討議

* 全体を通じた感想気づき、発見、

- 4つにテーマを分けたがすべては循環していった
- さりげなく気遣いしてくれる事業所 → * 認知症の人が安心して外出できる町にしたい、住民とともに動き出したいと切望している介護職員が、わが町に何人もいる！
- 様々な立場の住民の力
- 互いに存在を認められるようになった



アクションを身近な所から、早速スタート どこでもアクションミーティング (宮原サロンにお邪魔して)

2/20 (火) 宮原サロン 



誤嚥性肺炎
↑
の予防

舌を動かす
↑

知恵が
↑
いはい

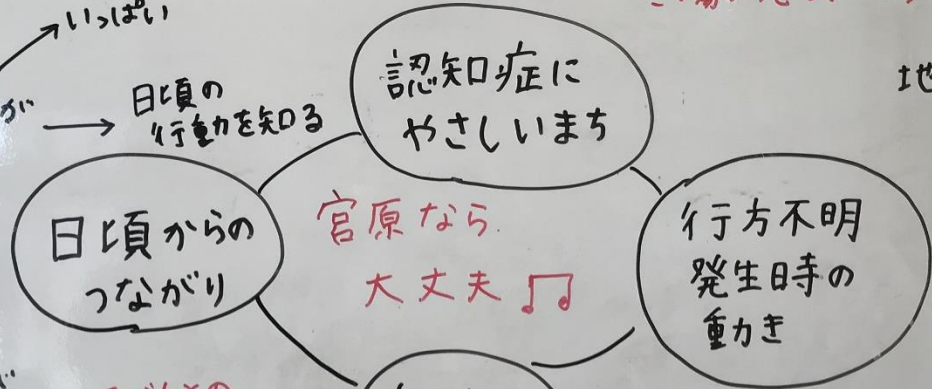
人と話すことが
大事

→ 日頃の
行動を知る

介護をした体験者がいる

冬場が危ない → 発見が遅れる

地元ならではの
情報



日頃からの
つながり

宮原なら
大丈夫♪

行方不明
発生時の
重カキ

もしもの
備え

子どもとの
つながりが
ある!

老人会が もちつき
卒業式・運重カキ

→ 子どもが
稲を植えて
つくる。

認知症かなと思った時に
早めに病院に行くのか?

→ 老人会が
もちつき

みんなが
気付いて
あげるこ
いいえ

← 地元の
人ができること。
上を向いて!

失敗しても
笑いが
起こる



取組を通じて生まれつつあること・成果



* やって見たことで、何が起きてきたか

★「一人の人」が地域の人とつながり、互いに喜び、元気が出る
運転免許証を返納して閉じこもりがちになり

状態が一気に悪くなりかかっていた男性（90歳）

→アクションミーティングに声かけしたら本人が一人で参加。

「外に出たら気分転換になる」「将棋を続けたい」

→この声を聴いたアクションチームのメンバーと行政職員が
即動いた。



* メンバー：一緒に将棋を指せないか

* 行政職員：古い将棋盤がある、それを使おう

認知症カフェに本人を誘ってみよう♪

→アクションミーティングから5日後、認知症カフェに

本人を誘ったら、一人で自転車に乗って出かけてきた！

* 初対面だった将棋好きな人たちと、自然に将棋で勝負！

非常にいい表情、会話、活力！

★本人の（小さな）願いを何とかかなえようとする人たちの連鎖。

本人が自分から地域に出てきて、自然につながり、互いが元気に！





「外出しても大丈夫っっちゃ！」

みんなが
認知症を
正しく理解する
+
本人を知る

安心して
外出を続け
られる



地域と繋がり
続ける

趣味を
続けられる





*やってみての発見・気づき

- 内部で協議する場が増えた（担当者だけで考えなくてもいい・心強い・新たな気づき・勇気が出る）
- 社協・介護家族会と相談する機会が増えた（みんなで考えられる）
- 特別なことをしなくてもいい。
- これまでのつながりや今ある資源を活かし、きっかけをつくれば本人とゆるやかにつながり（直し）、自然な付き合い・関わりを自ら生み出していける人たちがいる。

*やってみての発見・気づき



★きっかけは、

- 多様な人たちが、本人も交えて、同じテーブルにつき、みんなが自分ごととしてこれからを語り合い、わいわい楽しく会話をする機会。

→「一人」からでも本人が願っていることを聴く。

- 願いを聞き流さず、即、できることを一緒に考える
- 地域にすでにある場で自然な出会いの機会をつくる

「認知症高齢者」としてではなく、（ささやかな）願いをもっている地域の一員として

→出会った本人と地域の人、支援者らの間で自然な支え合いが展開



今回の取組を今後の見守り・SOS体制等に どう活かし・展開していきたいか

* 今後、どう活かし・展開していきたいか

小さな単位でまずはやりたいと手挙げしている
住民・事業所の人たちと一緒に
丁寧に見直す 丁寧に繋げる
丁寧に届ける 少しずつできるところから

* 今回の取組が、見守り・SOS体制以外にも 活かしていける点

- ・生活支援体制整備、認知症ケアパスの補強・活用
- ・高齢者社会参加促進事業（サロン☆パス）
- ・歯科も含めた医療との連携・本人視点の協働
- ・不必要な入院・入所の解消
（本人が家に帰り、地域で暮らせるように）など

取組を通じて、大事だと思ったポイント

- 何のために 誰のために：目的についての意識を何度も確認、共有しチームの力を上げる
 - 行政職員・関係者で取組みを企画・推進する 【コアチーム】
 - 地域で具体的な活動を共に企画・実行していく 【活動チーム】

* 2つのチームの相乗効果
- 段取りを固めすぎず、まずは一步を踏み出す
 - ◆ 行政が固めてから取組みを始めていたこれまでのやり方では、計画や段取りの枠に本人や関係者をあわせさせてしまい、自主性ややる気、ユニークなアイディアに蓋をしてしまっていた。
 - ◆ 抱え込み、先延ばしになってしまっていた。
- 声や意見をもとに、一緒に、柔軟に創りだしていくアプローチ
 - 一人一人の声を大切に → 出た声を丁寧に整理し共有していく
 - 住民と行政との循環が生まれる
- みんなの力を信じて諦めない

今後の展開



- 出ている声・アイデアを大切に温めて、確実に自分たちのできる範囲で実現を目指す：アクションミーティングの継続
 - ★住民とともに小さなできるところから
 - ★成功体験を積み上げていく
- 事業所、サロン、各団体の集まりにこちらから出向く
 - ★集まるのを待つのではなく、出向いて一緒にアクション
- 基本パッケージを参考に、見守り・SOS体制の全体を見ながら、進みつつある動きをつなげる
 - ★住民・専門職とともに、体制づくり 全体を一步ずつ



覚悟を持ち

そこに住むその1人の命を守る！！

本人・家族が苦しまなくても
良いように…

1人でも多く…

当たり前前に安心して
暮らせるように…

勇気を出し1歩を踏み出せば何かが変わる
きっと明るいまちになる…

できるできると信じて…

いくつになっても、認知症になっても
このみやこの町を舞台に、一緒に生きていこう。



搜索模擬訓練を通じて、住民・関係機関が地域でのつながりを再確認し、SOSネットワークを強化

北海道釧路市

福祉部 介護高齢課

速水 陽

釧路地区障害老人を支える家族の会

佐々木 幸子

<自治体の基礎情報>

人口	172,391人	面積	1,362.92平方km
65歳以上人口	54,990人	高齢化率	31.9%
要介護認定者数	11,571人	要介護認定率	20.61%
日常生活圏域数	7	包括数	直営：2 委託：5

認知症地域支援推進員数： 7名（うち直営： 2名、委託： 5名）

- ・北海道東部に位置し夏期平均気温が20℃で濃霧の日が多く、冬期は雪はあまり降らないが足元が凍る。
- ・炭鉱の閉山、200海里漁業水域の設定による漁業の衰退、製紙工場の縮小などにより人口流出が続き、1980年代には218,000人余りだった人口も大きく減少している。
- ・長期滞在（ちょっと暮らし）6年連続北海道1位



釧路市における認知症施策(事業)の全体像

釧路市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
(いきいき健やか安心プラン)

基本理念

みんなが
「いきいき」と
暮らせるまち

みんなが
「健やか」に
暮らせるまち

みんなが
「安心」して
暮らせるまち

みんな育て
みんな
支え合うまち

重点目標

高齢者の積極的な社会参加

健康づくりと介護予防の推進

介護サービスの基盤整備と質的向上

認知症高齢者支援対策の推進

権利擁護の推進

釧路らしい在宅福祉の推進

取組の目的・背景・経緯

- 全国初のSOSネットワークとして発足。釧路発祥の取り組みとして、報道などでも取り上げられ、全国各地からの問い合わせ、視察の機会も多く、改めて自分たちのかけがえのない取り組みであるという認識を持つ。
- 地域のつながりを重要な資源として考えることができないか。地域の認知症の方に対する認識を新たにし、接し方などの基本をしっかりと伝える。
- 地域、関係機関の顔つなぎとして、命を守るためのものという意識の共有を図る。

取組みの概要(方法・対象)

搜索模擬訓練を行うことで、住民と関係機関相互の意識づけ、つながりを認識してもらう

- 町内会を中心とした地域住民の方と、釧路警察署生活安全課や、釧路市障害老人を支える家族の会（たんぽぽの会）認知症疾患医療センターなどの各関係機関に協力を依頼。
- 小学校で開催し、若い世代に対する認知症に対する意識の啓発、学校を中心とした地域コミュニティの形成。
- 認知症地域支援推進員（各包括支援センターに配置）を中心に活動を展開。毎月開催している認知症地域支援推進員会議で内容や方法などについて、全体で共有。

取組の経過・工夫点

日常生活において、110番通報を行うことはほとんどないのが実情⇒家族が行方不明になった時、落ち着いて通報できるかという不安⇒家族で周辺を捜してから通報⇒結果的に通報時間は遅くなる傾向（平均3時間35分 H28年度）

* 通報時間、発見までの時間等の統計データを毎年度保健所が作成。データをネットワーク関係機関で共有し改善策の検討を実施。



警察署の協力を受け、実際の通報の再現を行う。
また、警察署からも、早期通報の重要性の呼びかけ。



表 所在不明から通報までの時間（時間：分）

	H24	H25	H26	H27	H28
最短	0：29	0：10	0：25	0：10	0：17
最長	12：02	15：50	21：56	14：00	18：53
平均	2：57	3：12	3：53	4：11	3：35

表 通報から発見までの時間（時間：分）

	H24	H25	H26	H27	H28
最短	0：05	0：05	0：15	0：37	0：10
最長	12：00	19：47	20：04	18：03	21：30
平均	2：04	2：38	4：23	4：31	3：25

取組の経過・工夫点

認知症に対する正しい理解、接し方の啓発



認知症サポーター養成講座や絵本コンサートなどをプログラムに組み入れ、認知症について、わかりやすく伝えられるよう工夫。



行方不明発生時だけでなく、普段から地域で認知症の人を見守る意識を喚起する



取組の経過・工夫点

自宅周辺だけではなく、町内を広く見ることで、地域の状況を再確認してもらおう。



実際に外に出て地域を歩いて行方不明役を捜すことと、発見時に声をかけることに重点を置く。

終了後のアンケート内容を統一。それぞれの圏域ごとの訓練開催でも意見の比較ができる。



市民の意見として、共通の課題とのとらえ方。開催地区は違っても、釧路市全体の取り組みとしての意識の共有。

取組により生まれたこと・成果

- 包括支援センターの活動に対する地域住民の理解が深まった。
- 自分たちの問題という意識の共有。
- 自分たちの住んでいる地域の状況を広い視点で確認できた。（空き家や物置など、人が隠れられそうな場所の確認）
- 幅広い世代に対する認知症の普及、啓発（小学校での開催）

取組により生まれたこと・成果

- 認知症の人を支えるのは、その人が住んでいる地域の役割だという意識が確認された。認知症の人やその家族が、地域に見守りをゆだねられる環境を作る必要があるとの意見も。⇒町内会活動の活性化⇒地域力の向上。共生社会への発展。
- 関係機関同士の連携の確認。顔の見える横のつながり。
- 子供世代の認知症に対応する気持ちの発見。

課題(今後、力を入りたい点)

- 訓練も含めた、事業の継続。
- 現状の様々な取組との連携強化。
- 新規事業への展開⇒事前登録制度の開始。
- 地域への働きかけ。地域づくりの意識を持続させる。
- 幅広い世代に対する普及、啓発の継続。
- 関係機関の連携の強化。

・・・など

このテーマを展開する上で大事だと考える ポイント

やりっぱなしにしない
こと！！

- 関係者に対する説明を省略しないこと。
（話の行き違いを防ぐ）
- 訓練を行うことのメリットを具体的にイメージして、関係者間での共有を図る。（地域づくり、見守り体制）
- 地域を引っ張っている人（役員とは限らない）に注目し、連携を図る
- 事業終了後の振り返りを都度行う。（関係した団体すべてに声をかけて参加してもらう）

**より具体的なイメージをしっかりと伝えることにより、
協働した後の状況を理解してもらうことが重要！！**

一緒に考え、形にしていく！

認知症SOS探索訓練アクションミーティングを通じて 地域の実情あった役立つ仕組と活動を一緒に育てる



新潟県湯沢町

健康福祉部健康増進課國松明美（保健師）

<自治体の基礎情報>

小規模多機能健康倶楽部ゆざわ高橋舞子（介護福祉士）

人口	8, 1 6 3人	面積	3 5 7 km ²
65歳以上人口	2, 8 7 7人	高齢化率	35.24%
要介護認定者数	4 0 8人	要介護認定率	14.39%
日常生活圏域数	1か所	包括数	直営：1 委託：0

認知症地域支援推進員数： 5名（うち行政： 5名、直営： 名、委託： 名、他： 名）

地域の特徴：

古くから温泉場として知られ、川端康成の小説『雪国』の舞台、近年ではフジロック・フェスティバルの会場でもある苗場スキー場がある。湯沢町は緑豊かな自然に抱かれた町

介護保険事業所（町内）：通所介護 3、訪問介護 1、特養 1、小規模多機能 1 認知症共同生活介護 1、短期入所 1、療養型（50床）

医療機関：湯沢町保健医療センター（公設民営） 認知症サポート医 1

取組の目的・背景・経緯

- 行方不明の恐れのある人に付き添う家族自身も高齢になり、付き添いきれなくなっている
- 介護者が疲れて昼寝をしている間に行方不明になり探索することがある
- 毎年1~2名が行方不明になり探索することがある

認知症高齢者が行方不明になった場合

- ☆ 重大な事故に至る危険性が大きく
- ☆ 家族や行政、専門職だけでの対応は困難であり
- ☆ **地域住民の理解と**
- ☆ **早期発見対応の探索ネットワークづくりが必要**

地域ごとの特性、生活実態に合った、普段の生活、いざという時に役立つ 本人・家族・地域・関係機関 みんなに有効な方法で・・・
訓練はあくまで手段

大事なものは・・・

地域に入って、地域の人と、地域の生活の中でおこることを、みんなで体験して、共有して、生活に活かされていくようにすること
その**プロセス**
つなぐこと





取組みの概要(方法・対象)

認知症SOS探索訓練アクションミーティング 《目標》

～外出を見守れる町、安心安全な外出ができる町を目指して～

【長期目標】

地域の認知症理解を広め、外出を見守り、認知症の人が自分の暮らす生活の場へ戻れる対応ができる

本人・家族の視点に立って
実際に役に立つように

【短期目標】

1. 住民と関係機関、行政が協働で認知症SOS探索訓練を企画し実施することで地域の認知症理解者が増える

啓発

自分の事として考える人を増やしたい

2. 行方不明時の早期発見・対応の課題を明らかにする

体験として覚え行動できる

使える・動ける手順書の作成
訓練しながら変えていこう！



取組の経過・工夫点

4回
コース

認知症SOS探索訓練アクションミーティング《内容》


- 1 : 現状理解と探索訓練のイメージづくり、探索訓練でしたいことの検討
- 2 : 探索訓練の具体的なアクションプラン、シナリオ等の作成
- 3 : アクションに必要な仲間を誘って認知症地域支援「サポーター養成講座」
- 4 : 探索訓練本番 訓練の実施と反省会

立場を越えて、一緒に考え、動く、
自分ごととして、わがまちのために

取組の経過・工夫点

 **地域が主役 行政はメンバー**

地域の暮らしの情報をもとに皆で話し合う

 **参加者が主役、参加者一人一人を大事に⇒参加者が資源に**

全ミーティングに参加できなくても一緒に取り組みに参加していたと思える、休んでも参加しやすい情報提供 否定的な意見も大事な情報

議事録配布

毎回、ミーティングで話さきれなかったことや気持ちを書いてもらう

ご意見票

ご意見票の内容は次回ミーティング時に共有

 **参加者が地域に広げる⇒参加者が資源に**


振り返りの時間

アクションミーティング、訓練の様子を参加者や地域のキーパーソン（町内会長、民生委員、サロン、施設等）に配布し身近な人につなげてもらう


かわら版の作成配布

取組により生まれたこと・成果


地域

 「いつもと違うスピードで歩いているけど大丈夫かな」と地域の人が包括へ連絡してくれる。

監視ではない見守り

 「行方不明が心配でご本人から離れられない。本人と一緒に相談に行けない。（本人を傷つけない）」友人が介護者に相談窓口を知らせ、ご本人を預かり、介護者が相談に行く時間をつくってくれた。

身近な人が支え手に

 地域が家族が普段からすべきこと、本人介護者の気持ちを理解することを意識して訓練しよう

自分ごとに

取組により生まれたこと・成果

- ご本人にとってなじみのアイテムを試行し、家族が使えるようにバックアップ。家族もサービススタッフも実際に使って使いこなして早期対応が当たり前に



携帯電話、SOSネットワークをケアプランへ位置づける

支援が届く

- 年に数回、時期を変えて行方不明対応訓練。行政等の連絡など休日でも適切な対応ができる事業所。

目撃場所を記したお出かけマップを作成
見守りネットワークの登録支援

赤色 : 昼12時まで
黄色 : 夕方17時まで
青色 : 17時以降



課題(今後、力を入れたい点)



- 認知症地域支援の全町へのひろがり
アクションミーティングに集まる人がいない地区への啓発
 - ・ 認知症の人・家族を理解する
 - ・ 行方不明時の対応を理解し行動できる人を増やす
- 歩いて行ける身近な地域に資源が生まれる
地域の人が主体で地域に合ったものが始まるための種まき
商店等が地域拠点に、支援や相談機関につながる窓口に
- 介護保険事業所、医療機関等支援機関が認知症の様態に応じて適時適切な対応がとれるように
同じ地域で暮らす生活者の視点で 一緒にいっしょ・・・自分も助けてもらってる 協力して つながって どこでも

このテーマを展開する上で大事だと考える ポイント



- わが町にいる人、あるものがつながりアクションが始まる
「認知症の人、家族、地域が互いに安心して元気に暮らせる町づくり」

現状の共有（認知症の人の状況・地域の状況・地域資源の状況）

どうなることを目指す

そのために必要なこと

何をする（誰が いつ どんな）

次どうする

一人ひとりを
大事に
みんな同じ



認知症の人、家族、地域、専門機関、介護保険等の支援機関、行政等みんな
でアクションが生まれる話し合い
をする みんな仲間になって！



利用しやすく、一人ひとりの安心・安全を守る ネットワークを地域の人たちと作り出す

兵庫県・加東市

加東市地域包括支援センター（直営）

石田 浩一（社会福祉士）

<自治体の基礎情報>

人口	40,302人	面積	157.55km ²
65歳以上人口	10,352人	高齢化率	25.7%
要介護認定者数		要介護認定率	
日常生活圏域数	3圏域	包括数	直営：1 委託：0
認知症地域支援推進員数： 4名（うち行政：0名、直営：4名、委託：0名、他：0名）			
地域の特徴：兵庫県の中央部・播磨地方の東側に位置する内陸市であり、旧加東郡の3町がH18年に合併して誕生。瀬戸内海性気候のため、年間通して温暖。中国自動車道（市内に2つのICがある）と都市間交通の幹線となっている国道175号が交差しており、道路交通の拠点となっています。			

【加東市】認知症施策全体図

目的

地域住民が認知症を正しく理解する⇒見守り支える人が増える

認知症の人と家族を支援する「資源」がつながり、連携した地域支援ができる

つながりを生かしたサービスや活動を市民ができる

取組

キャラバン・メイトと認知症サポーターの活動

CATV・広報・イベントでの啓発

講演会・パネルの展示

認知症ケア従事者のスキルアップ

医療と介護、地域との連携

早期からの相談支援体制づくり

認知症予防と生きがいづくり

安心・安全への支援

内容

キャラバン・メイトの活動支援
認知症サポーターの活動支援

秋のフェスティバル

広報、ケーブルテレビ・おたっしやだより

出前講座・認知症サポーター養成講座

地域ケア市民フォーラム

回想法の実践

タクテイル®ケアの実践と普及

4 DASG実践と普及

認知症ケアパスの構築

初期集中支援チームの活動

多職種・市民との協働研修やセミナー

つながりノートの活用

物忘れ相談プログラムの活用

軽度認知障害の早期介入・相談支援

若年性認知症の相談支援

相談業務従事者のスキルアップ事業

茶話会(家族介護者のつどい)の開催支援

認知症相談センターの活動支援

物忘れ予防カフェ(認知症カフェ)の開催支援

ふまねつと教室の開催

ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク

福祉ニーズキャッチシステムの充実

認知症情報提供票の充実

わんわんパトロール啓発実施

安心救急情報キットの活用

サポートマークの活用

取組の目的・背景・経緯

背景・経緯

認知症の「見当識障害」により、行方不明になってしまう相談が寄せられており、警察から情報をいただいたところ市内で年間約30名の高齢者の搜索願が出ていることがわかりました。

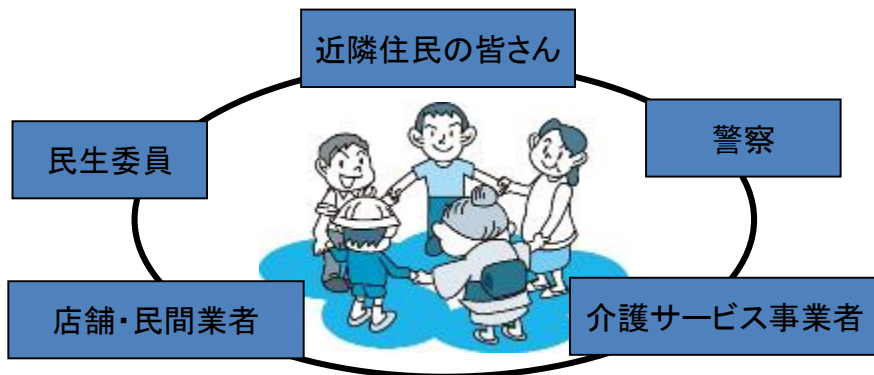
今後、そのようなケースが増加すると考え、認知症の人とその家族を支援するため、日頃の地域のつながりを活かし、普段の生活のなかで見守り、声かけすることで、安心してひとり外出ができ、徘徊行方不明を予防できるまちづくりを目指し、「ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク事業」に取り組むこととしました。準備をはじめ、平成24年からを開始し、現在に至っています。

ネットワークの目的

加東市のネットワークには2つの目的があります。

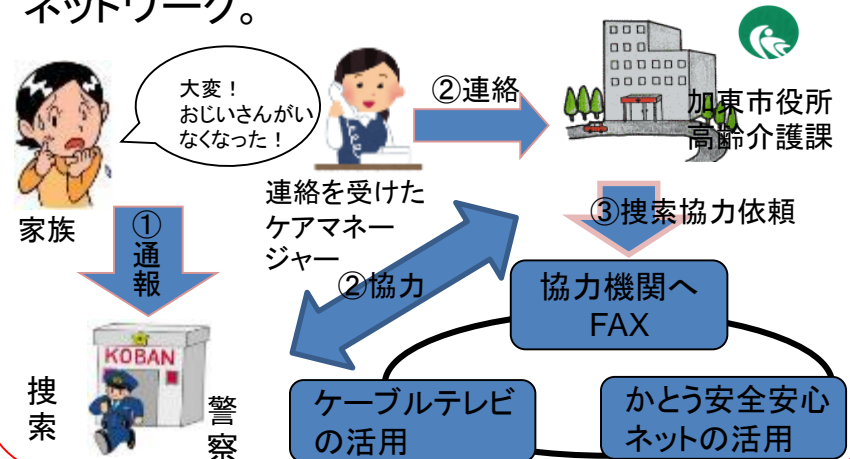
ひとり外出見守りネットワーク

高齢者が安心して、ひとりで外出ができる環境（地域の人たちによる見守り等）をつくり、行方不明を防止するネットワーク。



徘徊SOSネットワーク

もし行方不明になった時、早期発見を図るネットワーク。



取組みの概要(方法・対象)

1. 対象

- ・認知症の（かもしれない）人で、場所や外出の目的を忘れてしまう恐れがある。
 - ・地域で道に迷っていたり、夜間に頻回に外出している。
 - ・道に迷って、警察に保護された。等徘徊による行方不明のおそれのある方
- ※普段の生活のなかで、気になる方がいれば、同ネットワークをご紹介ください。

2. 登録方法

認知症（かもしれない）の人のご家族等が、加東市役所 高齢介護課窓口（加東市役所1階）又は、担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）にご相談いただきます。

アセスメントに基づき、**加東市ひとり外出見守りネットワーク個人票**に記載

【事前登録内容】

氏名（旧姓）、生年月日、住所、緊急連絡先、身体的特徴（身長、体重、足のサイズ、ほくろの位置等）、最近の写真（顔と全身）、外出コースなど

【裏面 見守り支援連絡票】

家族・親族、立ち寄り先協力依頼、店舗・近隣住民、介護サービス事業者 など



関係者で話し合いを実施

- 本人の散歩ルート確認
- 見守り協力依頼
- 異変の確認

本人・家族、ケアマネジャー、地域包括支援センター、介護サービス事業者、民生児童委員、地域の見守り支援者、社協 などが参加

これが
大切

情報が整ってから登録

市高齢介護課

普段の見守りと万が一の行方不明に備えます。

市防災課

民生児童委員

市社会福祉協議会

加東警察、駐在所

担当介護支援専門員

情報共有

取組の経過・工夫点

● ポップに！ 多様な啓発活動

「せっかく、良いことしてるのにみんなが知らなかったら、意味がない」年間を通じた啓発活動。

年間の啓発活動	
4月	消防団に講座
6月	広報紙
9月	ケーブルテレビ
10月	ネットワーク会議
11月	お祭り
12月	声かけウォーキング
3月	ワンワンパトロール



消防団に
協力要請



お祭りで啓発
(のぼりとチラシ)



わんわんパトロール

加東市ひとり外出見守り声かけ体験ウォーキング in 福田

開催日時 平成29年11月18日(土) 9:00~12:30
場所 沢部コミュニティセンター

コース2コース

スタート

ゴール

参加された方の声

声かけウォーキング



取組の経過・工夫点

● わかりやすく！一人ひとりの地域の見守り・早期発見の体制作り

登録を希望されるのは、困っている人。見守り協力者はボランティア。
「面倒くさい」「よくわからない」とならないようにする。



「家族が登録しやすくなるキット」 （加東市ひとり外出見守りネットワークキット）

ネットワークについてのわかりやすいマニュアルや事前登録用の個人票、蛍光ステッカー、キーホルダー、ペンライト、介護先輩者の声集等のグッズを入れた透明ポーチを、一人ひとりに手渡す。

加東市ひとり外出見守りネットワーク個人票		記入年 月 日	月 年 月 日
性別	氏名	住所	電話番号
年齢	性別	住所	電話番号
職种	職种	職种	職种
要介護認定	要介護	要介護	要介護
利用サービス事業所名	事業所連絡先	利用状況	曜日
【ひとり外出の状況】			
【ネットワークの目的と協力機関】			
【協力関係機関・ケアマネジャー・福祉センター等】			
【ネットワーク体制の確認】			



「定期的な更新と情報共有」

個人票と地図をみながら、関係者（本人・家族、ケアマネジャー、地域包括支援センター、介護サービス事業者、民生児童委員、地域の見守り支援者、社協 など）で話し合い。

一人ひとりの地域の見守り体制を検討します。

この地図では、黄色とピンクが本人の散歩ルート、青色が見守り協力者になります。年1回更新をケアマネジャーや家族にお願いしています。

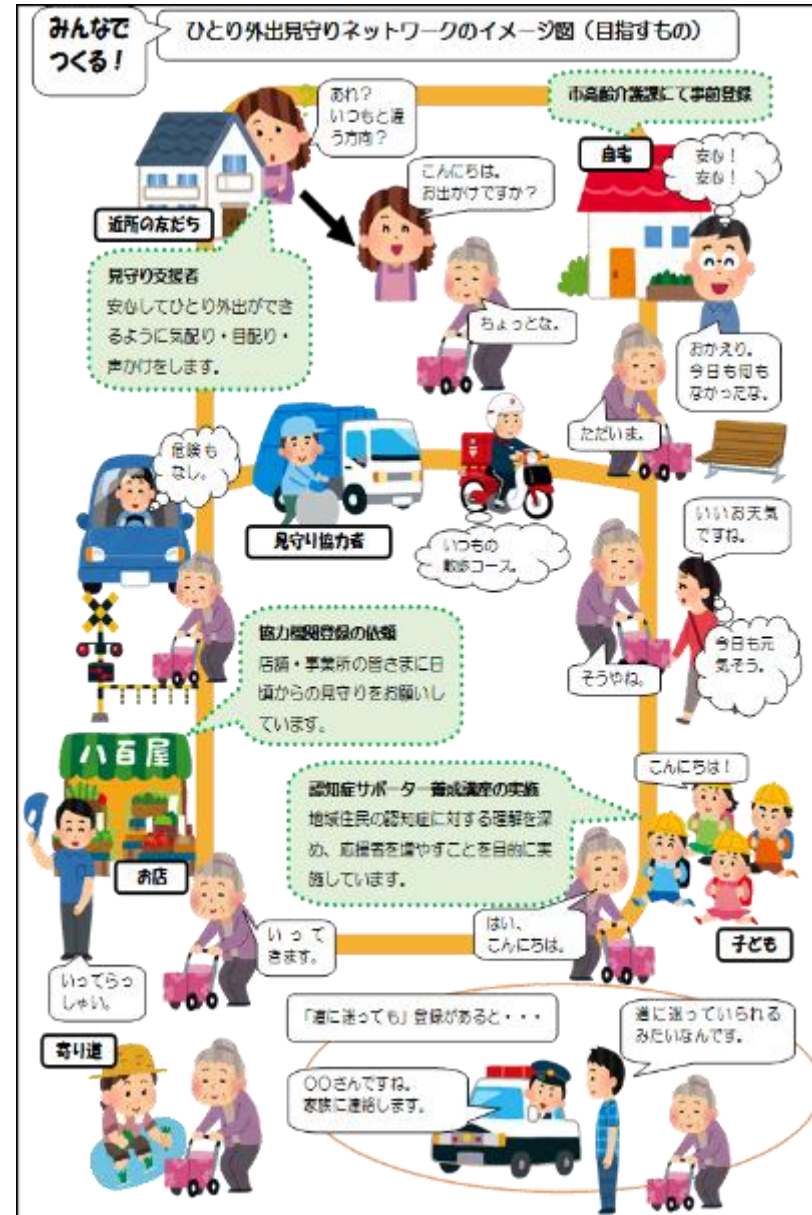
取組の経過・工夫点

H29年度のネットワークの現状

- ネットワーク登録者 44名
(累計 86名)
- ネットワーク協力機関 231ヶ所
- ネットワーク事業参加者 延275名
(声かけウォーキングやネットワーク会議等)
- 地域と介護のつなぐ民生児童委員連絡会にて同ネットワークを勉強



「利用したいなあ」、「こうなった
らいいなあ」って思ってもらいたい。



みんなでマニュアル改訂



警察、ケアマネジャー、消防、社協、民生児童委員、介護サービス事業所、キャラバン・メイト等で話し合い。「困っている時にわかりやすくしないと使えない。」「早く大勢で探せば、早く見つかることを周知してほしい」等の意見を頂く。

登録シートを丁寧に作る

家族さんと見守り環境をつくる時に、 だいたい伝えること

「まずは、本人にどこに出掛けているか聞いてください。」
 「最近、本人さんのことを話したり、相談した人はいますか？」
 「一番、頼みやすい人のところから頼みましょう。家族が頼みにくいところは、頼まなくていいですよ。」「協力を依頼にする時は、菓子折りとか、絶対、準備しないでくださいね」
 「民生委員に相談してみてもいいですか？」

見守り協力者がつながった例

安心して外出したい～毎日の生活のなかで、
 豊かな気配り・目配り・声かけを～

体調が悪そうなお時、道に迷っていきそうな時など
 日頃の生活範囲で、本人に、声をかけてください。
 なくなったらご家族が見守り支援者等に
 ます。見守り支援者が周囲を見ます。
 ない場合は、すぐ警察に連絡しましょう。
 (加東警察 TEL42-0110)

家族同意があれば、
 写真貼り付け
 または、別添

家族・親族・見守り支援者連絡表

家族・親族・店の名前・近隣 住民などの区分	氏名	電話
家族 長男		
〃 長女		
クレーン店 末広商店		
近隣 本多総合事務所		
近隣 三村		
山本呉服店		
*友人(浅井)の家 山本呉服店、スナックの近 まで出陣に行、たしかお母さま 今は不詳		

私はこの個人情報について、次の機関が情報共有することに同意します。

1. 市高齢介護課および福祉部局
2. 市社会福祉協議会
3. 市民生児童委員 (地区担当)
4. 市防災課
5. 加東警察

平成29年12月25日

署名



取組により生まれたこと・成果

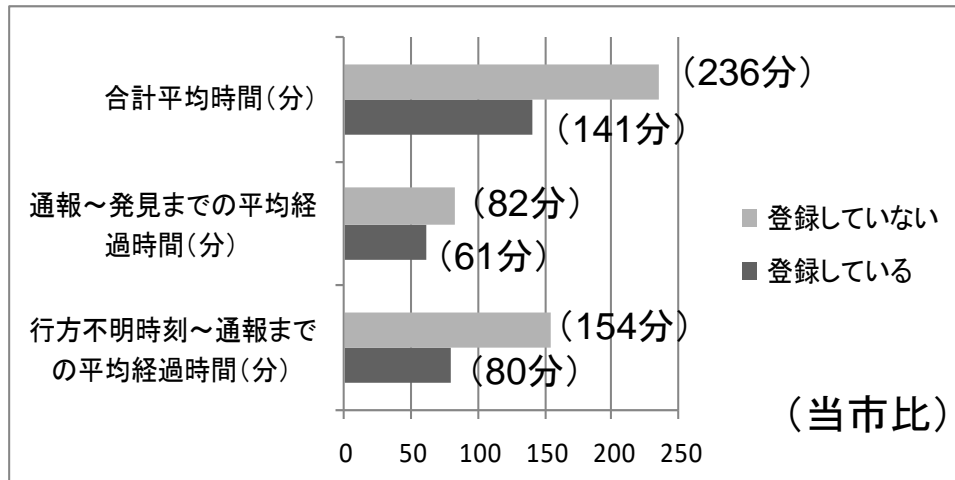
市への認知症かもしれない行方不明等の情報提供を元にした統計

高齢者の徘徊行方不明者の状況

(平成30年1月末まで)

平成25年度まで	24件
平成26年度	10件
平成27年度	11件
平成28年度	19件
平成29年度	19件
計	83件

認知症（の疑い）で行方不明になった当ネットワークを登録している方と登録していない方の検索時間の比較（市把握分）



	H27年度	H28年度
認知症等と思われる行方不明者	11件	19件
SOSネットワーク登録者	3件	7件
警察への通報数	7件	17件
かとう安心ネット	4件	2件
死亡発見	1件	0件

効果

- ・行方不明時の警察への通報件数が増えています。
- ・地域包括支援センターへの民生児童委員や地域住民からの通報が増え、相談先として認知されている。
- ・ネットワーク登録者は、早く発見されています。

認知症かもしれない人の警察との連携

平成28年度から加東警察から提案があり、相談した結果、警察が関わった事案で認知症が疑われる方で、情報提供の同意がもらえた方について情報共有を図るようになる。

2016 1815 181 148 201611 P. 1

認知症患者情報連絡票

加東市地域包括支援センター長 殿

加東市役所第30号
平成29年1月18日
加東警察署長
(印 着 封)

日 時	平成29年 1月 17日 午前 8時 20分 ころ
種 別	<input type="checkbox"/> 110番通報等現場対応 <input type="checkbox"/> 面談相談 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 検視 <input type="checkbox"/> その他(行方不明) 相談等 <input checked="" type="checkbox"/> 家族(同居) <input type="checkbox"/> 第三者 <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 心機開 <input type="checkbox"/> その他()
連絡者の住所、氏名	住 所 加東市
氏 名	氏 名 (87歳) (男) 女
生年月日、年齢等	生年月日 昭和4年 (87歳) (男) 女
家族等の同意	有 無
事 案 の 概 要	上記日時ころ、同居の奥房から「父親が買い物から帰ってこない」との行方不明品を受理。
家族等の住所、氏名	住 所 加東市
前 者 と の 関 係	氏 名 (88歳) (男) 女
連絡先等	姓 名 漢字 電話番号 携帯番号
センター	センター 番号 部
センター	日 年 月 日 午後・午後 時 分
届 入 票	
警察届出票	日 年 月 日 午後・午後 時 分
備考欄	

注 欄外のNo欄は、警察署で一連番号を記載する。(FAX 0795-42-6424:30階警察室)
地域包括支援センター FAX:0795-42-1733

加東警察

気になるなあ

包括に連絡票をFAX
(家族から同意)

通報があり、
気になった人

結果を報告

市役所

平成28年度

実績 **11** 件

訪問して、
状態確認。



課題(今後、力を入りたい点)

ネットワークに多くの人を巻き込める人と巻き込めていない人がおり、差がある。

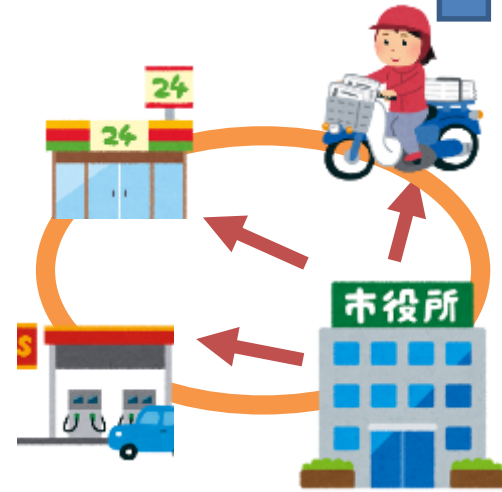
④地域の見守り力向上

① SOSネットワーク
利用者登録

② 本人から近隣へ
見守り協力依頼

③ 認知症サポーター養成講座 &
声かけウォーキング開催

ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク
協力機関(者)が、登録してからそのまま
になっている機関がある。



① SOSネットワーク協力機関は、関
心があって、登録しているはず。

② 店舗がなくなったり、
店長が変わると、申送り
できないところも・・・

③ 改めて、店舗等に案内。
ゆくゆくは・・・

・兵庫県の認知症サポ
ート店や見守り店舗に

このテーマを展開する上で大事だと考える ポイント

● 目標（テーマ）を明確にして、共有できるか。

加東市の目標は、「認知症になっても、行きたいところへ行き、会いたい人に会えるよう応援します。」なので、その目標が達成できるようにするには、どうしたらいいのかを考えて、事業を展開したり、事業説明を行っています。

● 協力してほしい人（機関）を巻き込む。

行方不明者を防ぐためには、いろいろな人の協力が不可欠です。協力してほしい人にしつこく連絡するし、頼っています。最初は無関心だった人も行方不明になったとかこういうことがあったと連絡するうちに、関心を持ってくれるようになりました。



私も担当したときは、わからないことだらけでした。

難しいことはできません。

ある1人の方をどうしたら、外出を続けられるかを考えることで、事業を進められるようになりました。できることから始めてみましょう。



高齢者を見守り支える 小さな地域での取り組み

福岡県福岡市博多区那珂3丁目自治会

福岡県福岡市博多区那珂3丁目14 - 6

小規模多機能型居宅介護・グループホーム ふあみりー那珂

<自治体の基礎情報>

那珂3丁目町内会長 城下乃一

ふあみり那珂 代表 荻田哲司

人口	1,567,189 (平成29年10月1日現在)	面積	343.39 km ²
65歳以上人口	320,932	高齢化率	21.0%
要介護認定者数	64,357	要介護認定率	34,566
日常生活圏域数	59	包括数	直営： 委託：57

認知症地域支援推進員数： 1名（うち行政：1名、直営： 名、委託： 名、他： 名）

地域の特徴：

- ・高齢者がいる世帯（2015年国勢調査）211,316世帯 うち37.9%が単身世帯
- ・全国の政令指定市の中で大阪市に次いで2番目に高い
- ・かかりつけ医，認知症サポート医，認知症相談医，認知症疾患医療センター，保健福祉センターが連携する「認知症医療連携システム」を実施
- ・平成28年度「市政に関する意識調査」で福岡市は住みやすい 95.8%
福岡市に住み続けたいと回答 92.4%

取り組みの目的・背景、経緯

◇ 2040年の福岡市では…

- ①日本で高齢者人口がピークに到達 (団塊世代Jr.が高齢者に)
 - ・都市部での高齢化が急激に進行, 農村部では人口激減
 - ・医療・介護費用増で高齢者も現役並負担が当たり前
 - ・認知症高齢者も増加, 支える世代は減少
- ②高齢者の気持ちと現実
 - ・市民意識調査では多くの人は住み慣れた地域での生活を希望
 - ・フレイルでは丘陵地など住み慣れた地域での生活は困難に…
- ③高齢者間の格差が顕在化
 - ・比較的裕福な団塊世代と氷河期世代が高齢者に
 - ・健康格差も顕在化する??

◇現在の那珂校区では…

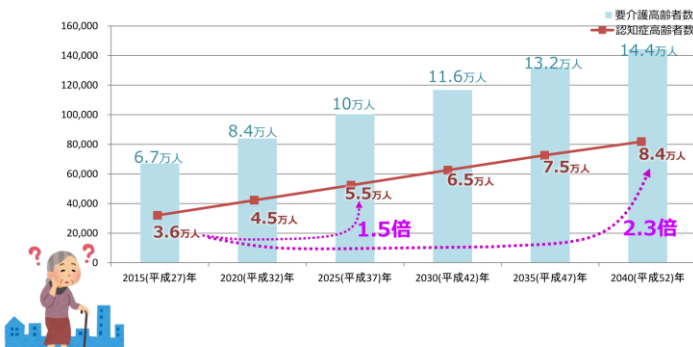
- ・ 認知症にやさしい町づくりのための啓発
- ・ 迷子になる高齢者の早期発見
- ・ 警察に保護されても、混乱を招く認知症の方がいる。
- ・ 民生委員等、地域の方が、高齢で不安に思う方がいても、介入を具体的にできていない場合がある。(認知症かもわからない)
- ・ 地域に包括支援センター、福祉施設等があるが、地域の方がその機能を十分理解できていない。

認知症高齢者の状況

◇ 福岡市の認知症高齢者…

2025年には現在の約**1.5倍**, 2040年には約**2.3倍**

■ 福岡市の要介護認定者と認知症高齢者数の推計 ■



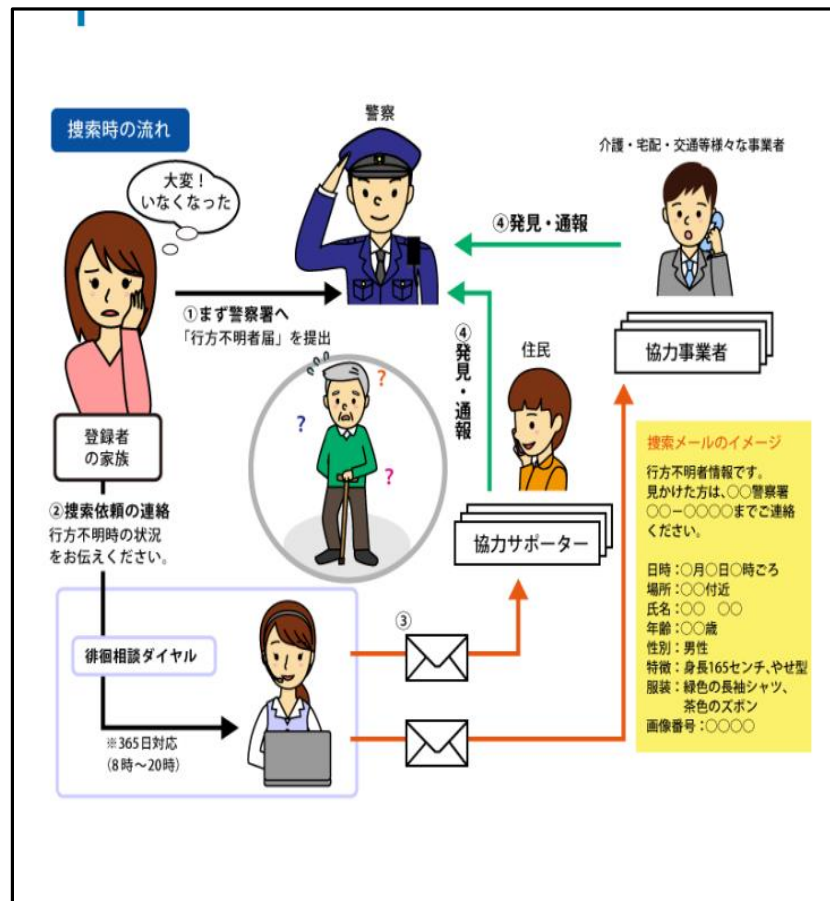
<人口と世帯の状況>

平成29年9月末現在

	那珂校区		博多区		福岡市	
	実数	率	実数	率	実数	率
世帯数	10,698		128,770		750,158	
総人口	21,078		218,461		1,491,630	
1世帯当たりの人口	1.97		1.70		1.99	
0~14歳	3,172	15.0%	24,737	11.3%	205,834	13.8%
15~64歳	14,726	69.9%	153,534	70.3%	966,408	64.8%
65歳以上	3,180	15.1%	40,190	18.4%	319,388	21.4%
(再掲)75歳以上	1,342	6.4%	18,547	8.5%	149,559	10.0%

特に関係する施策行政サービス

- 認知症高齢者見守りネットワーク
認知症高齢者探してメール
検索システム、ステッカー貸し出
(ID)
- 認知症サポーター養成講座
約1000人のキャラバンメイト



取組みの概要(方法・対象)

- 地域のコアな事例

- 認知症かけこみ110番
- 認知症見守り、声かけ模擬訓練in那珂
- 高齢者の外出を支援するサポート
行方不明の高齢者等を捜す住民力
- きんしゃい博多（地域事業所と行政ネットワーク）
- けあかふえ那珂 意聴並木の会
- キッズサポーター養成講座



高齢者の外出を支援サポート
行方不明の高齢者等を捜す住民力

那珂地区 高齢者について
平成27年度 65歳以上
2,983名
那珂地区 高齢化学
平成27年度 15.7%
75歳以上 6,117名
1,239名

那珂3丁目自治会
事務局
小規模多機能型居宅介護『ふあみりー那珂』
有限会社 春吉タクシー
高齢者・子どもサポート隊&配車センター
☎0120-400-864

どうかされましたか？





取組の経過・工夫点

認知症かけこみ110番

- 社会福祉協議会事業に。
- 博多区と連携。広域も対応
- 警察連携（取り組み概要共通認識）
- 住民もポスターを掲げ参加
- SOS模擬訓練終了者に渡す。

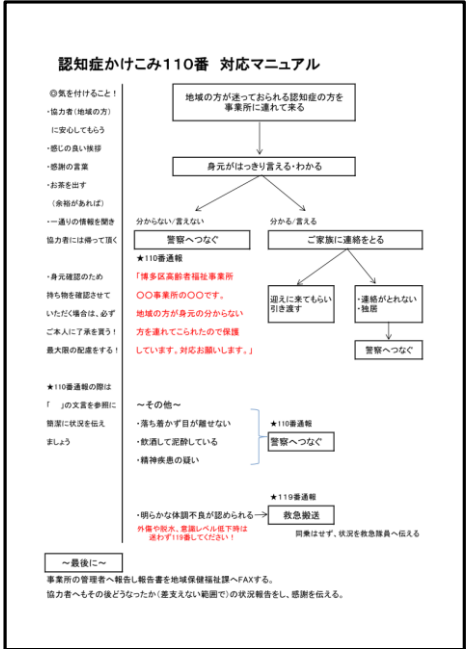
博多区「福祉施設が行う地域貢献サポート事業」実施要綱

1. 目的
「住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしていく」という地域福祉を構築していくために、福祉施設の専門機能を地域で活用するという地域貢献活動が求められており、施設の間でもその方向性が模索されている状況である。この事業は、施設で提供できる活動や機能を本会が調査・整理し、校区社会福祉協議会などに情報を提供するとともに、円滑な連携が進むよう協力体制構築のサポートを行い、地域福祉を進めていくもの。
2. 実施方法
施設が地域に提供できる機能・サービスを博多区社協で調査し、その情報を校区社協等を通じて地域住民に紹介し、双方の連携をサポートする。
3. 施設の主な提供事業(例)
 - (1) 施設からの提供・貸出
 - ① 会場の提供
・地域カフェ
・ふれあいサロン
・地域会議
 - ② 車いす貸出
 - ③ 送迎バスの提供
 - ④ 災害時避難所の開放
 - (2) 施設職員の派遣
 - ① 地域行事への参加
 - ② ふれあいサロンでのレクリエーション指導等
 - ③ 地域カフェでの「介護相談コーナー」対応
 - (3) 相談の対応
 - ① 徘徊高齢者相談・対応
 - ② 福祉・介護相談
4. その他
この要項に定めるものの他、必要な事項は区協会長が定める。

附則
この要項は、平成28年2月15日から施行する。

那珂校区	【提供事業名】										備考
	■派遣	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
①施設・事業所名 ②住所 ③担当者氏名 ④電話番号・FAX ⑤電子メール	職員	送迎車両の運行	会場・会議室	レク器材	車椅子	避難所	その他	徘徊高齢者・対応(認知症110番)	福祉・介護相談	●利用できる人	
小規模多機能ホーム・ふれあい一部別 〒812-0893 那珂3-11-6 森田 093-2335-294・7934	講話・レク・地域行事・相談	○(軽自動車)	○		○	○※1		○※2	○	校区住民	
ミツバ健康の森 竹下 〒812-0895 竹下5-9-2 木塚由 290-8605/260-8606	健康体操指導・体力測定		○(相談室)		○	○※1			○	どなたでも	
英園調理学 はなごぼ 竹下 〒812-0893 竹下1-41-7 林竹 292-7501/292-7502						○※1		○※2	○	どなたでも	付帯活動等でのボランティア活動や親子での交流等から、在宅高齢者福祉支援になることを目指しています。
英野島ケアプラザセンター 〒812-0893 竹下5-26-3 工藤 441-0568/402-8188								○※2	○	校区住民	

○※1・・・災害時に一時的に利用可。



認知症かけこみ110番 報告書
博多区地域保健福祉課 FAX: 092-441-0057

1. 家族へ引き渡し 2. 110番 / 119番 3. その他()

<本人>

本人氏名	<input type="checkbox"/>	不明	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
住所	<input type="checkbox"/>	連絡先	()	-
家族等氏名	<input type="checkbox"/>	(続柄)	<input type="checkbox"/> 不明	
住所	<input type="checkbox"/>	連絡先	()	-

<第一発見者>

氏名	<input type="checkbox"/>	住所	<input type="checkbox"/>	連絡先	()	-
----	--------------------------	----	--------------------------	-----	-----	---

<発見状況>

日時	平成	年	月	日	()	時	分	秒
場所	<input type="checkbox"/>							
状況	<input type="checkbox"/>							

<観察/対応>

外傷有無	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(局所)	<input type="checkbox"/> 脱水 <input type="checkbox"/> 出血	<input type="checkbox"/> 意識障害
緊急搬送	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(搬送先)	<input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 不明
警察署連絡	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(保護先)	<input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 不明

取組により生まれたこと・成果

- 認知症高齢者を、自治会と施設の連携で無事保護
- 認知症高齢者の見守りの意識
- 同様の活動をしたいたの住民の動き
- 自治会、施設、行政、包括との距離感（親近感）
- 地域連携会議に自治会、民生委員の参加
- きんしゃい博多立ち上げ

認知症声掛け見守り模擬訓練参加した方の声

- 声をかける勇気が必要です。
- 第一声をかけるのが難しかった。
- 訓練をしていることをもっと地域に呼び掛けてほしい。
- 地域で何度も経験を重ねてゆくことが大切。
- 気軽に声をかけれるような地域づくり。

等々

★きんしゃい博多★

(博多区介護保険事業者たちの集まり)

～私たちにできること～

☞ 介護や健康について出張講座ができます。(地域の会合、サークルの集まりなど。呼んでください。介護保険の事や認知症の事、介護予防体操もやります)

☞ 介護相談承ります。(地域カフェやサークル活動時。呼んでください。当日限定相談コーナーを立ち上げます)

☞ モノ屋敷(宝の山かも?) 片付け相談受け付けます。(博多区の社協と相談して、お手伝い可能な場合は片付けをお手伝いします)

☞ 介護者のつどいや地域サロンの立ち上げ手伝います。

☞ 地域の民生委員さんが高齢者宅を訪問する時、困った事例はご相談ください。(本人・家族の同意があれば同行訪問します)

困ったときはお互いさま。

連絡してきんしゃい。

もちろんすべて無料のボランティアです。



取組により生まれたこと・成果

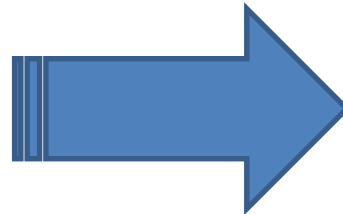
- さらにネットワークが広がる。
- きんしゃい博多

◇構成

博多区役所
博多区社協
博多第6包括
居宅事業所
施設
病院SW
薬局
マッサージ事業所
等

※ボランティア

アウトリーチ



地域サロン
介護相談・健康相談等

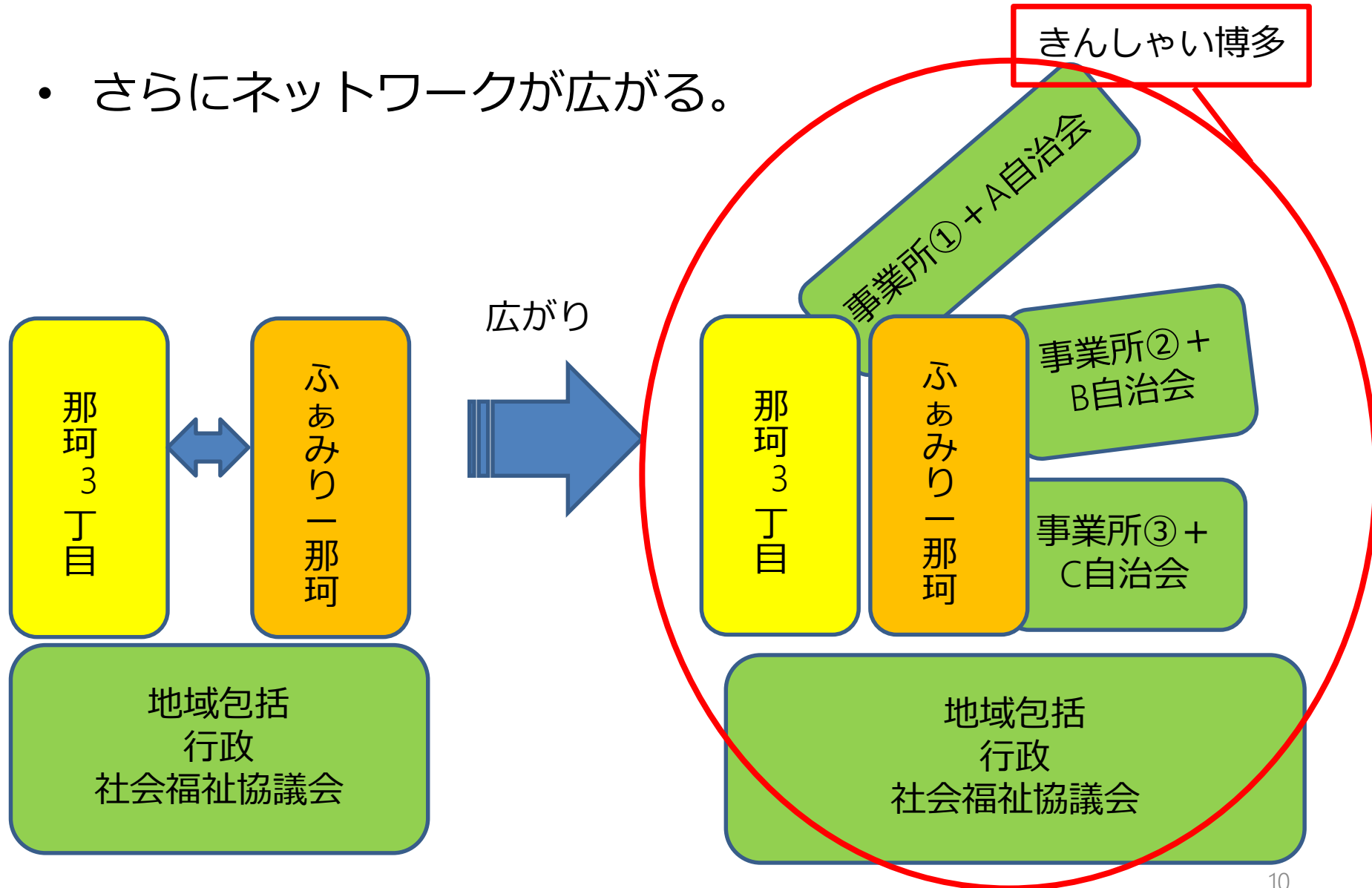
民生委員
認知症高齢者の同行訪問

自治会
カフェ立ち上げ手伝い

住民
もの屋敷片付手伝い

取組により生まれたこと・成果

- さらにネットワークが広がる。



課題(今後、力を入りたい点)

- 模擬訓練の毎年の開催
 - ⇒ 町内会から自治区、博多区へ活動拡大
- 高齢者の外出を支援するサポート
 - 行方不明の高齢者等を捜す住民力事業
 - ⇒ 協賛企業の拡充、自治区に広げる (啓発)
- きんしゃい博多
 - ⇒ 地域カフェ (サロン、認知症カフェ、ケアラースカフェ支援)
仲間を拡大、民生委員との連携強化。
- 認知症110番
 - ⇒ 仲間を拡大、 (施設、住民)



- 認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」普及
- 認知症カフェの開催促進
- 認知症にやさしい「デザイン」ガイドラインの策定
- 認知症の人の見守り実証実験
 - GPS機器を活用した見守り。
- 認知症早期支援チームの拡充
- ICT活用で認知症の人の早期発見

このテーマを展開する上で大事だと考える ポイント

- 一人に負担がかからないよう、みんなで取り組む。
- 小さな地域から増やし、協力者を増やして行く。
- 自治会、行政等の縦割りや地域、圏域にとらわれない。
- 行政主体だけでなく、住民、施設共同で。
- 警察、企業の協力拡大（行政のイニシアチブ必要）
- 当事者、介護主体者が見過ごされないように。

警察で保護後に情報が行政に提供される仕組みを通じて 本人と家族の安心・安全を共に守る

～認知症高齢者等支援対象者情報提供制度を活かした取組み～

大阪府・東大阪市
東大阪市役所福祉部高齢介護室
地域包括ケア推進課

福永 悟之(課長) 山内 江美子(総括主管) 能勢 友里(保健師)

<自治体の基礎情報>

人口	491,938人 (平成29年12月末)	面積	61.78km ²
65歳以上人口	136,630人 (平成29年12月末)	高齢化率	27.77%
要介護認定者数 (要支援含む)	30,037人 (平成29年12月)	要介護認定率 (要支援含む)	21.98%
日常生活圏域数	25圏域	包括数	直営：0 委託：22

認知症地域支援推進員数： 0名 (うち行政： 名、直営： 名、委託： 名、他： 名)

地域の特徴：

- 昭和42年2月、3市（布施市・河内市・枚岡市）が合併して東大阪市となる。平成29年で市制50周年。
- 大阪市と奈良県との間に位置し、市内東西・南北に高速道路が走り、6鉄道25駅があるなど、交通網が発達。
- ラグビーのまち（2019WC開催地）
- モノづくりのまち（町工場のまち）
- マスコットキャラクターの「トライくん」がゆるキャラ®グランプリ2017第3位獲得



東大阪市における 認知症施策(事業)の全体像

本人・家族の安心のために

- ・ SOSレンジネットワーク
(QRコードシールの配布)
- ・ 東大阪市レンジチーム
(認知症初期集中支援チーム)
- ・ 認知症あんしんが伊ブック
- ・ 認知症高齢者等支援対象者
情報提供制度

支援するための地域づくり

- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 認知症サポーターボランティア養成講座
- ・ 認知症キャラバンメイト養成講座
- ・ 認知症あんしん声かけ訓練
- ・ 認知症カフェ
- ・ 3 医師会との連携
(認知症サポーター医・認知症
対応力向上研修など)
- ・ 市広報にコラム
『おれんじ通信』掲載

安心して外出できる地域づくり (行方不明に関する取組)の全体像

SOSオレンジネットワーク(QRコードシールの配布)

民間企業や介護事業者などに協力者となっただき、高齢者が行方不明になった際に、協力者へ検索依頼メールを配信。

早期発見・保護につなげます。

登録者には、普段身につける杖や靴などにも貼付できる、QRコードを印字した「見守りトライくんシール」を配布しています。

認知症サポーター養成・サポートボランティア養成

小学校や中学校の生徒対象のキッズサポーター養成や商店街でのサポーター店登録、郵便局、金融機関、警察署、薬剤師会、市職員（新規採用者）等へと対象を広げて認知症サポーター養成講座を実施。

これまでに延べ3万人以上養成。一歩進んで様々な活動をお手伝いいただける、認知症サポートボランティアの養成も進めています。

認知症あんしん声かけ訓練

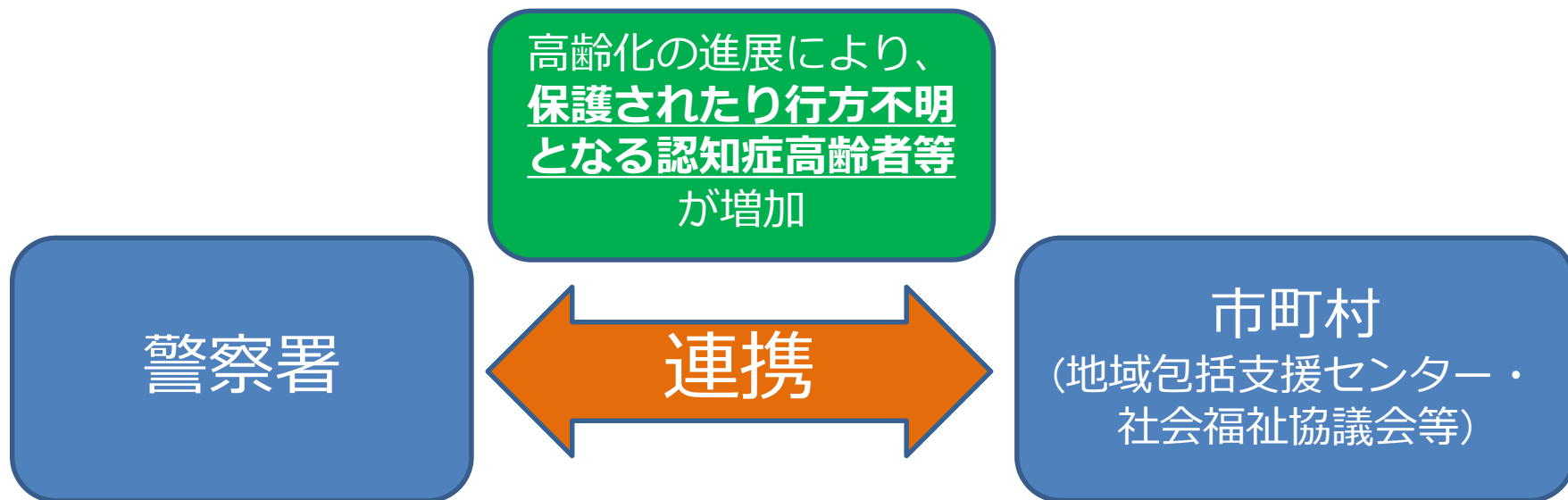
地域団体や医療・介護の専門職、民間企業などが参画し、地域で声かけや接し方の訓練への取り組みが進んでいます。

平成29年1月～
認知症高齢者等
支援対象者情報提供制度

取組の目的・背景・経緯

認知症高齢者等支援対象者情報提供制度

警察署で取り扱った認知症又はその疑いのある高齢者等の保護・行方不明等事案について、本人又は家族等の同意を得て認知症高齢者への支援を行っている市町村や地域包括支援センター（社会福祉協議会）等に書面にて情報提供を行い、もって保護や行方不明事案の未然防止を図る。



取組みの概要(方法・対象)

認知症高齢者等の保護・行方不明等事案が発生したら、同意を得た上で情報提供

- 同意者、支援対象者の住所、氏名、年齢、連絡先など
- 警察が認知した日時、場所、支援対象者の状況など
- 支援を求める内容など

※同意は、口頭で本人又は家族等から

市内警察署
(枚岡・河内・布施)

市外警察署

①電話連絡による情報提供

②情報提供書送付

市外からの
情報提供は
推進課が
窓口となる

担当区域の
地域包括支援センター

東大阪市
地域包括ケア推進課

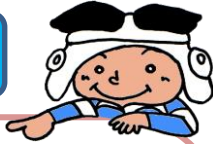
情報連携

福祉事務所等の関係機関と連携し、
福祉・介護制度利用による支援等を実施

市全域における
情報の集約

取組の経過・工夫点①

これまでも関係機関との連携で様々な取組み～QRコードシール～



- (担当センターコード)
- (個人登録番号) を記載しておく



平成27年2月～

モノづくりのまちだから出来たシールなんです！

◎アイロンやドライヤー等で、衣服や持ち物に容易に付けることができる。

◎衣服のみならず、小物などにも付けられる。

◎少々の摩擦を与えたり洗濯をしても剥がれたり、ひび割れたりしにくい。

◎洗濯をしても、QRコードを読み続けることができる。



読み取ると



身元がわからないときは、最寄りの警察署か下記に連絡をお願いします。

東大阪市社会福祉協議会
角田総合老人センター
072-962-8022

表示

早期の発見・保護、身元確認のためのツール

取組の経過・工夫点②

認知症高齢者等 支援対象者情報提供制度運用の経緯

平成28年9月	<ul style="list-style-type: none">・大阪府警本部より制度説明・先行地区（大阪市城東区）の状況を聞き取りし、 本市運用方法を検討
平成28年10月	<ul style="list-style-type: none">・帳票等の整備・地域包括支援センターに周知
平成28年12月	地域ケア会議企画運営会議を活用し、関係機関・ 団体に周知
平成29年1月	運用開始（市の推進課が窓口）
平成29年4月	大阪府下全市町村で制度運用開始
平成29年5月	市内警察署からの電話連絡先を地域包括支援セン ター（委託型、22か所）へと変更（市外警察署か らは市の推進課が窓口）

取組の経過・工夫点③

地域包括支援センター（高齢者の総合相談窓口）
→原則中学校区を担当区域とする22センター体制



1市に3警察署と22センター
→より地域に密着した連携が可能

取組により生まれたこと・成果①

対応事例

- 「妻（80代）が行方不明になった」と、夫より警察に届け出あり。翌日夕方路上に横たわっていたところを通行人の通報により保護。名前(+)住所(-)会話(-)。夫の同意のうえ市へ情報提供、家族へ引渡し。介護保険認定なし。受診なし。包括職員が訪問し、SOSホンズ[®]ネットワーク登録、受診支援及び介護保険サービス（デイサービス）導入。夫「本人の行き場が出来て良かった。」
- 70代男性が車道を歩行。通行人の通報により保護。名前(+)住所(-)。同居長男同意のうえ市へ情報提供、長男へ引渡し。要介護2。昼間独居。保護歴3回。その後包括職員がケアマネと連携し、支援を拒否していた長男に警察からも働きかけ、ケアプランを見直し、本人の状況に適應するサ高住に入所することになった。

取組により生まれたこと・成果②

警察よりの情報提供：受理件数（平成29年）

	件数	内訳			
		布施	河内	枚岡	市外
1月	39	23	5	11	0
2月	34	20	8	5	1
3月	29	14	8	7	0
4月	36	20	6	9	1
5月	28	14	4	7	3
6月	29	16	6	5	2
計	195	107	37	44	7

* 毎日のように情報提供がある。警察にはこんなにも情報があつた！
→ 支援が必要なケースの情報を、警察と日常的にやりとりできるようになった。

評価と課題

担当者の声

【地域包括支援センター職員】

○本人や家族が関わりを拒否していた事案も、警察が連携してくれたおかげで関わりをもつことができた。

○何度も警察に保護されていた事案に福祉・介護との連携を築き、認知症カフェへの参加に繋ぐなどして状態が安定し、保護される回数が減った。

○管轄警察署との連携が一層強固なものになった。

【市職員】

○交通網の発達等により、高齢者が市外で保護されるケースが増えているため、この制度が全国的に拡がると良い。

○高齢者虐待や困難事例を把握する機会にもなる一方、対象者がセンター職員を受け入れてくれるかどうかは様々。

この制度でのきっかけを活かし、拒否されても見放さずに、どう関わり続けるかの工夫検討も必要。

このテーマを展開する上で大事だと考えるポイント

- 警察署職員と市職員、地域包括支援センター職員の「顔の見える関係」迅速な連絡・対応
- 警察署職員の認知症の理解、認知症の方への対応力、本人及び家族への制度の説明力（支援者につなぐことが、本人や家族にとってメリットとなることを伝える）
- 地域の方の「ちょっと気になる方」「困っている方」への「気づき力」「対応力」
- 行政区（警察署管轄区）の垣根を越えた連携

○自治体にとって、認知症高齢者を地域全体で支える仕組みの構築は急務。

○警察署も自治体行政も、更なる高齢化の進展に対応するために、お互いの得意分野で連携することが非常に重要。

○「地域には、実は高齢者支援に深い関わりや可能性がある機関や資源、活動がもっと存在するのでは？」という視点でもう一度地域を考える！

「みまもり登録」と「地域ケア会議」を活かして 安心して外出できる地域をつくる

兵庫県川西市

川西南地域包括支援センター（委託） 主任 介護支援専門員 市場 大輔

中山 緑

川西市中央地域包括新センター（直営）主任介護支援専門員

森上 淑美

＜自治体の基礎情報＞ H29/12/31現在

人口	1 5 8 , 8 7 3 人	面積	5 3 . 4 4 km ²
65歳以上人口	4 8 , 6 0 0 人	高齢化率	3 0 . 6 %
要支援・介護認定者数	8 , 6 0 6 人	要介護認定率	1 7 . 7 %
日常生活圏域数	7 か所	包括数	直営：1 委託：7

認知症地域支援推進員数： 8名（うち直営：1名、委託：7名、）

地域の特徴：平安時代には源満仲が多田盆地に移り住み、率いる武士団の本拠として開発し、清和源氏発祥の地として現在にまで語り継がれています。兵庫県の東南部に位置し、東は大阪府池田市と箕面市に、西は宝塚市と猪名川町、南は伊丹市、北は大阪府能勢町と豊能町に隣接しています。ベッドタウンとして開発された大型団地は、現在では高齢化率40パーセントを超えているところがあります。



川西市における認知症施策

一貫して
「本人視点」
を重視

認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議

○認知症の理解・普及・啓発および人材育成

- 認知症サポーター養成講座4回コース・1回コース
- キャラバンメイト養成研修

○地域支援体制の推進

- **みまもり登録** **靴のスッテカー配布**
- 認知症行方不明者SOSネットワーク SOS訓練
- 認知症カフェへの支援（市内11か所）
- 若年性認知症の会 • 認知症ケアネット（ケアパス）

○医療と介護連携

- 初期集中支援チーム 認知症ケアチェック表の活用
- 医療介護連携「つながりノート」の活用促進
- 認知症予防事業「脳活」

川西警察署内の行方不明者

年度	SOSネットワーク 受理件数 (高齢者)	見守り登録者数
H27	48件 (31件)	66人
H28	32件 (21件)	46人
H29 (H30/1/31時点)	34件 (19件)	28人

○減少傾向の原因

- 見守り登録の浸透
- 生活安全課担当者がすぐに担当地域包括支援センターへ電話し、早期の対応ができることが多い

○見守り登録情報の有効性

- 行方不明者が見守り登録されている時、警察ではすぐに情報活用して捜索している
- 登録情報の本人がよく行くところを捜索すると発見する率が高い

みまもり登録

申請窓口 地域包括支援センター・市

日頃のみまもりの対応方法 地域ケア会議において個別にネットワークを作り見守る

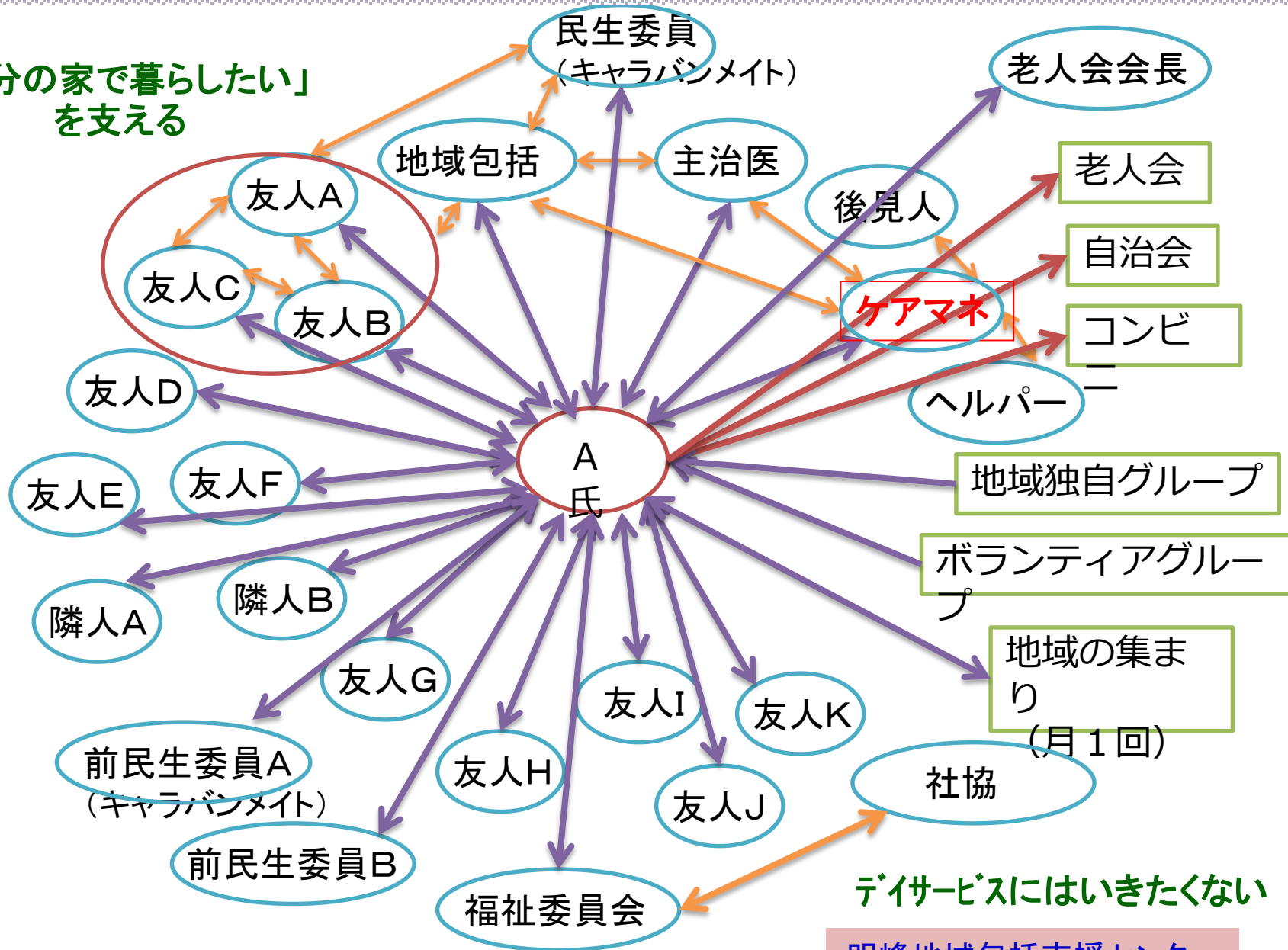
登録者の情報管理 川西市・川西警察・地域包括支援センター・民生委員・認知症行方不明者SOSネットワーク代表者 等

登録されている方が行方不明になったら・・・

より速やかに発見できるように、登録情報の有効活用を行う。認知症行方不明者SOSネットワークとの連携を進める

みまもりのための地域ケア会議で見た支援ネットワーク例

「自分の家で暮らしたい」
を支える



デイサービスにはいきたくない

明峰地域包括支援センター

川西南地域包括支援センターの 取組の経過・工夫点(1)

- 平成28年度下半期に、地域包括支援センターの業務内容や役割分担の見直しを実施。
「地域ケア会議」(見守り登録された方含む)準備・開催・評価に関わる業務時間を新たに作り出しました。
- 『エリア内の民生委員・居宅ケアマネジャー・地域包括支援センターによる交流会』を定例で開催。
 - ・地域住民参加型にて、実際のケースをアレンジし、10～15分程度の「地域ケア会議」のロールプレイやグループワークを実施。(アイスブレイクを交えつつ、楽しみながらも地域住民や居宅ケアマネジャーに「地域ケア会議」を周知するよう工夫。)

川西南地域包括支援センターの 取組の経過・工夫点(2)

【単発開催ではなく、できるだけ複数回の開催と振返りを実施】

H29. 4月～H29. 9月

- 開催回数 18回(対象者数 13名(平均年齢79.2歳))
- 男性 2名 女性11名(内一人暮らし 4名)
- 1ケースに要した開催回数
(6回=1名、5回=1名、3回=1名、2回=4名、1回=6名)
- 介護度別(ADLは概ね自立。軽度認知症の方が多い傾向)
(未申請=1名、支援1=2名、介1=8名、介2=1名、介3=1名)
- エリア別(地区毎に開催状況にバラつきあり)
(久代=7名、加茂=3名、南花=1名、下加茂=2名)

川西南地域包括支援センターにおける 取組の経過・工夫点(3)

○ケースの内容

13名 全てが認知症(または疑い)に起因するケース

- ・外出後、自宅に戻れないケース(見守り登録)(6名)
- ・他者宅から花や傘、郵便物等を収集するケース(1名)
- ・地域で役割(ボランティア等)を担う事に支障が出始めたケース(1名)
- ・煙草の不始末や一人での外出が心配されるケース(1名)
- ・夫婦間で虐待につながる可能性があるケース(3名)
- ・高齢・障害・生活支援等、様々な関係機関からの支援を要する多問題ケース(1名)

○「地域ケア会議」開催後に必ず、センター内で評価を実施し、
『個別ケースから地域課題を抽出すること』を常に心がけて
取り組んでいます。

川西南地域包括支援センターの

取組により生まれたこと・成果(1)

行方不明や転倒等のリスクが高いケース

- ・80代・女性。一人暮らし。介護2。徒歩10分のところに長女在住。
- ・デイサービス週3回利用以外に、地域の老人会等に参加。
- ・「地域ケア会議」には、包括・ケアマネジャー・サービス事業所・長女・老人会・自治会・キャラバンメイト代表が参加。

→ご本人の関心事や日課、家族の役割、地域でできることを共有。(回数を重ねる毎に他者批判が減り、会議目的も共有でき、家族や地域が互いに理解しあえ、ネットワークが強化した。)

→川西市の「見守り登録制度」活用

(発見時の連絡網を再整備) (GPS携帯・シューズ等の活用)

→地域住民、キャラバンメイトにて支援

(発見時の声かけ方法を共有) (カフェやサロン等への参加。)

川西南地域包括支援センターの 取組により生まれたこと・成果(2)

○個人情報や守秘義務等の理由から、分断されていた、行政・包括・医療・介護サービス事業所と地域住民等が、個別ケース支援に関する情報と支援方針を共有できた。

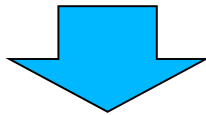
○ご本人の日中の過ごし方について話し合う中で、住民主体のカフェや集いの場がない地域があることが把握できたり、近隣の社会資源(カフェ等)を活用するためには、移送手段(車両・人材等)がないことが、『地域課題』としてみえてきた。

【個別課題→地域課題→政策提言(地域づくり・資源開発)】

課題(今後力を入れた点)

○地域で「見守り登録制度」を支援して頂ける社会資源(スーパー・コンビニ・郵便局等)の発掘。

○認知症状により行方不明になったということを隠したり、又、そのようなことがあってもどこに相談して良いかわからない、といったご家族等への働きかけ。(見守り登録制度の普及・啓発)



○「地域ケア会議」はまだまだ地域に浸透するまでに至っていない。(ケアマネやサービス事業所含む)ごく一部の意識の高い住民等のみの理解。引き続き回数を重ね、地域ケア会議の目的・意義を発信する。(=各地区毎の地域ケア会議の定例化)

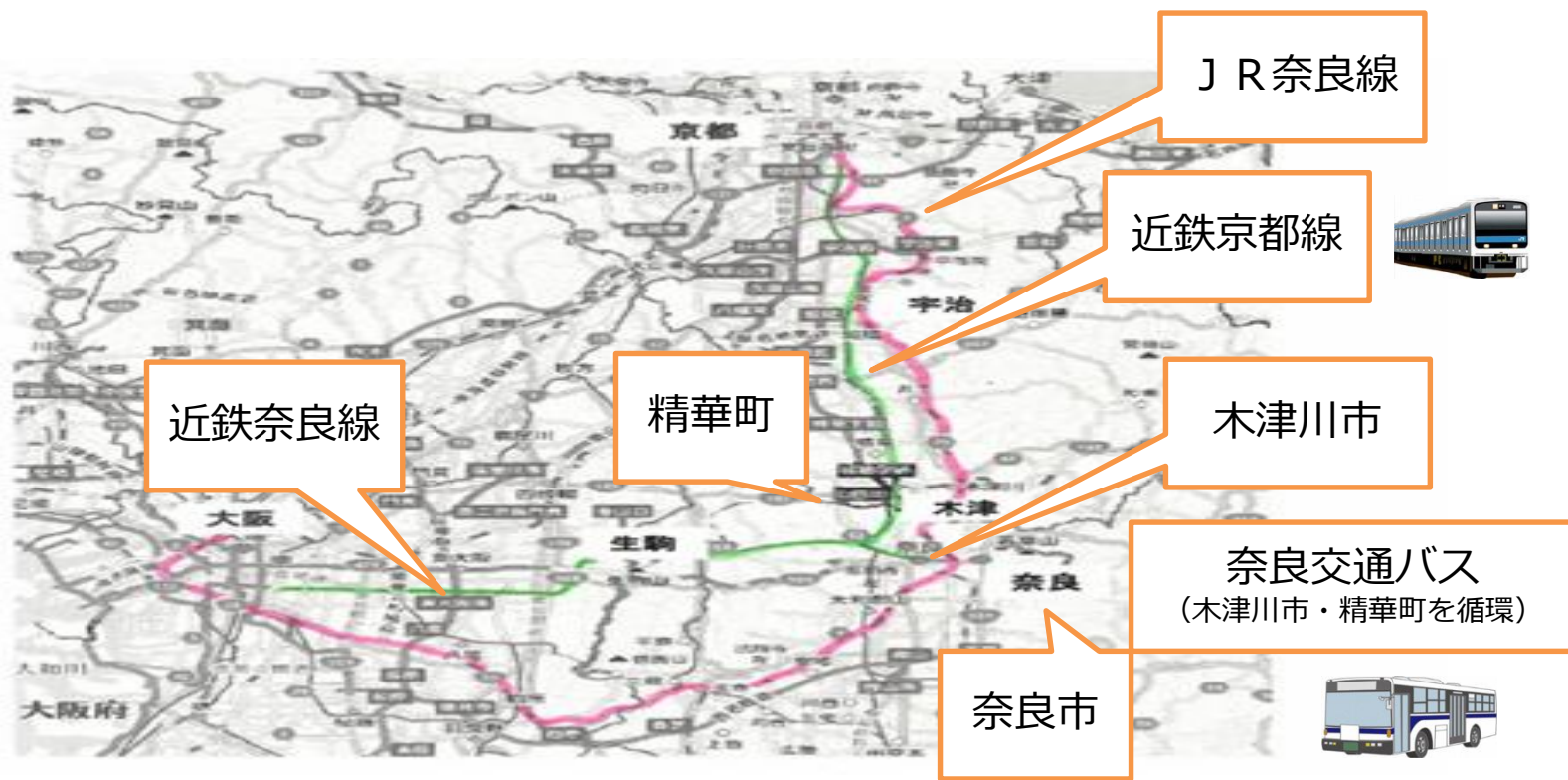
○地域ケア会議から抽出した「地域課題」を発信する場の確保。

このテーマを展開するうえで大事だと 考えるポイント

- 「見守り登録」制度を地域内で浸透させていくことが重要。
(回数を重ね、多くの方に制度を理解してもらう機会を設ける)
 - 家族やキャラバンメイト、地域住民に過度な負担がかからないような支援体制を構築する。(GPS等の活用。)
 - 警察との連携。(行方不明者だけでなく、スーパー等から商品を無断で持ち帰ったり、他人の自宅内に入り、郵便物や傘を収集してくるケースがあった。)
 - ご本人の生活習慣や関心事、行動範囲、身体的特性(衣服を含む)の把握。(再アセスメント)
- ★すべてのプロセスで、本人視点を重視しながら。

広域での見守り・SOS体制の構築に向けて

府・保健所が市町・隣縣市・交通機関と共に広域模擬訓練を実施



京都府山城南保健所企画調整室 木下直子 (保健師)

木津川市高齢介護課 中畑麻紀子 (社会福祉士)

精華町福祉課 藤田恭平 (行政職)



木津川市



精華町



人口	76,060人	人口	37,579人
高齢化率	23.6%	高齢化率	22.9%
65歳以上人口	17,957人	65歳以上人口	8,601人
要介護認定率	16.2%	要介護認定率	15.82%
面積	85,13 平方キロメートル	面積	25.68 平方キロメートル
日常生活圏域数	4ヶ所	日常生活圏域数	2カ所
地域包括支援センター数	4ヶ所（委託）	地域包括支援センター数	2カ所（委託）
認知症地域支援推進員数	2人（市職員）	認知症地域支援推進員数	4人（包括）
地域の特徴 人口は関西文化学術研究都市地域を中心に増加を続けており、全国でも有数の人口増加になっていますが、地域によっては高齢化率が40%を超えているところもあり、高齢化率の地域差は大きくなっています。		地域の特徴 関西文化学術研究都市の中心として、文化施設や企業研修施設が多く集まっています。大阪市や京都市、奈良市のベッドタウンの開発地域と既存集落があります。既存集落では、高齢化率が高くなっています。	

～京都府の取組み経過～

■平成26年度

- 京都府が「認知症等による行方不明発生時の早期発見と身元不明対策に係る検討ワーキング会議」を設置、同10月には「認知症高齢者等の行方不明時における早期発見及び身元不明者の身元確認に関する広域連携要領」を策定

■平成28年度

- 全市町村で、SOSネットワーク構築及び事前登録制度の導入完了

■平成29年度

- 事前登録情報の警察署との共有制度を導入（全市町村で着手）
- 広域連携要領の検証及び交通機関等のSOSネットワークへの参画を目的とした広域模擬訓練を実施

～今回の模擬訓練の背景と経過～

- 管内における行方不明者について、交通機関（電車）を利用され、管外で発見される事例あり
- 府内で行方不明者が出た場合、隣接市町村へ情報提供する際は、京都府を通じて行うこととなっており、迅速な情報提供ができない

➡ 公共交通機関や行政間の連携、ネットワークの構築が喫緊の課題
広域模擬訓練の実施

広域模擬訓練

【目的】

公共交通機関の協力を得て、隣接する自治体との合同による広域模擬訓練を実施し、行方不明者に関する情報伝達や搜索活動を迅速に行えるよう連携体制の整備を行う。

【主催】

京都府・京都府警察・木津川市・精華町

【協力団体】

奈良県・奈良市・西日本旅客鉄道（JR）・近畿日本鉄道（近鉄）・奈良交通（バス）



ネットワークの構築に向けて

4回の意見
交換会を行いました。

★スピーディーな情報伝達★

■公共交通機関

近鉄新田辺駅・奈良交通平城営業所・JR管理駅（長尾駅・奈良駅）

➡ SOSネットワークのメール配信やFAXで連携

■通常ルート（京都府の連携要領）での情報提供

木津川市・精華町 ⇒ 山城南保健所 ⇒ 京都府 ⇒ 奈良県 ⇒ 奈良市

■隣接市町村へ直接連絡が実現

木津川市・精華町・奈良市がSOSネットワークのメール配信で連携
木津川市・精華町 ⇒ 奈良市



徘徊役が、精華町のJR祝園
駅からスタート！

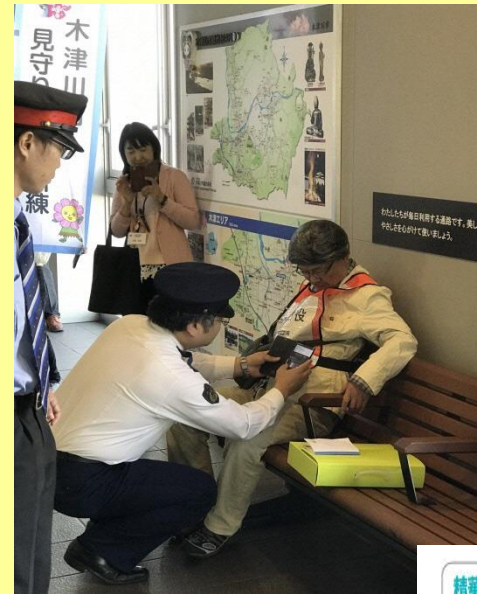
広域模擬訓練の実施①

京都新聞に
掲載！！

◆ JR木津駅 ◆



改札付近にて、駅係員が声かけを行う



精華町 安心 SOS ネットワーク



QRコードシール

駅員と警察の方から声をかけて頂きました

QRコードシールの読み取りを行い、精華町役場
へ発見・保護の連絡を頂きました

広域模擬訓練の実施②

◆ JR木津駅西側ロータリー ◆

ロータリーにて、バスを利用し車内で奈良交通社員による声かけを行う



奈良交通のバスをお借りし、運転手の方から声をかけて頂きました

通報後、警察の方が駆け付け、QRコードシールの読み取りを行いました

情報伝達訓練の結果について

◆通常ルート：府県経由の連絡◆

精華町



山城南保健所



京都府



奈良県



奈良市

【搜索依頼】

精華町

(13 : 32)



奈良市

(17 : 56)

【搜索解除】

精華町

(14 : 46)



奈良市

(20 : 25)

◆直接連絡◆

精華町



奈良市

【搜索依頼】

精華町

(13 : 30)



奈良市

(13 : 33)

【搜索解除】

精華町

(14 : 45)



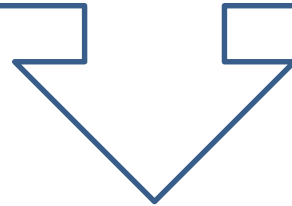
奈良市

(15 : 12)

広域模擬訓練の成果について①

★ 情報連携のあり方について ★

京都府の連携要領ルートでは、隣接する奈良市へ情報が届くまでに4時間以上かかっていることから、連携要領における課題や隣接自治体と情報連携体制を築くことの重要性を改めて認識できた。



近鉄新田辺駅、奈良交通、奈良市に木津川市・精華町のSOSネットワークに登録いただけただけで、市町村域を超えたネットワークの構築ができた。

広域模擬訓練の成果について②

★ 関係機関の相互理解 ★

■ 近畿日本鉄道

行方不明者が鉄道を利用した可能性がある場合、全ての駅に情報を一斉配信。

■ 奈良交通

認知症等の疑いのある乗客がいた場合、営業所のある終点までお連れし、営業所の応援要請により、警察への引き渡し等を行う。

■ JR管理駅（長尾駅・奈良駅）

FAXで依頼があれば、管轄駅に情報提供を行う。

■ 行政

SOSネットワークの取組み（メール配信・QRコードシール）を知ってもらえた。

JR木津駅（京都府木津川市）

行政機関の関連部署と情報共有するとともに、定期的な情報伝達訓練を行いたい。
今後も同様の訓練があれば、参加させていただきたい。

JR祝園駅（京都府精華町）

行政・警察・交通機関がネットワークで情報を共有することができ、連携がしやすくなったと感じた。

奈良交通（奈良県奈良市）

検索依頼のメールに氏名、特徴、QRコード等についての記載があり、スムーズな対応が可能であった。

訓練実施後のアンケートより

近鉄新田辺駅（京都府京田辺市）

お客様の様子をお伺いして、認知症であるか判断に迷うことがあるため、警察へ速やかに連絡している。

（京都府警察）

通常ルートでは情報伝達に時間がかかることから、自治体同士でSOSネットワークに加入するなど、迅速に情報共有できる仕組みをつくる必要がある。



今後力を入れた点について

★ 京都府 ・ 保健所 ★

- 京都府あんしんサポート企業の拡充等による市町村支援
- 広域模擬訓練の拡充を目指し、最終的に府内全域で取組む
- 近隣府県や公共交通機関との会議等を通じて、平常時から継続的広域的なネットワークの拡充、強化の取組みの実施
- 会議、広域模擬訓練を継続的に行い、評価するとともに、この地域で必要な関係機関や応援企業・事業所等の拡大を図るなど市町村間の広域的調整を図る等の支援を行う

府県の
役割

保健所の役割

★ 市町村 ★

- 未然防止の強化、地域の見守り強化
- 搜索上の課題として、搜索エリアの把握の効率化
- 隣接市町村との連携（SOSネットワークの相互加入）

市町村の役割

地域全体の役割

地域住民への啓発、地域の認知症に関する理解の醸成



平成30年3月5日

「認知症の人の行方不明や事故等の
未然防止のための見守り体制構築に
関する調査研究事業」報告会

兵庫県における 認知症の人の見守り体制構築に 向けた市町支援の取組み



兵庫県マスコット
はばタン

認知症サポーター
キャラバン
ロバ隊長

兵庫県健康福祉部
少子高齢局
高齢対策課
認知症対策班



【兵庫県概要】

人口 5,514,731人
※市町別:約153万人~1万1千人

高齢化率:27.5% (H29年2月現在)
※市町別:21.9~39.3%

面積 8,396.47km²

市町数 41市町
(うち、政令市1 中核市3)

地域包括支援センター 205
(直営23 委託182)

県健康福祉事務所数 13
(保健所)

認知症疾患医療センター14
(県指定9 政令市(神戸市)指定5) ★

ひょうご若年性認知症支援センター 1 ※H30年4月~名称変更
若年性認知症支援コーディネーター 3名

政令市も含めて
兵庫県の認知症施策を考える



地域の違いが大きい

高齢化、過疎化が進み、社会資源が少ない地域

高齢化率が低い

医療や介護等の社会資源が多い地域

認知症施策の推進は、基本的なことは同じ

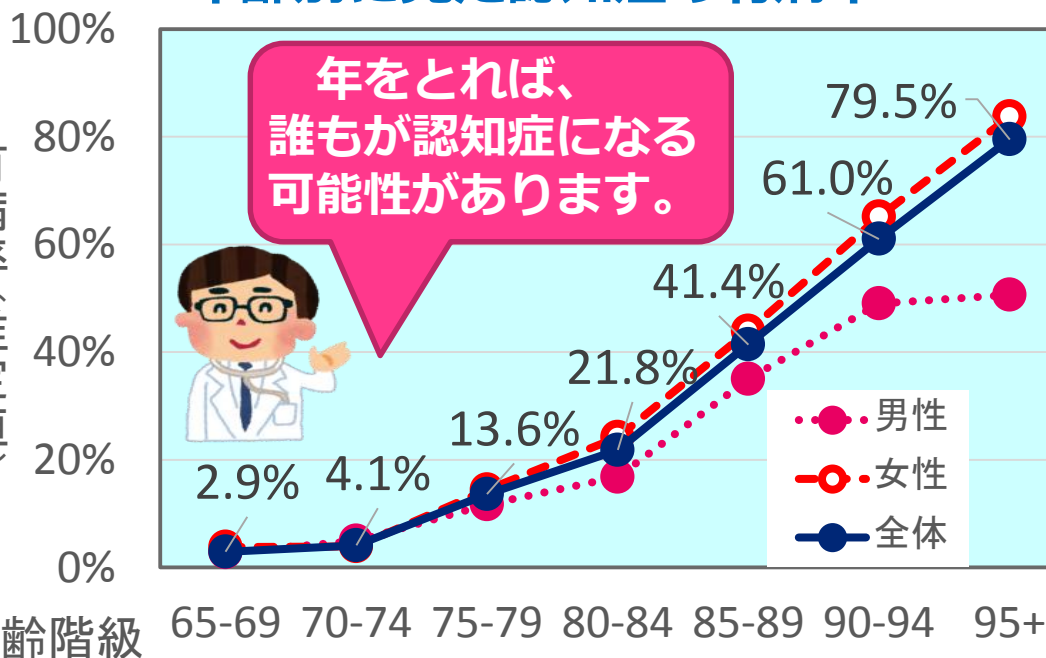
兵庫県の認知症高齢者の推移

平成27年
認知症の人 **約23万人**※
(65歳以上高齢者の15.7%~16.0%程度)
※ H29年2月1日人口で推計

平成37年
認知症の人 **約30~33万人**
(65歳以上高齢者の19.0~20.6%程度)
日本の地域別将来推計人口を用いて推計

認知症は、誰にでも起こりうる病気・関わりのある病気

年齢別に見た認知症の有病率



生活習慣の改善等による認知症の発症時期を遅らせる
※認知症になっても進行を遅らせるためにできることがある

認知症の初期段階で
“気づき・対応・準備”する

認知症になっても
安心な地域をつくる

取組みの1つ

認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの構築

(出典)厚生労働科学研究「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応(2013)」

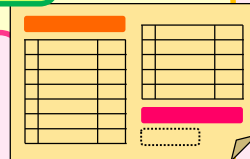
<認知症施策の全体イメージ>

認知症予防の推進

早期発見・早期対応の仕組み

認知症対応医療機関
による医療連携

認知症チェックシート等
による早期の気づき



かかりつけ医 又は
認知症相談医
療機関

受診

県民

支援



身近な
医療機関

初期支援
(受診勧奨)

相談

利用
支援

紹介

逆紹介

連携

認知症
初期集中
支援チーム

連携

認知症相談
センター

認知症地域
支援推進員

専門医療機関
(認知症疾患医療
センターなど)

助言

認知症
サポート医

地域で支える 体制づくり



介護施設

介護・生活支援
サービス



認知症
カフェなど

認知症
サポーター

ネットワー
クづくり



認知症高齢者等の
見守り・SOSネットワーク

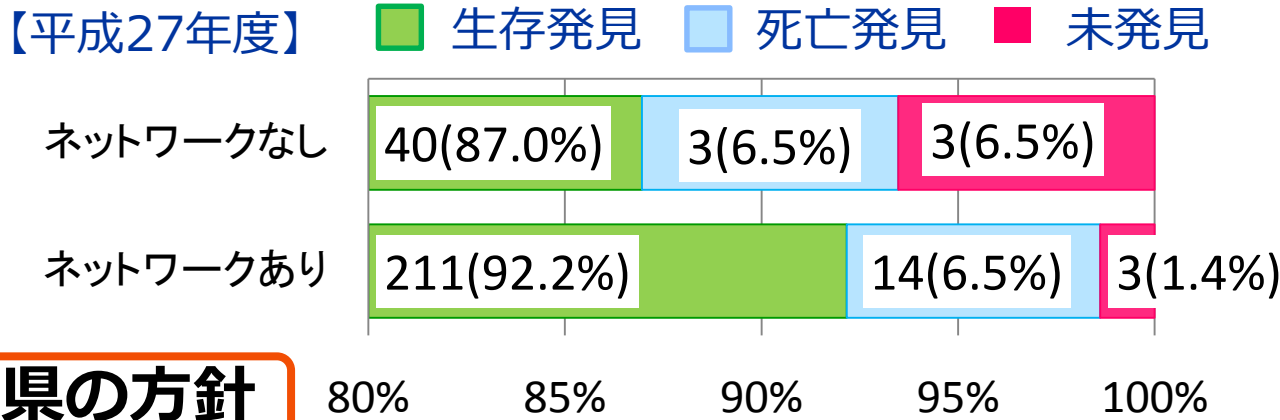
認知症ケアネット(国：認知症ケアパス) … 状態に応じた切れ目のない支援

※ 若年性認知症を含む認知症施策の推進

■ 認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築

市町に報告のあった行方不明者発見状況

ネットワーク構築市町では、生存発見率が高い



- ①登録による見守りを行うことでの行方不明の未然防止
- ②行方不明時の早期の届けにつながる

県高齢対策課、県生活支援課、県警察本部の3者で手引きを作成

県の方針

全ての市町で ネットワーク構築が必要

認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築の手引き

- 認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークとは
- 見守り、行方不明時、警察の対応など：フロー図
- 行方不明時の広域連携 (実施要綱、様式、フロー図)
- P35～参考資料として、市町の実施要綱案、ちらしを添付

認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築の手引き

～ 地域での見守りと行方不明時の早期発見に向けて ～



この手引きは、認知症高齢者等を地域で見守る事前登録による見守りネットワークに加え、行方不明時の早期発見に向けたネットワークの周知のネットワーク（認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク）構築の参考としていただくために作成しました。認知症の人が安心して外出ができるよう、全市町において、認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークが構築されることを目指しています。

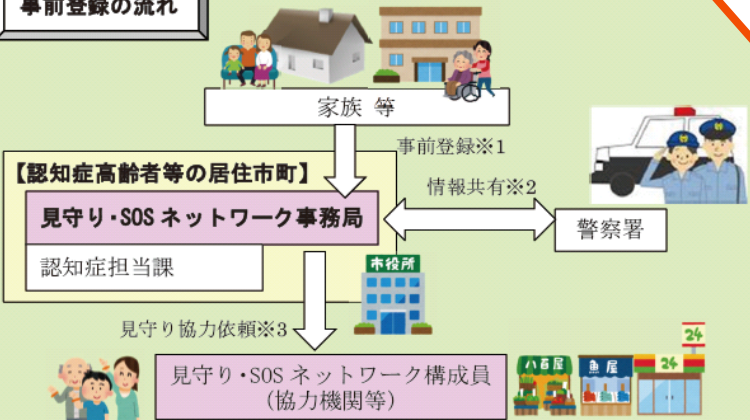
平成28年1月

兵庫県健康福祉部 高齢社会局高齢対策課
兵庫県健康福祉部 社会福祉局生活支援課
兵庫県警察本部生活安全部 生活安全企画課



認知症高齢者の見守り・ネットワークの流れ【手引きより】

事前登録の流れ



※1 行方不明が心配な場合、見守り・SOS ネットワーク事務局等に事前登録を行う。

【事前登録内容】

氏名(旧姓)、生年月日、住所、身体的特徴(身長、体重、足のサイズ、ほくろの位置等)、最近の顔写真、外出コース、よく行く場所、緊急連絡先 等

※2 警察と行政が協議した上で、事前登録の情報を警察と見守り・SOS ネットワーク事務局で共有することで、迅速に行方不明者発見活動が開始できる。

※3 ケース会議等で、事前登録者1人1人の見守り体制を検討し、必要に応じてネットワーク構成員等に協力を求め、地域で見守りを行うことで、行方不明の未然防止につながるだけでなく、安心して暮らせる環境づくりにもつながる。

【工夫点】

- できるだけわかりやすくする【イラストやフロー図を作成し掲載】
- 読みやすくする【ページ数を少なく簡潔に】

先進市町からのアドバイス

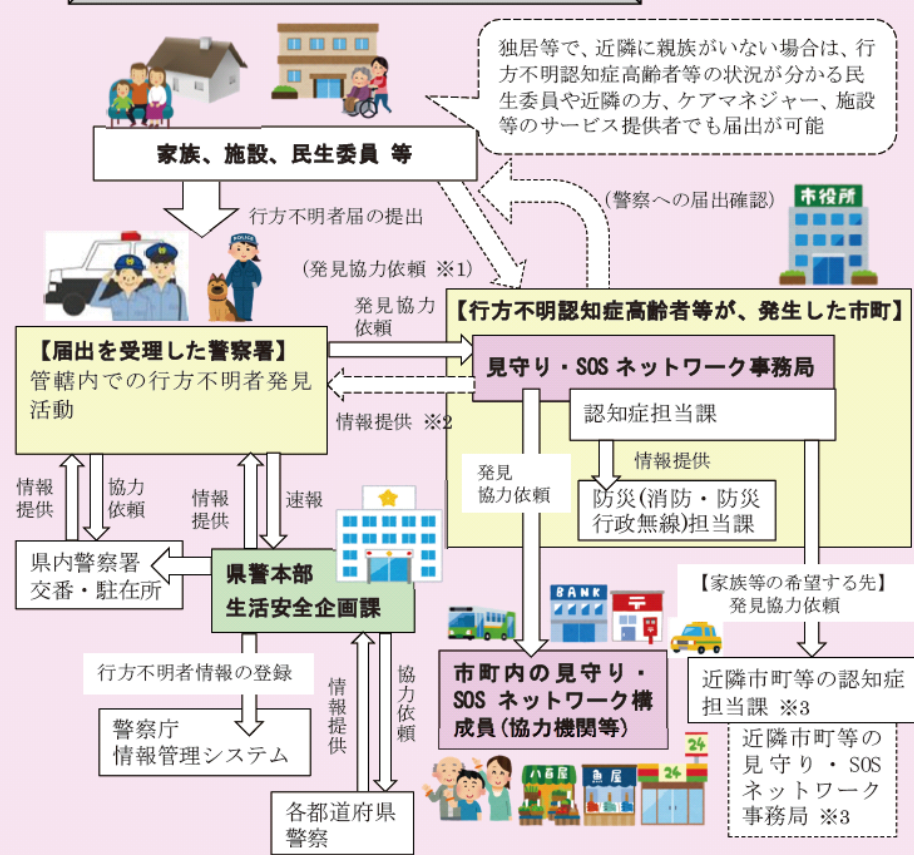
- ・事前登録者1人1人の見守り体制を検討することで、地域の見守り力が上がった
- ・事前登録者には個別の地域ケア会議を開催し個別のネットワークを構築することが大切

本人と地域の人のつながりを把握し、よく行くお店、散歩コースのガソリンスタンド、お寺などの本人を中心とした地域の人々に本人・家族とともに協力を求める。(例)あいさつをするなど声をかけてもらう。金の支払いに困っている時の対応や気になる変化がある場合の連絡等

【工夫点】

- 手引きは、**県のホームページに掲載**
- 市町には、**加工して使えるようワードデータを提供**

行方不明の認知症高齢者等の発生:所在不明発覚時



※1 家族等から行方不明者届の提出(依頼)は、原則警察に窓口を一化することで、行政の負担を軽減する。ただし、警察と行政が協議した上で、行政等から行う場合

参考資料：市町の実施要綱案、様式【手引きより】

実施要綱案

〇〇市町における認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワーク事業実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、行方不明になるおそれのある認知症高齢者等（以下「認知症高齢者等」という。）の日頃の見守り体制及び所在が不明となった場合に、地域の支援を得て早期に発見できるよう関係機関の協力連携体制を構築することにより、高齢者の安全の確保及び家族等への支援を図ることを目的とする。

(実施機関等)

第2条 〇〇市町認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワーク事業（以下「事業」という。）

の実施機関は、〇〇

- 2 事業の関係機関は、会・自治会、民生委員社事務所等とする。

- 3 事業の協力機関は、を理解し協力（登録）

(事業の内容)

第3条 事業の内容は、

(1) 実施機関 関係

〇〇市町における

認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワークの事前登録について

〇〇市町では、高齢者が認知症等により行方不明の可能性がある場合に、事前登録を行い、地域で見守りを行うとともに、行方不明となられた際の早期発見・保護を目的として、行方不明者情報の配信を行い、発見協力の要請を行う、「認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワーク」を構築しています。

事前登録をすることで、日頃からの見守り（行方不明の未然防止）と行方不明になられた際に関係者で情報を共有し、早期発見につなげるためのシートです。

なお、申請にあたりご記入いただいた情報は、日頃の見守りと行方不明になられた方の早期発見と保護の目的のため利用し、それ以外では利用しません。

また、登録を終了される場合は、〇〇市町〇〇担当課(☎)へ申し出てください。

【工夫点】

先進事例を参考に、市町がそのまま使うことができるひな形を作成し、参考資料として添付

- 実施要綱(案)
- 様式(案)
- ちらし(案)

事前登録申請書案

事前登録情報

【利用者情報】

平成 年 月 日現在

氏名	(ふりがな) 氏名:	性別	男・女
生年月日	明治・大正・昭和 年 月 日 ()		
住所			
身体的特徴等 ※記入できる範囲で記載ください。 ※該当する項目に○を記入ください。	身長	cm	
	体重	kg	
	体型	肥・小肥・中肉・痩せ	
	面型	△・▽・○・□・◇	
	顔色	白・青白・普通・浅黒・赤	
	眼鏡		
	頭髪		
血液型	A・B・AB・O・不明		
足のサイズ	履物:	cm	
顕著な痕跡			
散歩のルート、よく行く店、場所等			
上記以外で、立ち寄る可能性があるところ			
行方不明の有無	【行方不明になったこと】あり		
発見された場所(時期)	【発見場所】 (年		
認知症の状況	【程度】 疑い・軽度認知症・中度認知症 【名前を】 言える・言えない		

【利用サービス等の情報】

要介護度	要支援1・2、要
病名	
担当ケアマネ	事業所名: 連絡先:
利用サービス	

【家族・緊急連絡先】

氏名		続柄	
住所		住所	
☎ 自宅・携帯:		☎ 自宅・携帯:	
勤務先:		勤務先:	

【工夫点】

- 県警と相談し必要な情報を入れた
- の部分に行方不明時の状況を加えることで、速やかに発見協力依頼ができる
- 広域発見協力依頼も活用できる

【写真】

別途添付可

撮影時期: 年 月 頃

写真(直近のもの)【顔写真】

※無帽、正面で顔がよくわかるもの(おおむね胸から上)
※画像に傷・汚れがなく鮮明で個人識別ができるもの

撮影時期: 年 月 頃

写真(直近のもの)【全身写真】

※無帽、正面で全身が写っているもの。
※画像に傷・汚れがなく鮮明で個人識別ができるもの

行方不明時の発見協力依頼先 ※登録時の希望依頼先

すぐに近隣市町等へ発見協力依頼する場合の依頼先	他市町名: 他都道府県名:
上記、依頼しても発見しない場合の広域発見協力依頼先	他都道府県名:

【情報提供意志確認】

私・家族等は、下記の項目について同意します。

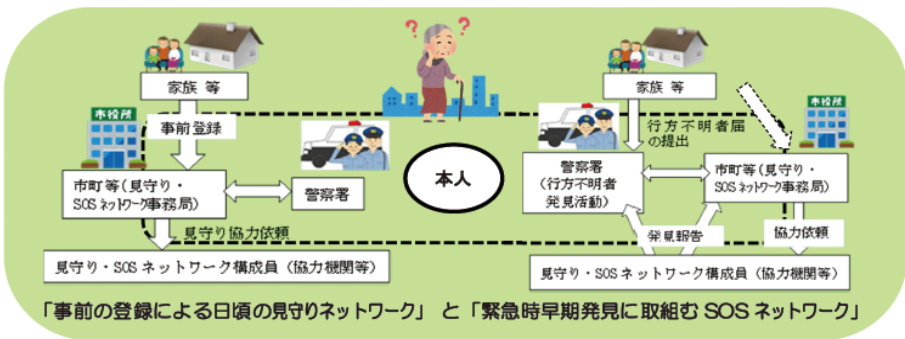
- 事前登録情報(利用者情報、利用サービス等情報、家族・緊急連絡先)を警察、〇〇市町〇〇課、認知症等見守り・SOS ネットワーク事務局(〇〇〇)で情報共有することに同意します。
- 日頃の地域での見守りを行うために、利用者情報を〇〇地域包括支援センター等関係

～認知症になっても安心して暮らせるために～

〇〇市町認知症高齢者等の 見守り・SOS ネットワークについて

◆〇〇市町認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワークとは？

〇〇市町では、認知症等の病気により迷ってしまうなど、行方不明になる可能性のある方などを、関係機関や地域ネットワーク協力機関、そして住民の皆様と連携し、日頃から地域で見守り（安心して暮らせ、行方不明の未然防止につながる）を行い、行方不明になった場合に、速やかに発見活動を開始する支援のネットワークを展開しています。



「事前の登録による日頃の見守りネットワーク」と「緊急時早期発見に取組むSOSネットワーク」

事前登録制度をご利用下さい。



◇事前登録制度とは？

認知症などの病気により行方不明になる恐れのある方が、事前に本人の身体的特徴や連絡先、写真などを登録しておく制度です。

【事前登録にメリット】 ～ご本人・ご家族の方の安心につながります。～

- ①一人一人の状況に応じて見守り体制を検討し、地域での見守りを行います。
※ ご本人が、その人らしく地域で暮らすことができる地域づくりにつながります。
- ②行方不明になった場合は、依頼を受けて各関係機関や地域の協力者に情報を発信し、発見活動をします。（登録があっても、自動的に行方不明時の発見活動をするものではありません）

行方不明になって急に、ご本人の直近の写真（個人が識別できる鮮明な写真）、身長・体重・靴のサイズ等の身体的特徴など捜索に必要な情報を準備（わからない）できないことがあります。事前登録をしておくとその情報を元にスムーズな警察の捜索や地域の発見活動が行えます。

◇事前登録制度を詳しく知りたい、申し込みたい場合は？

〇〇市町 △△課 TEL () へお問い合わせ下さい。

※ SOS・見守りネットワーク協力機関も募集しています。上記窓口にご相談ください。

いざというとき、あわてないために

- 認知症高齢者の行方不明は、「まだ大丈夫」と思っているつもりでも予想もつかないときにも起こります。（買い物に行ったが、帰りの道がわからなくなった等）
- 行方不明になった本人は、混乱や動揺で、普段答えられることも答えられなくなったりします。また、道に迷っても自分から人に道を聞いたり、助けを求めたりすることもできないこともあります。

ひとりで悩まず、
早めに相談を！
〇〇市町△△課
☎

<日頃からのそなえ>

～認知症という病気を抱えたら～

- 1、日頃から、近所の人やよく行くお店の人などに、①いつもと違うと感じたときは、連絡が欲しいこと、②「これからどこに行くの？」など声をかけてもらえるように、ちょっとした手助けをお願いしておきましょう。



事前登録制度を利用してください。

事前登録することで、一人一人の状況に応じた地域での見守り体制を検討してもらえるなど、ご本人・ご家族の安心につながります。また、行方不明になった場合、スムーズに発見協力を依頼することができます。（〇〇市町△△課 ☎）

- 2、年1回以上は写真を取るようにしましょう。（顔写真と全身が写っている写真）
※ 行方不明時の捜索には、直近の写真が必要です。準備をしておきましょう。
- 3、名前、住所、連絡先などを本人が常に携帯するよう工夫しましょう。

着衣への名前の記載	・普段、よく着る服の襟の裏などに、さりげなく名前、住所等を書いたり、アイロンプリントを活用して貼っておく
靴用ネームシール	・名前を書いたシールを靴のかかとや側面(内側)に貼っておく
反射テープ	・反射テープに名前を書き靴のかかとに貼っておく。 ※ 夕暮れや夜間の交通事故防止にも役立ちます

- 4、日々の金銭管理、財産管理に不安を感じたら、「福祉サービス利用援助事業」、「成年後見制度」を利用する方法もあります。（相談先：〇〇市町△△課 ☎）

<いざという時は>

～行方がわからなくなったら～

ためらわずに、早めに警察署に相談しましょう！

（1時間以内）

相談窓口：〇〇警察署（☎）



～警察へ早急に行方不明者届を出す意味～

- ・日中行方不明になったことがわかり、自力で探して見つからず夕方になってから警察署に届けることが多いですが、時間がたてばたつほど捜索範囲を広げなくし場ならず、発見が困難になります。できるだけ早く（1時間以内）警察に相談してください。
- ・警察犬を導入して捜索をする場合、早めに捜索を開始することで、捜査範囲も広域にならず、臭いの拡散も少なくなり、効果をあげることができます。

■ 認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築

県として定義を明確化

安心して外出できる環境づくり、行方不明の未然防止が重要



- ① **登録による**、地域での日常的な**見守りネットワーク**
(安心して暮らせる環境づくりと、行方不明の未然防止)

➤ **登録した個人を見守るネットワーク**

- ① **事前登録**
- ② 本人と地域のつながりを把握
- ③ 1人1人の地域の見守り体制を検討
- ④ よく行く場所(買い物をするお店等) 近所の人などに見守りや声かけ、異変を感じた場合の連絡を依頼

迅速な
発見協力
依頼が
可能

みんな顔見知りで見守れているし、声をかけたら探すから**「事前登録」や「発見協力」するネットワークは必要ないという市町もある**

- ・ 新たな**転入者**は、大丈夫？
- ・ 他市町や他都道府県に**旅行中**に行方不明になった場合は？
- ・ **旅行に来て**行方不明になったら？

★ **全国の市町でネットワーク構築が必要!**

- ② **行方不明時**に地域で**発見協力活動**をする**SOSネットワーク**

➤ **発見協力するSOSネットワーク**

見守り・SOS協力事業所等を募り、登録

※行方不明時の発見協力活動に加え、日々の活動で気になる人がいれば連絡を依頼

市町域
見守り・SOSネットワーク

Aさんを見守る
ネットワーク

Bさん

Cさん

Dさん

Eさん

■ 認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築

県の方針

★ 行政として「徘徊」の文字を使わない !!

徘徊とは、目的もなくうろうろと歩き回ることであり、ほとんどの人が、目的を持って外出している中の行方不明

当事者・家族からの要望

「認知症」＝「徘徊」と言った誤ったイメージを発信しないで欲しい

※徘徊⇒徘徊させない⇒外出させない(閉じ込める)につながる可能性がある

【当事者の声】 私たちが、行きたいところに安心して出かけ、無事に戻れるためのものにして欲しい！！



県において研修を実施

- H27年度：先進地域の実践報告、手引き素案への意見聴取
※ 県警、県高齢対策課、県生活支援課をともに研修を企画
- H28年度：県警・県高齢対策課から県内の状況報告、実践報告
- H29年度： 〃 、認知症行方不明を防ぐ取組み(実践報告)

H30年度
実効性のある
ネットワークを
推進するための
研修予定

伝達＋声かけ模擬訓練を実施し、ネットワーク稼働の検証を !!

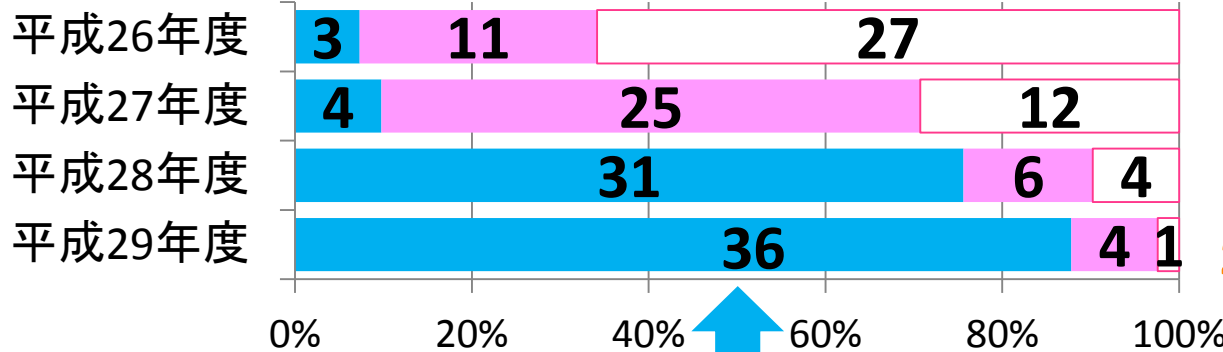
市町の取組み状況

【目標】平成29年度：全市町

※ H29年 9月現在

認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの取組み

■ 構築済み ■ 構築に向けて取組中 □ 未取組



模擬訓練実施市町数

7市町
12市町
17市町
22市町

H27年度：研修を通じて市町の意見を聞きながら手引きを作成したことで、取組み市町が増加

ホームページ掲載：26市町 今年度中掲載：8市町
時期未定：2町

29年度中構築予定：3市

認知症の人が安心して外出できるよう、取組みを推進

■ 各市町のHPに掲載（県HPにリンク）

県HP <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/mimamorisosnet.html>



作成を促すとともに、作成後は、市町のホームページへの掲載を依頼し、県ホームページとリンク

市町の作成状況がわかるよう県ホームページを工夫

【県内各市町の認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築に関する窓口一覧】 H29.9月現在

地域	市町名	担当課・係名	連絡先	市町ホームページリンク
神戸	神戸市	介護保険課在宅支援係	078-322-5259	☆(外部サイトへリンク)
	尼崎市	包括支援担当課	06-6489-6356	☆(外部サイトへリンク)
	西宮市	地域共生推進課・地域福祉推進チーム	0798-35-3079	☆(外部サイトへリンク)

行方不明者・身元不明者の保護及び対応状況調査を実施

H26年度～)

問1 市町に報告のあった行方不明認知症者(疑い含む)の状況

	H27年度以前 発生分	H28年度発生 分	単位(人) (再掲) 左記のうち県外 で発見された 方
① 貴市町で行方不明認知症者が発生したと報告のあった者の数	/		
② 発見された行方不明認知症者数			
③ 発見時生存者数			
④ 発見時死亡者数			
⑤ 未だ(H29.5.31現在)発見できない行方不明認知症者数			

毎年、5月に市町に調査をすることで管内の実態を把握

市町・県(高齢対策課、生活支援課)・県警で**情報を共有**

問2 貴市・県健康福祉事務所で保護した身元不明者の状況(生活保護受給者)

	H27年度以前 保護開始分 ※(認知症者再掲)	H28年度保護 開始分 ※(認知症者 再掲)
① 保護開始時点で身元不明だった者の数	/	()
② 身元判明者数		()
③ 県内居住者数		()
④ 県外居住者数		()
⑤ 未だ(H29.5.31現在)身元が判明していない身元不明者数	()	()

行方不明者の中には、過去に行方不明の経験がある人がいる。

警察で保護後、身元引受人に引き継ぐだけでなく、**地域の支援につなげる**ことで、行方不明の未然防止や安心して暮らせる取組みにつながるのではないか



兵庫県警察による「**認知症に係る支援対象者情報提供制度**」を開始

(平成29年11月1日～)

認知症に係る支援対象者情報提供制度：兵庫県警察

行方不明等により警察が保護した事案で、地域での支援が必要な方の情報を（同意を得て）市町に連絡する制度

兵庫県警察から県高齢対策課や神戸市に相談あり
⇒様式などを検討

〔工夫点〕 希望する支援の内容を自由記載ではなく、☑形式にした

- ・ 支援内容を具体的に明記することで、同意をとるための説明がしやすい
- ・ 情報提供を受理した市町が、希望する支援内容がわかり支援がスムーズ

希望する 認知症高齢者等支援の内容等	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークへの登録
	<input type="checkbox"/> 認知機能を維持するための生活指導・相談
	<input type="checkbox"/> 家庭での今後の対応相談
	<input type="checkbox"/> 介護保険サービスの利用相談
	<input type="checkbox"/> 契約や金銭管理などの支援
	<input type="checkbox"/> GPS端末の貸与
	<input type="checkbox"/> その他（
	<input type="checkbox"/> 認知症の介護方法等の相談
	<input type="checkbox"/> 医療機関への受診支援
	<input type="checkbox"/> 認知症の本人・家族の会の紹介
<input type="checkbox"/> 給食サービス	



市役所



平成29年11月～平成30年1月の3か月の運用状況を把握

⇒ 成果及び課題を共有し、更なる取組みの推進を図る



＜県警察＞

県内の警察署の状況把握



＜県高齢対策課＞

県内の市町の状況把握

地域の認知症対応力の向上を推進



■ 店舗等の認知症対応力向上推進事業 (H28年度～)

認知症サポーター養成講座を受講した従業員等を店舗や窓口等に配置し、認知症への理解と対応に努める企業等を支援

<申請要件：①～③必須>

- ①認知症サポーターの計画的な養成とフォローアップ
- ②認知症サポーターを店舗や窓口等に配置していることを明示
- ③従業員等が認知症サポーターであることを明示

ひょうご認知症サポート店
(事業所等)を募集!

企業・事業所等から認知症サポーター養成講座を依頼された際に、申請を案内

<市町と連携しながら推進>

【当事者・家族の声】

- 認知症サポーター養成講座受講者が増えていると言うが、生活していてオレンジリングを見ない
- 生活に必要な業種の職員は、認知症を理解して対応して欲しい

<ステッカー>
B7・B5サイズ



<オレンジリング>



<シール・ピンバッジ>

認知症になっても
安心して暮らせるまちを
みんなで目指しています



兵庫県
認知症の人に優しいお店・企業等です。

県の支援

【工夫点】

- 申請して終わりにしない【毎年実績報告：養成状況など】
- 活動の活性化を図る【啓発レターを作成・配布】

①【無料配布】

- ・ステッカー、シール、ピンバッジ（必要数を配布）
- ・企業等が配置する認知症サポーターのためのハンドブック（認知症サポーター1人に1冊）



②【取組み企業を公表】

※H30年2月13日現在：108カ所

③【取組みを県ホームページで公表】

実績報告で活動を把握し掲載

■ 県ホームページ

<http://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/nintisyouuniyasasiikigyoun.html>



【ハンドブックの内容】

- ・認知症の人が体験している世界
- ・認知症の人への接し方
- ・※業種別の対応例
- ・相談窓口 等

3 認知症の人への接し方

(1) 認知症の人と接するとき大切なこと

<3原則>

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない



認知症という病気にかかると、判断能力が低下します。急がされたり、同時に複数の質問に答える事が苦手になります。相手の反応を見ながら会話をしましょう。相手の言葉をゆっくり聞き、何をしたいのかを相手の言葉を使って推測・確認しましょう。

- ポイント1 ひとりの人として普通に接する
- ポイント2 自尊心を傷つけない
- ポイント3 余裕を持ってさりげなく自然な笑顔で対応する
- ポイント4 相手の視野に入ったところで声をかける
※ 後ろから声をかけない（唐突な声かけは禁物）
- ポイント5 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する
- ポイント6 不安や不快感を感じていないか、注意をほらう
- ポイント7 ゆっくりとひとつずつ話す

上記以外のコミュニケーションを深めるためのポイント

- ・なじみのある言葉をつかう
- ・本人の思いをよく聴く
- ・本人が好きなことやなじみのあることを話題にする
- ・間違ったことをいっても正面から否定しない

は はっきり
や やさしく
ゆ ゆっくり
み みじかく

「ひょうご認知症サポート店(事業所等)」登録企業等の取組み

名称

但陽信用金庫（加古川市）

営業エリアは、西播・東播・神崎・但馬南部地区の信用金庫です。全店に「ひょうご認知症サポート店」のステッカーを掲示したり、新入職員研修のカリキュラムに「認知症サポーター養成講座」を組み入れ、全職員がオレンジリングをつけて勤務しています。営業エリア5市6町の「認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク」と連携し、認知症の人にやさしい地域づくりに取り組んでいます。

取組



県ホームページ
に掲載中



名称

たつの市城下町周辺店舗（たつの市）

NPO法人播磨オレンジパートナーの呼びかけで、たつの市の城下町周辺にある個人経営の店主らが認知症サポーター養成講座を受講し、ステッカーを、地域住民や観光客の目に触れる店先に貼っています。オレンジリングをエプロンに付けて仕事をしたり、城下町でイベントがある際に認知症の方向けの休憩所を設けたり、店舗ごとの工夫もしています。

取組



名称

イオンモール猪名川（猪名川町）

施設内に出店している店舗全体によびかけ「認知症サポーター養成講座」の継続開催していることに加え、猪名川町の見守り・SOSネットワークにも協力し、平成29年9月には「行方不明者発見・捜索訓練」を開催しました。これからも、認知症の人と家族の方に安心して頂ける施設として取組みを続けていきたいと思っております。

取組



主催：イオンモール猪名川
共催：猪名川キャラバン・メイト

認知症サポート 養成講座（スタッフアップ編）

認知症行方不明者発見・捜索訓練

「オレンジの囀！ついで笑顔の猪名川町」

～認知症を正しく理解し、
温かく優しいまぐづくりをしましょう！

取組みの輪が広がっています。



兵庫県ホームページ

「認知症施策の総合的な推進について」

<http://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/nintisyou.html>



「認知症の人とその家族に届く」をキーワードに推進しています。

➤ 市町の状況を把握し、必要な支援をコツコツと！

地域の人たちや交通機関と模擬訓練や工夫を重ね、見守り・SOSネットワークで外出を続けられる地域に！



京都市岩倉地域包括支援センター 松本 恵生
叡山電鉄株式会社 鉄道部 運輸課 小磯 正彦

	京都市	左京区	岩倉圏域
人口	1,419,368人	168,269人	28,690人
65歳以上	386,037人	43,899人	6,362人
高齢化率	27.2%		
包括数	61	7	1



私たち(岩倉)が目指すもの

行方不明

- 圏域単位 SOSネットワーク
- 行方不明を防ぐ訓練 <2種>
 - ① 声かけ・普及啓発に主眼
 - ② 捜索・情報伝達に主眼

京都市

都道府
県・全国

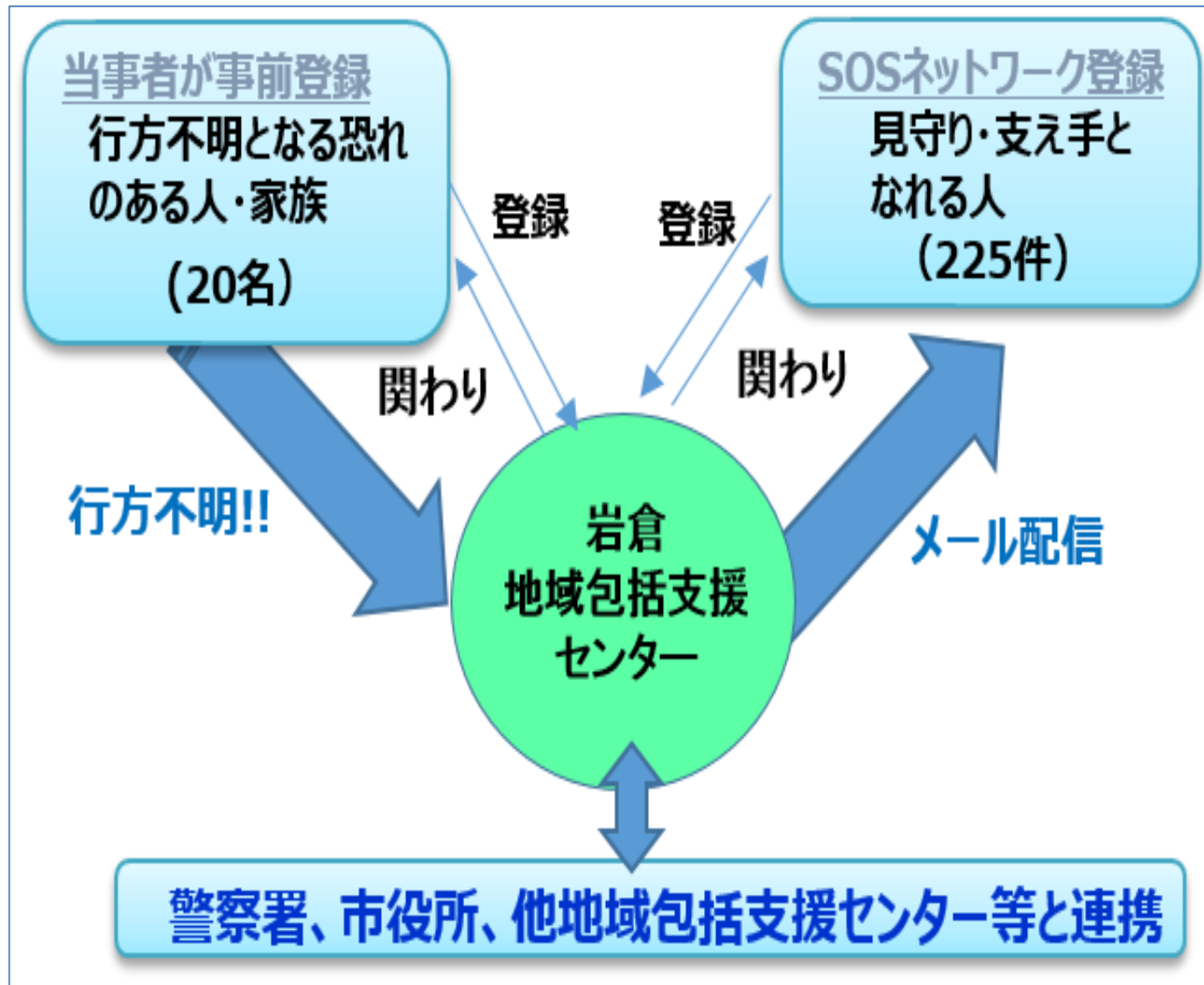
左京区

圏域

- 区単位 SOSネットワーク
- 交通機関との訓練

【SOS時に備えたネットワーク作り】

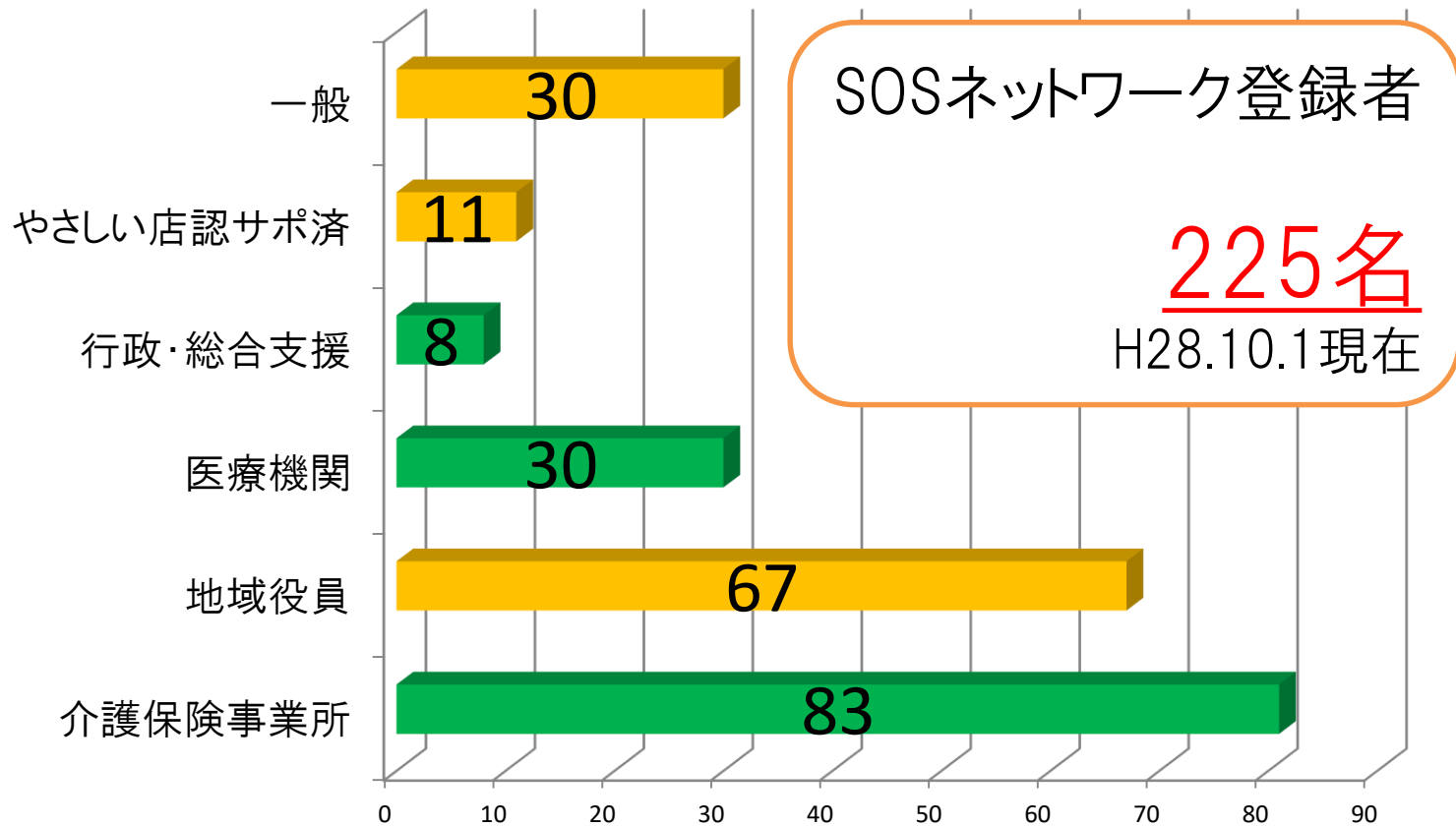
H28.10.1現在



圏域単位 SOSネットワーク

- H23年からスタート
- 事前登録・いなくなった時にメールで捜索協力

事前登録
20名



声かけ・認知症普及を目的とした訓練

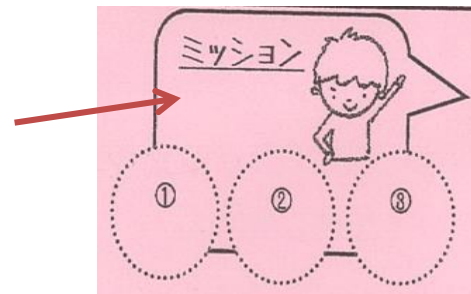


たいいくかん

めざせ!! くつきぼう 空気砲マスター!	アシブミマッチ!	おりがみで あそぼう!	工作: ふっせん人形 あそびどろりどろり	パンシルバルーン あそびどろりどろり
お父さんと あそぼう!	ミッション			認知症高齢者 声かけ訓練
わかし あそび	にがえコーナー ☆あいてはしい人は あそびます。	「キソビ/キの匂い袋」 あそび	乳幼児コーナー ☆あそびます!	ミーティング ルーム あそび マッサージ コーナー

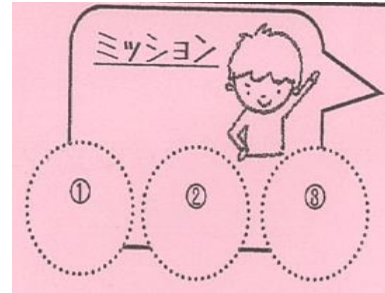
ラリーカード

声かけできたらシールを貼ります



ミッションクリアー!!

素敵な?プレゼントがもらえました。
おもしろ消しゴム





声かけ訓練開始(120分)!!

ポイント3カ所

①体育館

②屋外に2カ所

高齢者役をして頂いた地域の消防団の方。

高齢者役をして頂いたPTAのおとーさん方。



←

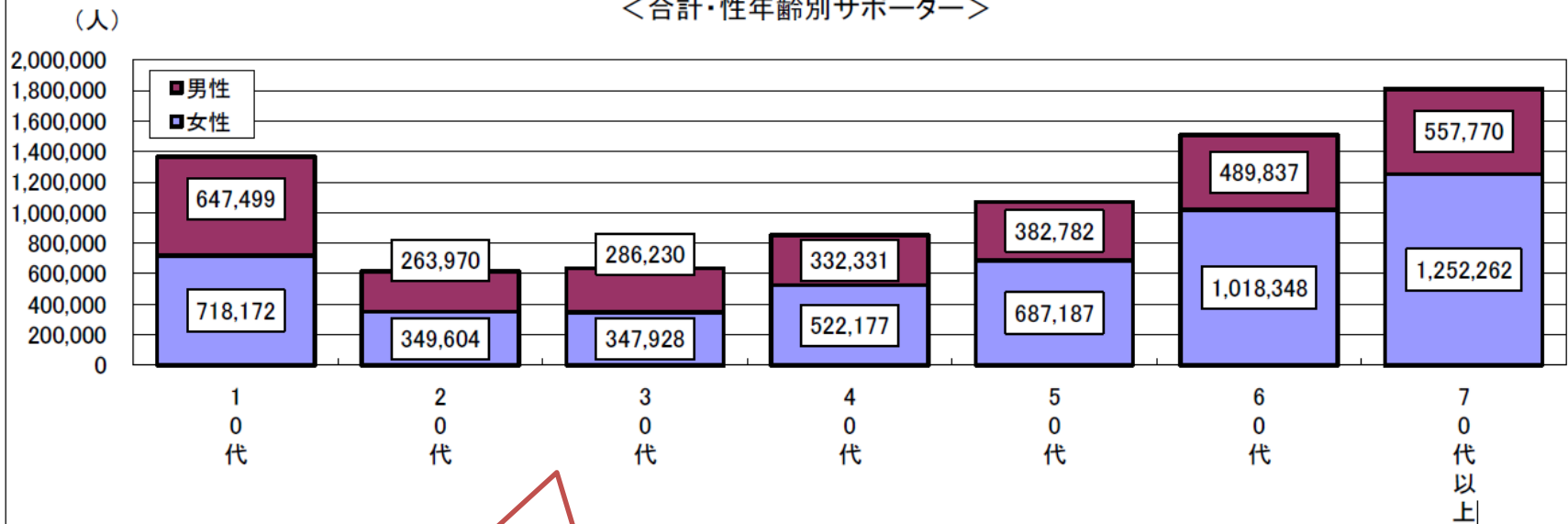
ほぼ、途切れることなくちびっ子たちが声かけにトライしてくれました。

- 明德児童館まつり総来所者数 582名

〈子供338名+パパ・ママ世代244名〉

- 声かけ訓練 次世代 150名
- パパ・ママ世代へのサポーター講座受講の呼びかけ
& 声かけ訓練 115名

<合計・性年齢別サポーター>



【H28.9.30現在の全国の認知症サポーター数より】

今回の訓練のターゲットは、子供たち&その若い
パパ・ママ世代!!

もっとも、認知症のことを届けにくい世代に認知症のこと、見守れる地域に向けたメッセージをとどめます。

行方不明者を防ぐ訓練② H23～毎年実施

別記第2号様式①

発信日：平成 28年 3月 10日

行方不明高齢者発見協力依頼書

(発信先) SOS ネットワーク登録者各位

(発信元) 高齢サポート・岩倉

次の方が行方不明であるため、発見に御協力いただけますようお願いいたします。
 なお、当該情報については、別記第2号様式②別表に示す団体等への提供が可能である旨、御家族等の同意を得ております。

(行方不明者の情報)

より 氏名	あんま ひでお 安馬 英男				
性別	男	女	年齢		75歳
行方不明となった日時 (最後)に所在が確認された日時	平成 28年 3月 10日 AM : PM 1時 15分頃				
行方不明となった場所 (最後)に所在が確認された場所	岩倉長谷町の自宅(石倉公園近く)				
身長	171 cmくらい	体重	75kgくらい		
体型	肥・ <input checked="" type="checkbox"/> 小肥・中肉・やせ・*がっしりした体型				
めがね	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無(レンズ: 緑:)				
頭髪	長髪・短髪・その他() (色: グレー)				
上 衣	オーバー・コート等	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無(色: ベージュ)	ズボン	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無(色: 黒色)	
	セーター・ブラウス等	有・無(色:)	スカート	有・無(色:)	
	シャツ(半袖・長袖)	有・無(色:)	下 衣	その他()	
	その他()				
	<input checked="" type="checkbox"/> 長靴・スリッパ・サンダル(色: 不明)	所持品	帽子 <input checked="" type="checkbox"/> 有・無(色: カーキ色)		



岩倉 SOS ネットワーク

検索担当エリア確認票(平成 28・29 年度)

機関名: いわくら病院

検索チーム名(事業所名等)	検索チーム 最大協力人数	代表者氏名 情報受信メールアドレス・電話番号
いわくら病院	約 5 人	氏名: 矢田部 信行 メールアドレス : iwakura-hp@toumonkai.net 電話番号:075-711-2171
検索担当エリア		
----- 明1 明2		
検索担当学区		
----- 岩倉明徳		

《 検索手順 》

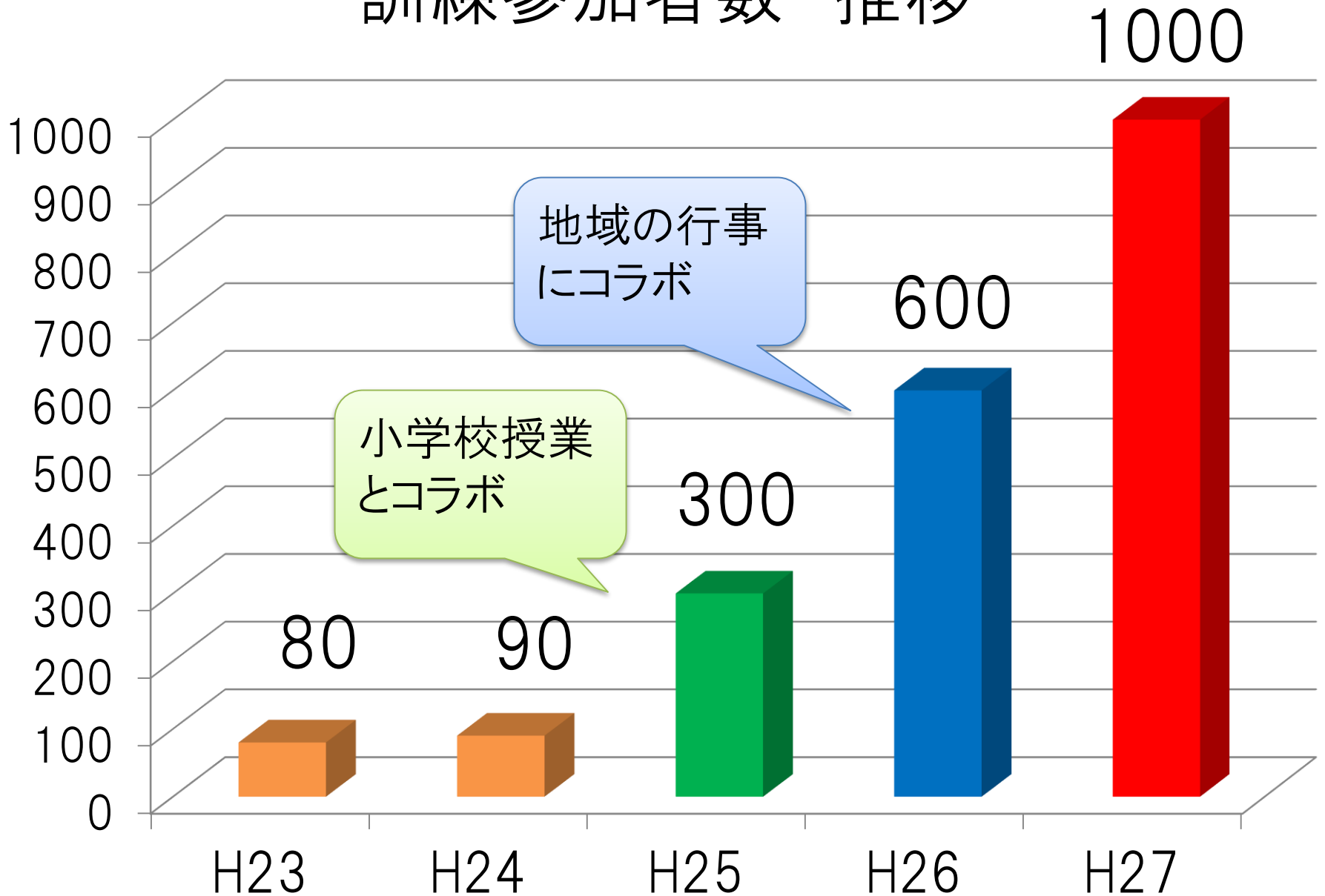
SOSネットワークのメールを受信



担当エリアを検査

担当エリアを検査後、SOS公開する

訓練参加者数 推移



私たち(岩倉)が目指すもの

行方不明

- 圏域単位 SOSネットワーク
- 行方不明を防ぐ訓練 <2種>
 - ①声かけ・普及啓発に主眼
 - ②捜索・情報伝達に主眼

京都市

都道府
県・全国

左京区

圏域

- 区単位 SOSネットワーク
- 交通機関との訓練

交通機関との訓練

H24 アオイタクシー

H25叡山電車

H26京都バス

H27京都市営地下鉄

【H28度】

京都バス・叡山電車

* 合同実施

京都市バス

特色

行方不明時のネットワーク
連絡先としての関わりでは
なく、バス・電車・営業所・
駅・運転手・駅員の方を巻
き込んだ訓練

警察・交通機関・介護関係
者が協力して対応訓練
(ロールプレイ)を行う。



ヘルプカード

私は若年性認知症です。あなたの支援を必要としています。私が困った様子でしたら、やさしく声をかけて下さい。



中西 郁郎



当事者の声が“常識”

<http://www.nhk.or.jp/>



Help Card

I am a juvenile dementia. We need your support. When it was the state that I was in trouble, please over the gently voice.



Ikuro Nakanishi



交通機関の立場から
叡山電鉄株式会社 運輸課 小磯正彦

- 地元の方では通称“えいでん”と呼ばれておりまして、営業路線は僅か14.4km、1日平均2万人弱の通勤・通学によります沿線住民の方の足、そして鞍馬・貴船・比叡山方面へ観光される方の足と言った二面性を持ちます中小私鉄です。
- 誠に恐縮ですが、私から認知症の方に関する対応談を2つ述べさせていただきます。



線路の軌道内に入る & 線路に石を投げる

3年ぐらい前から上記が見られた。昨年夏頃がひどく頻繁に家に行って注意をしてきた。

対応 ロープ ⇒ 看板 ⇒ ネット

運転手は注意はしており、姿が見えれば警笛を鳴らしたりしている。



滋賀県出身であり、県をまたがり、自転車で片道4時間かけて通ってた。年々、体力低下となり道中で転倒し救急搬送や、警察の方に保護してもらっていた。



本人の趣味:畑仕事

アパートの隣の空き地を畑として野菜を育てている。耕して出てきた石(畑にそぐわない)を捨てている⇒すぐそばに線路があり、“石を投げる“につながっている。



- 夫婦ともに認知症。世帯でサポート
- H28.4～畑のできるデイサービス、小規模多機能に変更。
- 本人:『畑仕事ができ、食事も作ってもらえて、
ここ(小規模多機能)は最高や!!』

認知症になっても外出し続ける!!

グループホーム岩倉長谷 外出レク
叡山電車でのお出かけ
秋の鞍馬寺&お茶屋めぐり 28.11.4



毎年恒例になってます。
1ユニット9名のグループホームの
皆さんが岩倉駅に到着。

平均介護度 3.2
97歳が3名 平均92.2歳



叡山電車さんに事前に連絡をして
おくと…

スロープを準備。駅停車後、運
転手さんが手際よく設置。

- 2両編成ですが、ワンマンの
お一人対応。
- 延滞なく出発!!



H28 検索訓練での 当事者の方からのメッセージ

- 当事者からの声
- Tさん91歳
- 元医師

● 私は認知症5年目です。介護をしていた妻も認知症で、よく徘徊していました。私と一緒にだと、徘徊するのですが、ヘルパーさんと一緒になら不思議と徘徊はしなかったんです…。支援する側の関わり方が実に上手かった。笑顔が絶えなかったんです。

“徘徊は追いかけてはダメ!!” 認知症カフェなどの居場所を作ること、自分らしい時間が過ごせる…そういうことが徘徊を防ぐ手立てだと思います。今日は、集まっているみなさんの笑顔が見れて良かったです。ありがとう。

まとめ

- 行方不明を防ぐネットワーク構築・訓練と、
認知症カフェ居場所作りは、両輪で進めていく必要がある。
- 交通機関を含めた地域の意識を変える
困った人 ⇒ 大事な接点、流れを作る、継続的に
心配な人・知っている人 ⇒ ケアマネ・介護事業所と共に
- 徘徊をどう止めるか、ではなく、
“認知症になっても外出が続けられる…地域に!!”
という視点に着目した取組みにシフトさせていく。

群馬県



高崎市

TAKASAKI CITY

平成29年 9月 8日 第2回
認知症地域支援体制推進全国合同セミナー
認知症介護研究・研修東京センター

認知症の人を地域で見守り支える仕組み作り

～オレンジサポーターによる見守り活動～



群馬県高崎市福祉部長寿社会課地域包括支援担当
田中 亜紀

Copyright (c) Takasaki City All rights Reserved.

高崎市の概況①



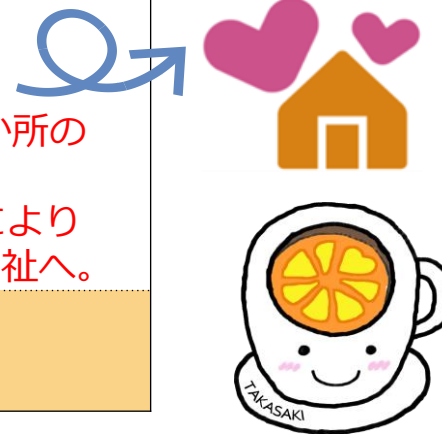
- ・ 関東平野の北端に位置し、古くから交通の要衝である商工業都市
- ・ 面積は約460km²
- ・ 平成18年1月23日に倉渕村・箕郷町・群馬町・新町と、同年10月1日に榛名町と、平成21年6月1日に吉井町と合併
- ・ 平成23年4月1日に中核市に移行。



高崎市の概況②

日常生活圏域	46圏域
地域包括支援センター	29か所 ・直営 1か所（基幹型センター） ・委託 28か所（地域型センター） ※H26年度までは直営9か所。H27年度より26か所の旧在宅介護支援センター受託法人へ委託。 さらに、H29年度から高齢者人口の増加等により2か所増設。「待つ」福祉から「出向く」福祉へ。
認知症地域支援推進員	32名 （基幹型4名、地域型28名） 委託包括 1か所に各1名配置

高齢者あんしんセンター
※地域型センターの愛称



高崎市の人口と高齢化率

	高崎市全体	旧高崎	榛名	倉渕	箕郷	群馬	新町	吉井
0-14	49,068	32,640	2,138	242	2,865	6,844	1,523	2,816
15-64	220,410	149,678	11,321	1,772	11,996	24,827	6,951	13,865
65歳以上	100,337	65,896	6,508	1,582	5,625	9,802	3,539	7,385
75歳以上	48,622	32,268	3,204	874	2,502	4,391	1,816	3,567
全人口	369,815	248,214	19,967	3,596	20,486	41,473	12,013	24,066
高齢化率	27.1%	26.5%	32.6%	44.0%	27.5%	23.6%	29.5%	30.7%
後期高齢化率	13.1%	13.0%	16.0%	24.3%	12.2%	10.6%	15.1%	14.8%

※H29.4.30現在（外国人含まない）

高崎市認知症施策推進計画

認知症施策推進計画



高崎市が目指している姿

「認知症になってもいつまでも尊厳を持って暮らせる高崎市」

- 1 認知機能低下の予防
- 2 早期診断・早期対応の体制強化
- 3 地域による支援体制の充実

具体的な取組み

- I 認知症ケアパスの普及
- II 早期診断・早期対応の強化
- III 地域での生活を支える医療サービスの構築
- IV 地域での生活を支える介護サービスの構築
- V 地域での日常生活・家族支援の強化**
- VI 若年性認知症施策の強化

V – 取り組み3
地域で認知症の人を
支える活動の支援

認知症の人を見守る取り組み①

GPS機器を使用した見守り

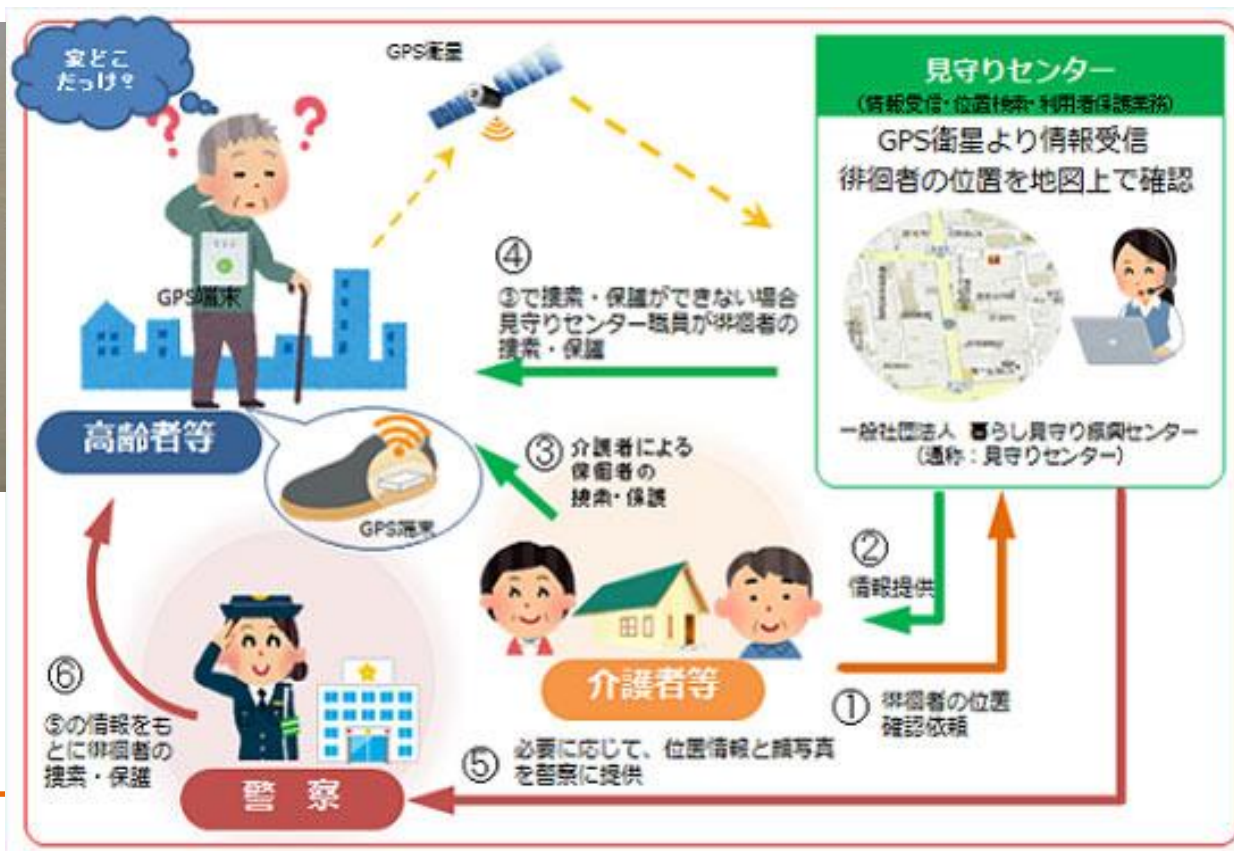
「はいかい高齢者救援システム」

平成27年10月開始



端末サイズ

縦44mm×横37mm×厚さ12mm
重さ30g



ポイント!

- ・ 本人・家族等の負担軽減：GPS機器の貸出から検索・保護までを無償化。見守りセンターを核とした救援の仕組み
- ・ 「認知症高齢者の徘徊対策に関する協定書」を市長と高崎警察署長との間で締結

認知症の人を見守る取り組み②

オレンジサポーターによる見守り

平成24年7月開始

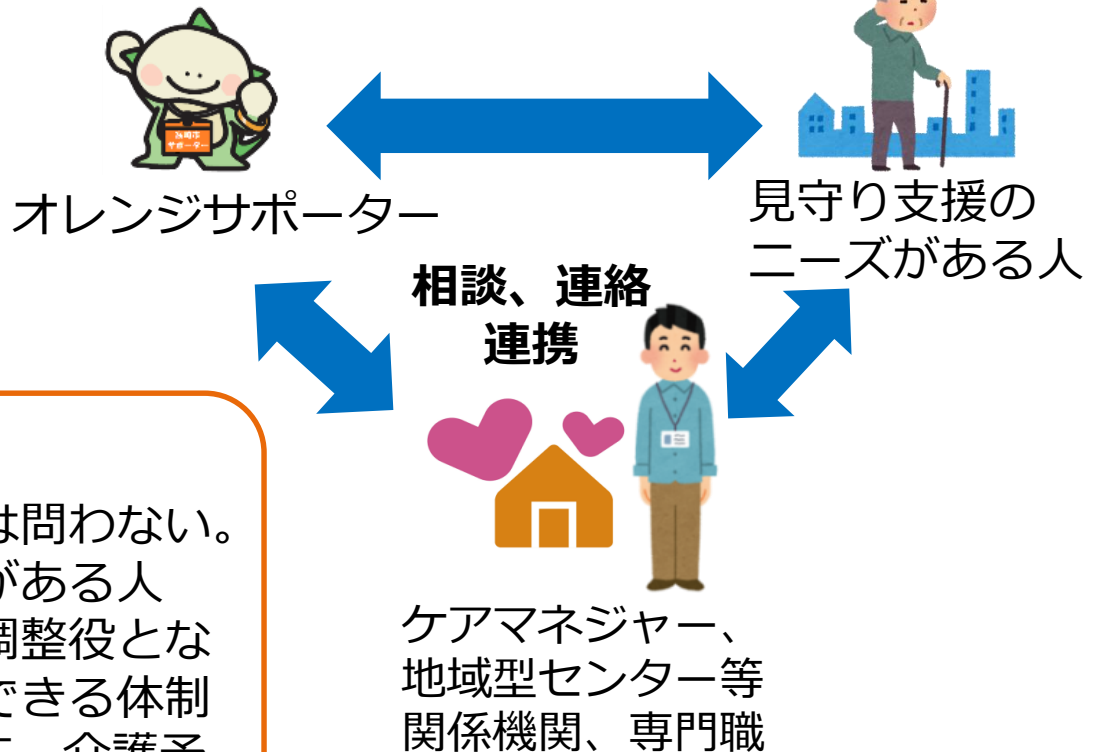
効果

- ・ 早い段階で変化に気づく
- ・ 必要な情報を提供
- ・ 孤独感を和らげ安心へ
- ・ 困りごとに対処、専門職につなぐ
- ・ 悪質な業者の接近を防止

ポイント!

- ・ 対象者：認知症の診断の有無は問わない。
見守り支援のニーズがある人
- ・ 認知症地域支援推進員が連絡調整役となりサポーターが安心して活動できる体制
- ・ サポーターの“得意”を活かして、介護予防（社会参加、生きがいや役割の創出）

定期的な訪問や声かけにより安否確認、
交流、話し相手など簡単な支援



資料『住民主体の生活支援サービス
マニュアル2 身近な地域での見守
り支援活動』を参考に作成

認知症サポーターとオレンジサポーターの養成

オレンジサポーターとは？

認知症サポーター養成講座を終了し、地域で活動する意思のある人で、認知症サポーターフォローアップ研修を受講した人

サポーター名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	これまでの養成者数
認知症サポーター	2,634	1,447	1,628	2,011	1,500	1,556	25,518
オレンジサポーター	308	0	108	0	0	0	416

平成27年度に活動の見直しを実施



平成29年4月時点での登録者数 **225人**



オレンジサポーターの活動の見直し

以前の活動

認知症高齢者宅の玄関先までの見守りや、所在不明者のメールを受けての町内巡回など、活動内容が限られていた。

高崎市
安心ほっとメール
「見守り情報」

その結果…

- ・ 支援をした事例は少数のみ
- ・ サポーターは地域で活動する意思と意欲があるのに、活躍できる場が少ない
- ・ 玄関先での見守りのみで、その他のニーズがあっても対応できない



見直し後

本人・家族の要望に寄り添った、より柔軟で、個別的な見守り活動に見直し、認知症に関する知識の普及啓発にも取り組むなど、活動内容を拡充。

- ・ 改めて活動継続の意向調査を実施、小学校区をもとに15ブロックに分け組織化。
- ・ 地域型センターの認知症地域推進員が連携調整役になって、情報を共有しながら地域の実情に合わせた活動ができるようにした。



オレンジサポーターの組織化

- ・ オレンジサポーターは、「高崎市地域づくり・支え合い体制推進ネットワーク協議会」の中の「認知症支援推進部会」に所属する。
- ・ 「認知症支援推進部会」はオレンジサポーターで構成され、認知症の人を支援するための活動内容と情報の共有を図る。

高崎市地域づくり・支え合い体制推進ネットワーク協議会

介護予防推進部会

個人や、地域での介護予防の取り組みを促進する活動
(介護予防サポーター)

認知症支援推進部会

地域での認知症の理解を深める活動や、認知症の人やその家族を支援する活動
(オレンジサポーター)

地域支え合い推進部会

暮らしに必要な生活支援等の体制を整えていく活動
(地域支え合いサポーター)

運営会議 (部会長1名、副部会長2名)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

15ブロック・・・



オレンジサポーターの組織図

認知症支援推進部会

地域での認知症の理解を深める活動や、認知症の人やその家族を支援する活動

「運営会議」

- ・ 部会長1名、副部会長2名をおく（各ブロックから選出されたリーダーの中から決める）
- ・ 部会の活動・運営に関することを検討する

運営会議（部会長1名、副部会長2名）

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

「ブロック会議」

- ・ 小学校区をもとに、15のブロック分け
- ・ 各ブロックで、リーダー1名、サブリーダー1名以上を決める
- ・ 各ブロックのオレンジサポーターが集まり、運営会議の検討結果などを共有したり、ブロックの活動について検討する



「連携会議」

地域型センターの認知症地域支援推進員が開催



オレンジサポーターの活動

活動	具体的な取り組み内容
<p data-bbox="104 311 537 488">1. 認知症に関する知識の普及・啓発</p> 	<p data-bbox="622 311 1785 416">認知症サポーター養成講座において、開催時の周知活動や当日の受付、寸劇等の運営を支援します。</p> <p data-bbox="622 482 1804 531">★サポーターさん自身も楽しみながら活動しています。</p> 
<p data-bbox="104 1002 537 1116">2. 認知症高齢者の見守り活動</p>	<p data-bbox="622 1002 1425 1182">認知症地域支援推進員と協働し、地域で暮らす認知症の方の見守り訪問等を行います。</p> 

活動

具体的な取り組み内容




3. 認知症に対応した地域のつどいの場の設置や運営の支援

地域のつどいの場において運営者のサポートや活動の支援、利用者の見守りや傾聴、声掛け等を行います。利用者の趣味活動や好きなこと等を一緒に行うなど生きがい活動を支援します。



★同じ地域で暮らしてきた住民・仲間だからこそできる話や、わかりあえる話があります。また、声をかけ合うことで生まれる安心感もあります。



活動	具体的な取り組み内容
<p>4. 市及び高崎市認知症地域支援推進員が行う事業への協力</p>	<p>市及び認知症地域支援推進員、地域型センターと連携し、協力して事業を行います。</p> 
<p>5. オレンジサポーターの養成研修における研修生の実習指導</p> 	<p>認知症サポーター養成講座を受講し、地域でオレンジサポーターとして活動したいと希望している人に対して、研修の一環として現場実習をする予定です。実習では、活動しているサポーターが、新サポーターと一緒につどいの場等に行き、現場の様子を伝える役割を担います。</p>
<p>6. その他、高崎市認知症施策の推進事業への協力</p> 	<p>市が開催する研修等を通じて、地域で活動するために必要な知識や技術の習得に努め、認知症施策の推進事業への協力を行います。</p>

認知症高齢者の見守り活動

Step1
見守り対象者の把握

Step2
導入の可否
の検討

Step3
活動内容の
検討

Step4
活動内容の
調整・確定

詳細
(地域
型の動
きの中
心に)

地域型センター
やケアマネ
ジャーが状況把
握を行う。

地域型セン
ターが情報収
集し、本人・
家族の要望を
確認して、※1
「見守り活動
確認票」を作
成する。
それに基づく
見守りの導入
に向けての判
断を行う。

地域型センタ
ーの認知症地域支
援推進員がオレ
ンジサポーター
との連携会議を
開催し、見守り
活動の内容と見
守りの実施体制
の検討、担当者
の選定を行う。
案をケアマネ
ジャーに伝える。

担当ケアマネ
ジャーは、調整後
に確定した見守り
活動をケアプラン
に位置づけ、地域
型センターに報告
する。
地域型センターは、
担当するオレンジ
サポーターに伝え、
※2「見守りプラ
ン」を作成する。
その他に、民生委
員等関係者にも報
告する。



Step5
顔合わせ

Step6
見守り活動
の実践

Step7
活動報告書
の記載

Step8
活動報告書
の提出

詳細
(地域
型の動
きを中
心に)

地域型センターがオレンジサポーターとともに訪問、またはサービス担当者会議に同席し、本人・家族との顔合わせを行う。



地域型センターが作成した※2「見守りプラン」に基づき、本人・家族の要望に寄り添った、より柔軟で、個別的な見守り活動を行う。

オレンジサポーターは、月ごとの活動回数を報告書に記載しておく。訪問活動時に気になったこと・いつもと違う様子が見られたときは、その都度地域型センターに連絡する。

活動報告書は、年度末に地域型センターへ提出する。

見守り活動確認票 (※1)

地域型センターが情報収集し、本人・家族の要望を確認して作成します。これに基づき、オレンジサポーターの活動内容・体制について検討します。

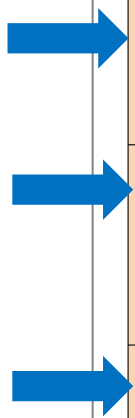
主な項目

○緊急時の家族等の連絡先

○本人の状況
(見守り活動が必要であると判断した状況)

○本人・家族が希望する見守り活動の内容
(オレンジサポーターに希望する内容と希望しない内容)

記入日	28年 3月 15日		記入者氏名	群馬 高子		
対象者	フリガナ	タカサキ ハナコ	生年 月日 年齢	明治・大正・昭和 10年 10月 10日 (80) 歳	性別	男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女
	氏名	高崎 花子				
	住所 連絡先	〒370- 高崎市高松町 35-1 電話番号 (027) 321-1319				
家族等の 連絡先	緊急 連絡先 ①	フリガナ	タカサキ ジロウ	続柄	二男	
		氏名	高崎 次郎			
	住所 連絡先	〒 - 高崎市〇〇町 1234 電話番号 : (090) 111 -2222				
		フリガナ		続柄		
	緊急 連絡先 ②	氏名			住所 連絡先	〒 - 電話番号 : () -
		フリガナ				
緊急 連絡先 ③	氏名		住所 連絡先	〒 - 電話番号 : () -		
	フリガナ					
本人の状況 (見守り活動が必要 だと判断した状況)	<p>独居で生活しているが、半年前から物忘れが目立ち始め、毎月参加していたサロンも休みがち。ゴミ出しの日も忘れることが多くなり、出し忘れたゴミが台所にそのままになっている。長男は県外在住。二男が市内に住んでいるが、独身で仕事が忙しく月に1~2回程度しか訪問できない。買い物や調理、洗濯などは一人でやえ、独居生活を継続することは可能な状況ではあるが、一日中一人で過ごすことが多いため、定期的な声かけ、見守り及び外出の機会を増やす支援が必要である。</p>					
本人・家族が希望する 見守り活動の内容	<p>(希望しない内容がある場合には、併せて記載してください。)</p> <p>【本人】一日中一人で過ごしているため、話し相手になって欲しい。趣味の編み物を一緒にしたい。サロンや認知症カフェなど、集いの場所に参加したい。でも、一人では参加することが難しくなってきたため、一緒に参加してもらいたい。 ゴミ出しの日を忘れることが多くなった。ゴミ出しの日に声をかけてもらいたい。</p> <p>【家族】仕事が忙しくなかなか訪問できない。地域のオレンジサポーターさんの力を借り、今の生活を続けて欲しい。</p>					



見守りプラン（※2）

地域型センターが作成し、オレンジサポーターと共有します。

主な項目

○担当のオレンジサポーター氏名

○見守り活動の内容

曜日

時間帯（午前または午後）

内容

○同意欄

見守りプラン（記載例）



プラン作成日	28年 4月 1日		
フリガナ	タカサキ ハナコ	住所 連絡先	〒370-3501 高崎市 高松町 35-1 電話番号：(027) 321-1319
氏名	高崎 花子様		
見守り開始日	28年 4月 8日（金）		
担当の オレンジ サポーター	長寿 太郎（月・水） 安心 咲子（水・金）		高齢 福美（月・金）
見守り活動の 内容	曜日	時間帯	内容
	月	午前・ <u>午後</u>	・話し相手 ・第1月曜日は地区のサロンへ一緒に同行する
	水	<u>午前</u> ・午後	・話し相手 ・ゴミ出しの確認
金	午前・ <u>午後</u>	・話し相手 ・趣味の編み物を一緒にする（花子さんに教えてもらう） ・第3金曜日は認知症カフェへ一緒に参加する	

上記のプランに基づき、高崎市オレンジサポーターに見守りを依頼します。
また、高齢者あんしんセンターが、利用者および家族等の個人情報について、見守りの実施に必要な範囲で、担当するオレンジサポーター、担当民生委員、居宅介護支援事業者その他関係する者と情報を共有することに同意します。

平成 28年 4月 1日

氏名（自署） 高崎 花子

本人の署名が難しい場合の代筆者（ご家族等）

氏名 高崎 次郎（続柄：二男）

問い合わせ先・連絡先
高崎市高齢者あんしんセンター（〇〇〇〇）
電話：（ 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 ）
担当者：（〇〇）

きっかけ

地域型センター
(高齢者あんしんセンター)



地域の実態把握訪問
で出会い、勧めた。



医療機関

脱水で入院。
今後が心配。

ケアマネジャー



一人でいると食生活
も偏る。人の目が届
くようにしたい。

民生委員



サロンの日を間違え
たり、季節感がない
服装で心配。

家族の声



- ・よく来ていた友人が来られなくなつたので。
- ・デイサービスを利用しているけれど、家で一人の時間も長いから心配。
- ・生活に楽しみを持ってもらいたい。

本人の声



- ・夫が亡くなってから出かける気になれない。
- ・デイサービスには行きたくない。人が大勢いるところは苦手。



活動の内容

- ・おしゃべりを楽しむ
- ・服装を気にかける
- ・天気・体調が良いとき散歩に同行する
- ・水分、食事がとれているか声をかける



介護サービスを使っても
使っていなくても
認知症の診断を受けていても
いなくても
地域の仲間とつながろう！



家族の声

- ・よく話を聞いてくれるし、本人も楽しそうで嬉しい。
- ・人が来てくれるだけで安心。



サポーターの声

- ・本人について：症状が落ち着いた気がする。笑顔が出てきて、表情が明るくなった。
- ・活動について：相手が女性の場合は、女性サポーターの訪問が良いようだ。認知症地域支援推進員が調整してくれて、顔合わせをしたので安心。みんなで協力して見守っている。他の曜日にも散歩のついでに寄って声かけしてます！



課題と今後の取り組みの方向性

① オレンジサポーターの見守り活動についての理解

認知症の人に何か特別な対応・特別なことをしなければならないという誤解活動が柔軟になったゆえに、「何をどこまでしたらよいのかわからない」



見守り活動における共通理解、イメージの共有
“本人・家族の視点”という考え方

② オレンジサポーターの不足・地域による偏り

地域（ブロック）によっては、見守り活動をするサポーターの人数が少なく、見守りを希望する人がいても活動できない、またはローテーションが組めない



人材確保のための継続的なオレンジサポーターの養成
認知症サポーター養成講座との連携

③ サポーターの周知不足

見守り活動を提案した際に、サポーターのことを知らない地域住民は受け入れを躊躇したり、ヘルパーと誤解。



住民へのオレンジサポーターの周知

第7期計画の策定

第7期計画（案）

基本理念 「住み慣れた地域でいきいきと輝きながら暮らせる安心社会の実現」

- 基本方針
- 1 地域包括ケアシステム構築に向けた地域共生社会の推進
 - 2 認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進
 - 3 制度の持続可能性を考慮した質の高い介護サービスの推進

新オレンジプラン

- I 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- II 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- III 若年性認知症施策の強化
- IV 認知症の人の介護者への支援
- V 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- VI 認知症の予防法等の研究開発及びその成果の普及の推進
- VII 認知症の人やその家族の視点の重視

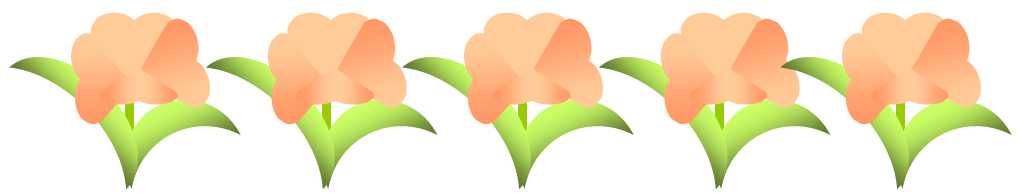
**V-④安全確保
…見守り活動**

土台は普及・啓発

**地域住民の意識や
見守る力が向上**

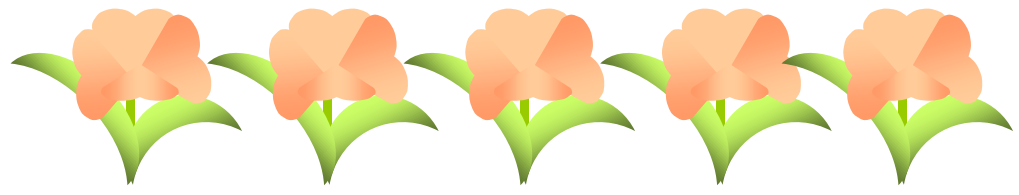
**自分たちができる
ことから取り組む！**





みんなでつながろう！
あそびの輪！

ご清聴ありがとうございました



認知症介護指導者と 認知症地域支援推進員の取り組み ～大阪府高槻市の場合～

2018/2/23

於：認知症介護研究・研修東京センター



社会医療法人 愛仁会
高槻北地域包括支援センター
認知症地域支援推進員
辻田裕之

※ 使用している写真は掲載許可を得ています

もし、自分が認知症になったら・・・

**自分のまちで
自分は、どう暮らしていけるだろうか？**





大阪府高槻市

大阪と京都の中間にある中核都市 町と自然が融合しているのが特徴です





はにたん

所属：高槻市

**「はにたん」は高槻市が誇る
今城塚古墳で生まれたんだよ。
誕生日は高槻市の「ハニワの日」
の8月20日。**

**性格は誰にでも優しくお人好しで、
みんなが集まるイベントが大好き。**

ゆるキャラグランプリ2016 第9位

高槻市の認知症高齢者数の推計

【大阪府高槻市】

総人口 353,540人 (平成29年9月末)

高齢者数 100,766人 (平成29年9月末)

高齢化率 28.4%

そのうち約15%が認知症…



15,000人以上！ (推計)

高槻市

認知症施策総合推進事業の紹介



認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

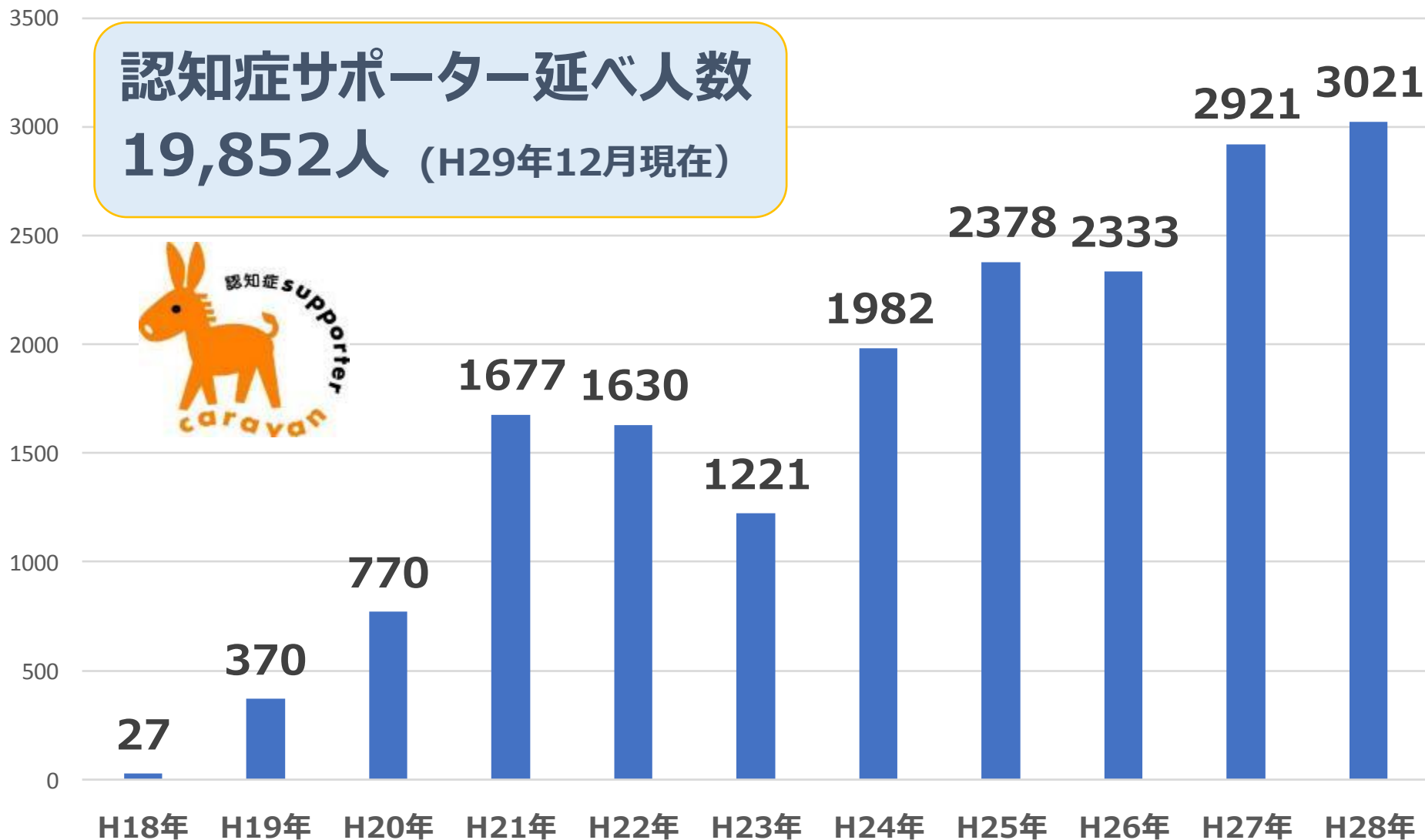
- ・市民公開イベントの企画・実施
 - ・地区福祉委員、民生委員、地域住民などを対象に啓発活動を随時実施
 - ・認知症サポーター養成講座
 - ・キャラバン・メイト養成
- (平成29年12月現在204名)



認知症サポーター養成人数

認知症サポーター延べ人数

19,852人 (H29年12月現在)



認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

- 認知症初期集中支援チーム**
(平成29年7月より設置)
- 認知症地域支援推進員**
(平成23年より設置)
- 認知症ライフサポート研修**
(平成28年より実施)

高槻市認知症地域支援推進員設置等事業

高槻市内地域包括支援センター 全12か所の内
高槻北地域包括支援センター
五領・上牧地域包括支援センター 2カ所に委託



医療・介護の専門職、地域の人、
認知症の当事者、家族などの協力のもと
高槻市と連携し

**「認知症の人に
やさしい地域づくり」**
を推進する役割



高槻市認知症施策総合推進事業

平成23年 **認知症対策連携強化事業**から
高槻市認知症施策総合推進事業へ
(認知症連携担当者から認知症地域支援推進員へ)

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するために、地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、当該推進員を中心として、介護と医療の連携強化や、地域における支援体制の構築を図ることを目的とした事業

認知症地域支援推進員の役割

- ・地域の人・取り組みを繋ぐ連携の推進
- ・認知症の人への理解と対応力を高める
- ・あくまでも本人主体！本人・家族の声を施策に反映

認知症
サポーター
養成講座

認知症
ケアパスの
普及・啓発

初期集中
支援チーム
との連携

家族会
支援

若年の
人の
支援

認知症
カフェ立ち
上げ支援

初期集中
支援チーム
との連携

多職種連
携研修の
企画・実施

個別
相談

ケアマネ
支援

認知症対応力
向上研修の企
画・実施

などなど

大阪府認知症介護指導者と 認知症地域支援推進員の協働 一部を紹介



安心・声かけ運動とは

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域をつくるために「認知症サポーター養成講座」「認知症徘徊搜索模擬訓練」を通して、参加者が認知症について正しく理解し、地域でのつながりをもってもらうことを目的としています。



高槻市 認知症の方と介護者への支援

□ 徘徊高齢者SOSネットワーク

認知症高齢者等が徘徊行動により行方不明になった場合に備えて、情報を事前登録し、行方不明時には捜索協力機関に情報提供を行い、迅速な発見を目指す

□ 徘徊高齢者家族支援サービス

位置検索システム（GPS）端末の貸し出し

□ 見守り安心ネットワークシールの配布

安心・声かけ運動を始めた経緯

- 平成24年 「安心して徘徊できる町」を目指す

福岡県大牟田市への視察

人口約10万人

認知症が

まれるケース

見守りを行つた

毎年約2000人の市民が参加している。

巻き込

ている。

**ポイントは
地域住民が主役！**

**人口規模の違いや
近所付き合いが薄れている
都市部では
そのまま導入するのは難しい…
どうすれば…**



**行政、認知症地域支援推進員
大阪府認知症介護指導者らが
試行錯誤しながら…
「ふだんの暮らしの中で見守る
目を増やしていきたい」**

平成25年度	2箇所	寿栄・川添地区 日吉台地区
平成26年度	3箇所	寿栄・川添地区 地蔵地区

安心・声かけ運動は計13回実施

高槻市高齢者福祉計画・介護保険事業計画でも
訓練の実施が推奨されています

平成28年度	3箇所	北清水地区 赤大路小学校 富田小学校
平成29年度	1箇所	長岡京市主催 (高槻市・島本町・大山崎町共催)

～認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～

学校教育等における、認知症の人を含む高齢者への理解の推進



小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催



学校で認知症の人を含む高齢者への理解を深める
ような教育を推進

今後進んでいく少子高齢化に対応できる地域を
作るには、児童に対しての教育が非常に重要！

高槻市立富田小学校・赤大路小学校 いまとみらい科

学習ポイント① いまとみらい科の設定

総合学習→いまとみらい科へ
「家庭（命）」「学校」「地域・社会」をテーマに
小・中の9年間で社会参画力の育成を目指す。

学習ポイント② S-RPDCA学習サイクル

自分たちの立ち位置を見つめる（S）→広い視野から学習課題を見つける（R）
計画（P）し、実行（D）する。結果を振り返る（C）→次の学習へ活かす（A）



「ほっとタウン

～自分たちができること」をテーマに
15コマずつ授業を行うことに

どのようなカリキュラムが効果的かな？



**大阪府認知症介護指導者さんにも
取り組みに関わってもらおう！**

**授業で児童に
伝えたい内容**



**学校の方針：
困っている人に目を向け
地域に関わる意識付け**

- 児童に高齢者の気持ちを知ってもらい、認知症の病気と対応について学んでもらう
- 児童が、困っている人に対して必要なサポートをする方法を学び、地域でどのように関わっていくかを主体性をもって考えてもらう機会をつくる

赤大路小学校認知症講座 ～全5回のカリキュラム内容～

- ① 高齢者の気持ちを学んでもらう
(高齢者擬似体験)
- ② 認知症の病気と対応について学んでもらう
(認知症サポーター養成講座)
- ③ 気付きの視点を養い困っている人への接し方を
学んでもらう (寸劇を通して)
- ④ 実際に地域にでて困っている人に声をかける体験して
もらう (安心声賭け運動)
- ⑤ 地域で困っている人に対し、自分たちに何ができるの
かを、主体的に考え、取り組む機会をもってもらう

高齢者の気持ちを学んでもらう(高齢者疑似体験)

年をとるって
大変…

眼が見えないと
怖い！！

2016/01/13

2016/01/13

平成28年1月13日

児童に「自分たちに何ができるか」を考えてもらう



認知症の病気と対応についての知識を持ってもらう

(認知症サポーター養成講座)



認知症になっても
できる事は
たくさんあるんだ～

認知症は特別な
病気じゃないんだ



**オレンジング！
サポーターになった！**

認知症の事を
知ったので優しく
接してあげたい

2016/01/15

平成28年1月15日

気づきの視点を養い困っている人への接し方を学んでもらう

正面からゆっくりと
話しかけなきゃ...

あんた誰やった？

平成28年1月15日

安心声かけ運動実施 (徘徊模擬訓練)

～実際に地域に出て
声をかけてみよう～

サポート役



認知症役

困っている人役



どちらに行かれるん
ですか？

平成28年2月3日

地域の協力のもと行っています

- 地域包括支援センター
- 民生委員・児童委員
- 地区福祉委員
- セーフティボランティア
- PTA
- 地域の医療機関
- 地域の介護保険事業所
- 福祉用具業者
- 認知症介護指導者
- 社会福祉協議会
- 高槻警察署
- 高槻市役所 など

赤大路小学校安心声掛け運動 (実施のご案内)



日程: 平成29年2月7日(火)
時間: 14:00~15:30

赤大路小学校5年生「いまとみらい科」において、認知症の人を含む高齢者への理解を深める授業に取り組んでいます。授業の一環として、認知症の人などが自分たちが暮らす地域の中で困っていた場合、それに気づき、声を掛けるなどの必要なサポートをすることが実践できるようになる訓練(安心声掛け運動)を上記の日程で行います。ご理解・ご協力のほど宜しくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

高槻市立赤大路小学校
電話: 072-695-3157

自分たちが困っている人に対し、 何ができるかを考えてもらう



バスに乗った時は、高齢者
や妊婦さんに席をゆずろう



平成28年2月10日

学校の取り組みと今後の目標を発表する 機会をもってもらおう

やさしい声かけをテーマにしたポスターを
駅や店にお願いして貼ってもらおう！



平成28年2月10日

児童たちの実践

週一回、授業時間や放課後に、オレンジリングをつけて
班ごとに地域を探索する

みんなでゴミ拾いをする

すぐしまってしまう踏切や段差の大きい階段に気づいたが
バリアフリーにするのは自分達では無理
しかし、つまづいてこけないようにゴミを拾うことはできる

『困っている人を助ける d a y』として、
週一回オレンジリングを付け地域を探索し、
ゴミ拾いをするという活動をする事になった



認知症地域支援推進員から見た認知症介護指導者

行政の認知症施策は、行政担当者や
認知症地域支援推進員が、その都度
様々な機関と連携して推進していますが・・・。
地域の実情を把握している相談先はなかなかない
ので、**思い悩むこともいっぱい**です・・・。



認知症地域支援推進員から見た認知症介護指導者

高槻市の認知症介護指導者さんは、
あるときは認知症施策における**スーパーバイザー**、
あるときは**講師**や**ファシリテーター**、
そして一緒に取り組みを行う**仲間**として
とっても**心強い存在**です。



認知症介護指導者に期待すること

認知症介護指導者は、

地域におけるとっても大きな資源！！

必要としている人が沢山います！

一人じゃ何もできません！

是非、行政や認知症地域支援推進員と

繋がって欲しい

今後にむけて

あくまでも本人主体(一人一人の支援を大切に)

若年性認知症対策強化/認知症サポーターの活躍の場/キャラバン
メイト連絡会/家族会・認知症カフェなどの後方支援

個々の支援から地域課題を検討・資源の活用へ

認知症ケアパスの整理・充実

本人と家族を支える多様な連携の場づくり

医療・介護・民間企業・一般市民など顔の見える関係づくりのための
場確保/医療と介護の連携強化に向けて研修会の開催

ご清聴ありがとうございました！



RUN伴2016 高槻市役所前にて

住民主体の徘徊模擬訓練を通じた 認知症の普及啓発



大分県由布市

由布市社会福祉協議会 太田 加奈子

＜由布市の基礎情報＞

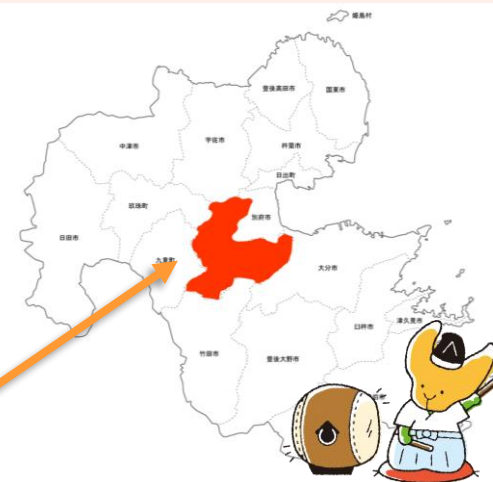
人口	35,069人	65歳以上人口	11,214人
高齢化率	31.9%	第6期介護保険料	5,990円
要介護認定者数	15,452世帯	要介護認定率	20.4%
日常生活圏域数	3	包括数	委託：1ヶ所

認知症地域支援推進員数： 1名（委託：1名）

地域の特徴：

大分県の中心部に位置し、平成17年に以下の3町合併により誕生。

- ・ 県庁所在地の大分市に隣接し、人口増加が著しい挾間町
- ・ 農業と伝統芸能神楽が盛んで、高齢化がとまらない庄内町
- ・ 全国有数の観光地として、国内外から注目を集める湯布院町
雄大な自然と受け継がれる歴史と文化の街



大分県由布市



由布市の認知症施策（事業）の全体像

全体方針

認知症の人及びその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる



27年度

認知症の人を支える輪を広げる

28年度

認知症の人を支える関係者・関係機関の連携強化

29年度

自発的な取り組みができるような人・機関が増える

由布市健康増進課

認知症総合推進事業
（認知症地域支援推進員の設置、
認知症初期集中支援事業）
オレンジカフェの推進
認知症ケアパスの確立

由布市福祉課

由布市あんしんネット
認知症キャラバン・サポーター
認知症コーディネーター

由布物忘れネットワーク

オレンジネットワーク推進会議
物忘れネットワーク研修会
由布市徘徊模擬訓練
RUN伴

その他社会資源

認知症の人と家族の会
オレンジカフェ 由布（健寿荘）
地域の熱心な団体・住民



スタート 由布市の認知症ネットワークの歩み

かかりつけ医が認知症を正しく診断できるように、独自でオレンジドクター制度を取り入れる。

多職種で認知症について考える由布物忘れネットワーク研修会を開催

事業所の枠を越えて地域活動を行なう認知症コーディネーターを養成

由布物忘れネットワークの活動組織

代表

地元医師会の地域保健部会医師

事務局機能

認知症地域支援推進員

活動

年4回、多職種連携の研修会を開催



由布オレンジネットワーク推進会議



医師、大学教員、由布市行政、中部保健所長、地域包括支援センター、老施協会長、認知症看護認定看護師、医療職、介護職、認知症地域支援推進員など15名程度で構成

- ① 由布物忘れネットワーク研修会の企画・調整
- ② 認知症コーディネーター育成研修の企画・運営
- ③ 徘徊模擬訓練の企画・運営
- ④ 由布市あんしんネットの構築に向けた検討



アイデア満載、笑い満載の会議



由布市の認知症ネットワークの歩み②

医師会主導で立ち上がったネットワークに、市が支援する形で、認知症地域支援推進員を委託配置

メリット：今までのネットワークの流れがわかっており、活動を当初から行いやすい。

デメリット：事業主体が曖昧になりがちであり、調整に時間を要することがある。

対象	事業／取組み	連携機関	役割の分類
医療・介護保険事業関係者	由布物忘れネットワーク研修会	地元医師会、由布ルンジネットワーク推進会議、市役所、保健所、介護保険事業所	多職種連携 対応力向上
由布市住民	認知症ケアパス作成	市役所、保健所、老人クラブ、地域包括支援センター、介護支援専門員協会、	啓発 相談体制構築
認知症の人とその家族 地域の人々	オレンジカフェの開催	認知症の人と家族の会、 民間カフェ（場所の提供）	啓発、当事者支援 相談支援
行方不明の恐れのある人 協力機関	由布市あんしんネット	警察、医療機関、介護保険事業所、ケアマネ協会、民生委員、商店等	ネットワーク構築、 当事者支援
由布市内の 小中学生	学校教育機関における 認知症サポーター養成	教育委員会、小・中学校、キャラバンメイト	啓発
庄内原住民	★由布市徘徊模擬訓練	地元医師会、市役所（防災安全課、地域振興課）、 教育委員会、商工会、由布ルンジネットワーク推進会議	啓発、 ネットワーク構築
認知症に理解があり、普及啓発の意欲のある人	由布RUN伴	地元医師会、由布ルンジネットワーク推進会議、市役所、地元ラジオ局、認知症の人と家族の会、介護保険事業所、自治委員等	啓発、当事者支援

徘徊模擬訓練の流れと推進員活動①

1) 企画・運営

由布オレンジネットワーク推進会議・由布市・由布市社会福祉協議会の三者で開催

2) 目的と特徴

平成26年度より、1年に1回実施。地域の人々が、認知症と徘徊に対し正しい知識を得るとともに、徘徊する認知症の人に基本的な対応にそって適切に声をかけ、安全を確保することができる。

- ◎ 住民主体の訓練・地域の特性を活かした訓練
- ◎ 「気づく」⇒「不安を与えない声かけ」を繰り返し体験
- ◎ 由布市が独自に育成した由布市認知症コーディネーター36名が訓練を支える



月	事業への取り組み	関係機関・協力者
4月	①訓練日時とエリアの決定。	①由布オレンジネットワーク推進会議
5月	②第3回由布市徘徊模擬訓練実施要領（案）を作成 ③事前準備と訓練広報の方法について決定。	③由布オレンジネットワーク推進会議、認知症コーディネーター
6月	④訓練区域内にて広報（近所の商店・医療福祉機関等36ヶ所） ⑤当日スタッフとなるボランティア募集、自治回覧にて参加者の募集 ⑥当日の流れと事例役の設定を検討 ⑦市教育委員会に中学生の参加依頼。高校へ生徒参加依頼。 ⑧当日の安全対策、参加者を増やす方策について →無料の出店をする方向で決定。保健所へ出店許可申請。	④認知症コーディネーター ⑤市役所、ケアマネ協会、老施協 ⑥由布オレンジネットワーク推進会議 ⑦市役所、教育委員会、高校校長 ⑧由布オレンジネットワーク推進会議、商工会、社協スタッフ
7月	⑨地域住民説明会を実施（認知症サポーター養成講座） ⑩事例役・ダミー役と打ち合わせ ⑪最終確認と参加人数調整、当日の役割分担の確認	⑨認知症コーディネーター ⑩キャラバンメイト

徘徊模擬訓練の流れと推進員活動②



	訓練本部 (警察・運営スタッフ・捜索隊としての参加者)	ボランティア 46人 (地区住民になりきってごみ拾いをし、捜索隊に情報を伝える人)	事例役 8人 (捜索願がだされた本人とそのファミリー役)
8:30	受付開始	概要説明	集合・着替え等
9:00	開会挨拶	検索願からその人の特性を話し合い、効率のよい捜索方法を班ごとに検討します。	
9:10	訓練実施説明		
9:15	捜索届受理 (寸劇)		
9:25	捜索方法の検討	ゴミ拾い開始	区域内徘徊開始
9:40	訓練区域発表	介護保険事業所職員や学生ボランティアが地域住民になりきって、ごみ拾いをしながら、事例役の人の情報を捜索隊に伝えます。	
9:55	声かけ確認・出発		
10:00	区域内捜索		
10:30		声かけは住民が行い、認知症コーディネーターは促しを行います。	
11:00	反省会 ・各グループより感想 (住民1名、認知症コーディネーター1名) ・ボランティアの感想 ・講評 (警察・オレンジドクター・消防団)		



※反省会の時に、初めて一堂に会します。それまでは顔を合わせないように配慮しています。推進員は全体の流れの管理と司会進行を行います。

徘徊模擬訓練で工夫した点

① 地域をよく知る認知症コーディネーターが活躍

訓練区域内のお店や同町内の医療機関等を1件ずつまわり訓練の趣旨を説明。
参加協力ポスターの掲示を依頼。

② 企画・運営を3者で行い、みんなでつくりあげる訓練

由布オレンジネットワーク推進会議
由布市役所
由布市社会福祉協議会

推進員は3者の間を調整し、
その組織の特性に働きかけることが役割。

③ 各班ごとに、地図と搜索届の情報をもとに搜索計画をたてる

➡『認知症≠目的もなく歩いている』の意識づけ。
搜索活動を行なう仲間として各班でのコミュニケーションの機会に



④ 子供～お年寄りまで多くの人に参加できる仕掛け

➡お菓子の無料配布と出店で誰でも参加しやすいように。
学生には参加証明書を発行。
➡安全確保のための行事保険の加入と健康相談を実施。



訓練参加者は212名と年々増加

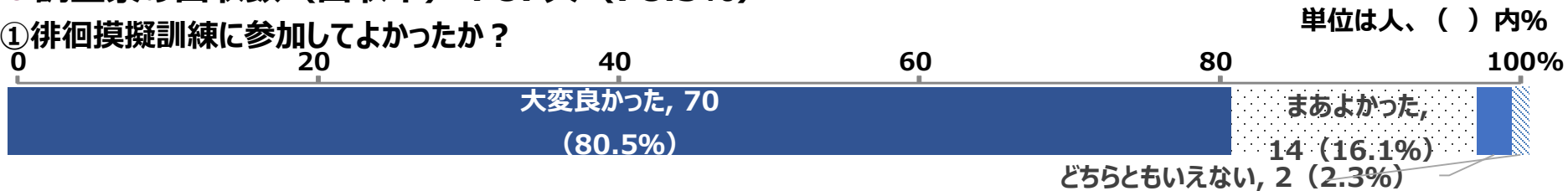
徘徊模擬訓練に対する評価と考察①

● 徘徊模擬訓練参加者内訳

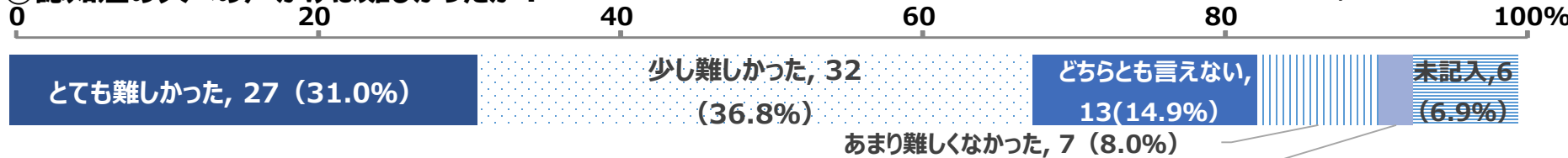
捜索班の参加者	人数	事例役等の参加者	人数
地域住民、消防団	38	事例役	4
認知症コーディネーター	23	情報提供者役	46
		111名	

● 調査票の回収数（回収率）：87人（78.3%）

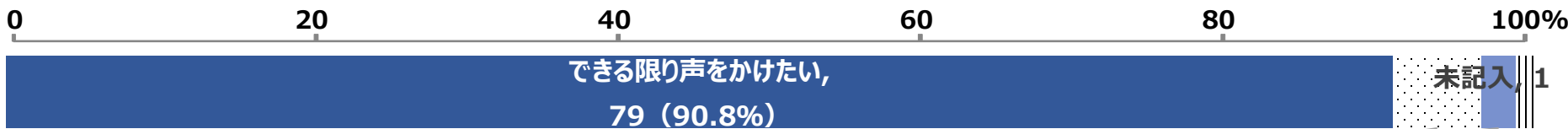
① 徘徊模擬訓練に参加してよかったか？



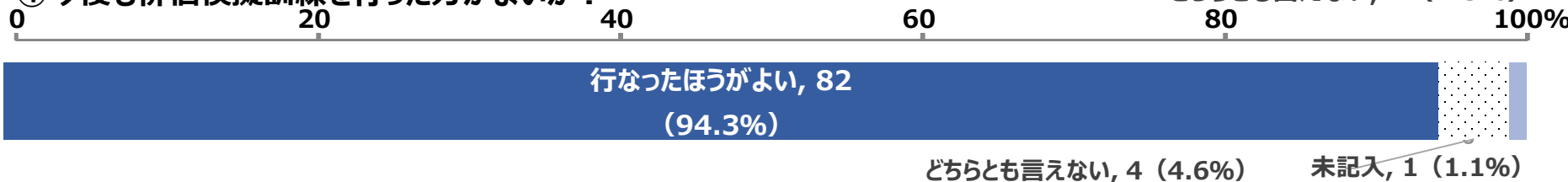
② 認知症の人への声かけは難しかったか？



③ 今後、徘徊と思われる人を見かけたら声をかけることができるか？



④ 今後も徘徊模擬訓練を行った方がよいか？



徘徊模擬訓練に対する評価と考察②

【10歳代】

・僕の家にも88歳のおばあちゃんがいるので、もしかしたらとっていました。皆の協力あっての町なんだとしみじみと感じた。

・子供たちや若い人に、認知症のことをもっと知ってもらい、どう話しかけるかを知識として少しでも知ってもらえるようにする。

【20歳代～80歳代】

・高校生がよく話をしてくれて詳しく話してくれた。積極的に話をしてよかったです。皆でやればできることがわかりました。

・過疎化、高齢化が進む中で、お互いに横のつながりを大切にして、認知症の方を見守っていきたいと考えます。

1) 全世代参加の実現

中学生～大学生までの学生参加

※昨年サポーター養成を小学校で受講した中学生がオレンジリングをもって参加

10歳代～80歳代まで、幅広い世代の参加によるコミュニケーション

2) 産学官民の協働連携

産…医療福祉関係者のネットワーク、商工会が出店の支援

学…地元の中・高・大学生の参加

官…行政の関係課を中心とした支援

民…消防団を含む地域住民の参加



認知症の人もそうでない人も、
みんなが支え支えられる由布市になりますように



全国の推進員さんへのメッセージ

認知症地域支援推進員の仕事は『0』を『1』にする仕事ではなく、『1』を探して『10』にしていく仕事ではないかと思います。そのためには、いろいろな人と出会い、つながっていくことが大切なんだと常々感じています。認知症の人や介護している家族も『1』であり、推進員同士も『1』であることを忘れずに、みんなで刺激しあって頑張りましょう。